

**平成 27 年度(2015 年度)**

**男女共同参画に関する市民意識・実態調査**

**報告書**

**平成 28 年(2016 年)3月**

**吹田市**



平成 27 年度(2015 年度)  
男女共同参画に関する市民意識・実態調査 報告書

調査の概要

1. 調査目的	-----	1
2. 調査方法	-----	1
3. 調査内容	-----	1

調査結果の分析

回答者の属性	-----	4
男女の平等や地域生活について	-----	6
介護について	-----	26
働くことについて	-----	30
性的いやがらせや配偶者間の暴力について	-----	39
メディアにおける表現について	-----	60
男女共同参画社会の実現について	-----	67
吹田市立男女共同参画センター デュオについて		76
自由意見	-----	81

資 料

調査票	
-----	--



# 調査の概要

## 1. 調査目的

吹田市では、行政・市民・事業者が協働して男女共同参画社会を実現するための基盤として、平成14年（2002年）に「吹田市男女共同参画推進条例」を制定し、この条例の目指すところを実現するために、3次にわたる「すいた男女共同参画プラン」を策定してこれに基づく事業を推進してきた。

この調査は、男女共同参画プランの推進状況を検証するとともに、第4次プラン策定に向けた基礎資料とするために実施した。

## 2. 調査方法

調査地域：吹田市全域

調査対象：市内に在住する20歳以上の人2,000人

調査方法：調査対象を無作為抽出し、配付・回収ともに郵便（発送10日後に礼状兼催告状を送付）

有効回答数：923人（有効回収率46.2%）

調査期間：平成27年10月15日（木）～11月13日（金）

## 3. 調査内容

回答者の属性	調査項目		
	問1 性別	問2 年代	問3 家族構成
	問4 結婚しているか	問4-1 配偶者は仕事をしているか	問5 一番下の子ども
男女の平等や地域生活について	問6 (1)～(8) 各分野において、男女の地位は平等か		
	問7 (1)～(7) 結婚・育児についての意見をどう思うか		
	問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方について		
	問9 (1)～(10) 家庭内の仕事の担当についてどれが望ましいか		
	問10 「仕事」「家庭生活」などの優先度の希望と現実		
	問11 社会・地域活動に参加しようとする時さまたげになること		
	問12 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと		
介護について	問13 家族の介護をどのようにしたいか		
	問13-1 自宅では主に誰が介護するか		
	問14 自分自身の介護をどのようにしてほしいか		
	問14-1 自宅で誰に介護してもらいたいのか		
働くことについて	問15 女性が職業を持つことについて		
	問16 (1)～(9) 職場で、性別によって差があると思うか		
	問17 女性が働き続けるために必要なこと		
	問18 再就職を希望する女性が再就職しやすくなるために必要なこと		

<b>性的いやがらせ や配偶者間の暴力について</b>	問 19	セクシュアル・ハラスメントだと思うこと
	問 20 (1)～(8)	セクシュアル・ハラスメントを受けたり聞いたりした体験
	問 21 (1)～(11)	次のようなことは配偶者・パートナー間の暴力だと思うか
	問 22 (1)～(9)	10～20 歳代に次のようなことをされたことがあるか
	問 23 (1)～(9)	配偶者から次のようことをされたことがあるか
	問 24	DV 被害を打ち明けたり相談した先
	問 24-1	相談しなかった理由
	問 25	DV 相談窓口として知っているもの
	問 26	DV を防ぐために必要なこと
	問 27	女性の人権が尊重されていないと感じること
<b>メディアにおける表現について</b>	問 28	メディアにおける人権尊重において問題と考えられる点
	問 29 (1)～(5)	メディアにおける性・暴力表現について
	問 30	メディアにおける性・暴力表現を制限する方法
<b>男女共同参画社会の実現について</b>	問 31	男女共同参画社会推進のために力をいれていくべきこと
	問 32 (1)～(17)	次の「ことば」や「ことがら」を知っているか
<b>吹田市立男女共同参画センターデュオについて</b>	問 33	吹田市立男女共同参画センター デュオを知っているか
	問 33-1	吹田市立男女共同参画センター デュオを利用したことがあるか
	問 33-2	デュオを利用したことがない理由
	問 34	デュオの講座で興味のあるテーマ

### この報告書の表示について

- グラフ内の数字は特記のない限り、百分比(%)であり、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このために百分比の合計値が 100.0 にならないことがある。
- グラフ内の「n」は、100%にあたる回答数(基数)である。
- 図表などではスペースの都合上、選択肢の文言を簡略化して表示している場合がある。
- 得られた割合p(%)には誤差が発生する。このサンプリング誤差は次の通り。(信頼度 95%)

#### ●サンプリング誤差

サンプリング誤差の単位は%

	p (%)→ n (サンプル数)↓	1	10	20	30	40	50
		99	90	80	70	60	50
総数(全体)	923	0.7	2.0	2.6	3.0	3.2	3.3
男 性20歳代	31	3.6	10.8	14.4	16.5	17.6	18.0
男 性30歳代	50	2.8	8.5	11.3	13.0	13.9	14.1
男 性40歳代	76	2.3	6.9	9.2	10.5	11.2	11.5
男 性50歳代	56	2.7	8.0	10.7	12.2	13.1	13.4
男 性60歳代	80	2.2	6.7	8.9	10.2	11.0	11.2
男 性70歳以上	104	2.0	5.9	7.8	9.0	9.6	9.8
女 性20歳代	32	3.5	10.6	14.1	16.2	17.3	17.7
女 性30歳代	85	2.2	6.5	8.7	9.9	10.6	10.8
女 性40歳代	106	1.9	5.8	7.8	8.9	9.5	9.7
女 性50歳代	87	2.1	6.4	8.6	9.8	10.5	10.7
女 性60歳代	94	2.1	6.2	8.3	9.5	10.1	10.3
女 性70歳以上	118	1.8	5.5	7.4	8.4	9.0	9.2

#### 表の見方

「女性 30 歳代」の回答(p)が「30%(または 70%)」であった場合、その誤差はプラスマイナス 9.9%(約 0.1)となっている。つまり、30%という回答の値は 27%(30-(30×0.1)%)と 33%(30+(30×0.1)%)の間の数値を代表していることになる。(ということが95%の信頼度でいえる)

### 比較のグラフについて

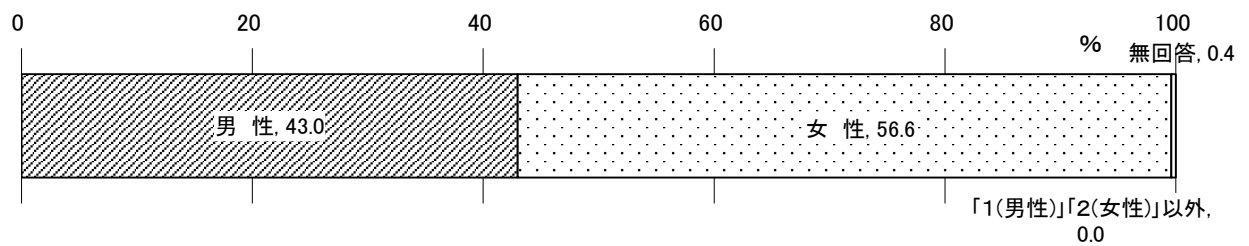
- 「市前回」とあるのは、平成 22(2010)年9月に本市が実施。調査方法は、本調査と同じ。有効回答 896
- 「大阪府」とあるのは、平成 26(2014)年7月に大阪府が実施。郵送法。有効回答 683
- 「内閣府」とあるのは、平成 24(2012)年 10 月に内閣府が実施。面接法。有効回答 3,033

# 調査結果の分析

## 回答者の属性

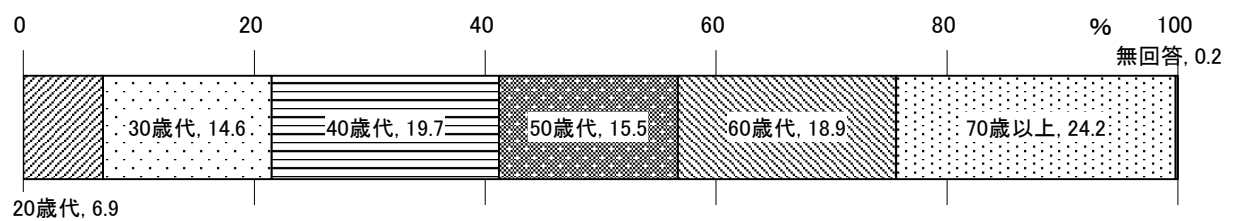
### 問1 性別

(n=923)

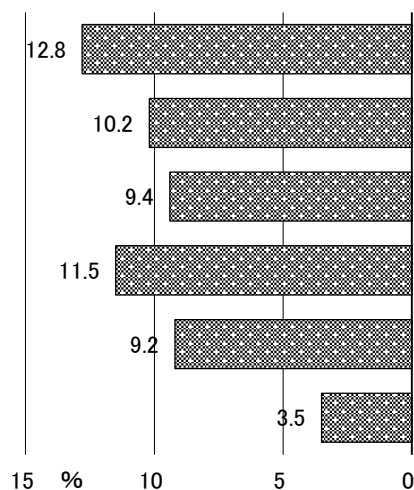


### 問2 年代

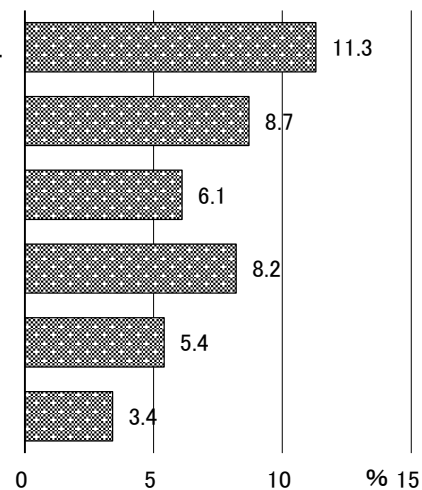
(n=923)



### 女性 (n=522)

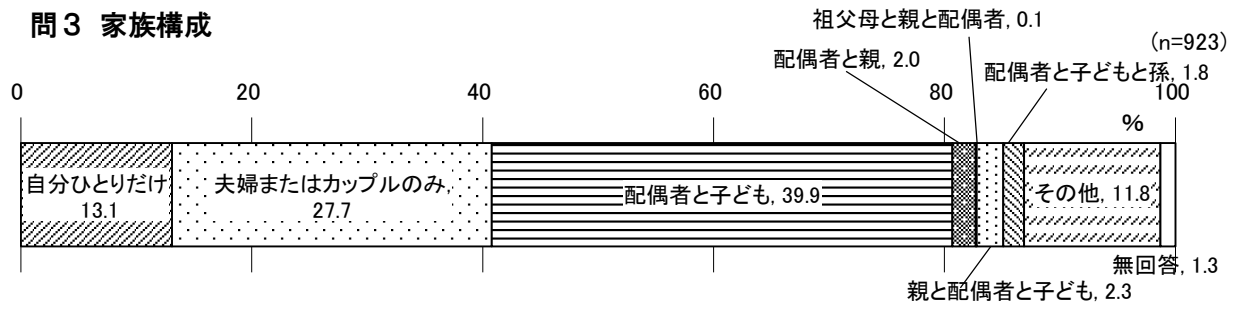


### 男性 (n=397)

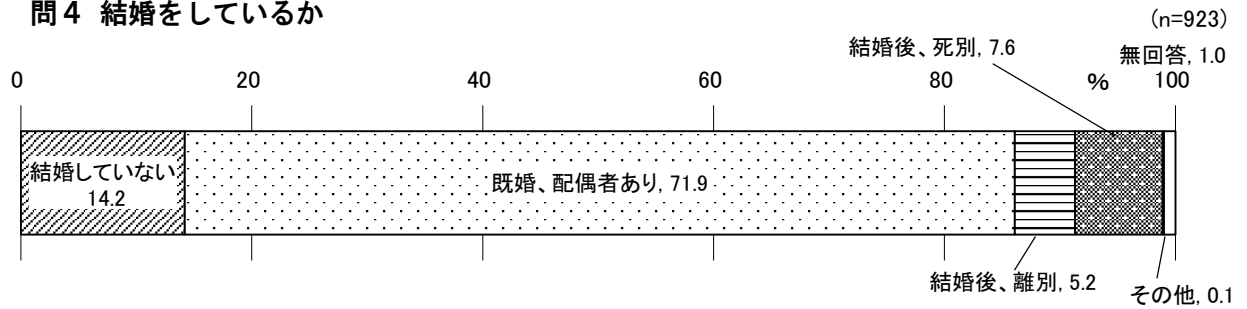




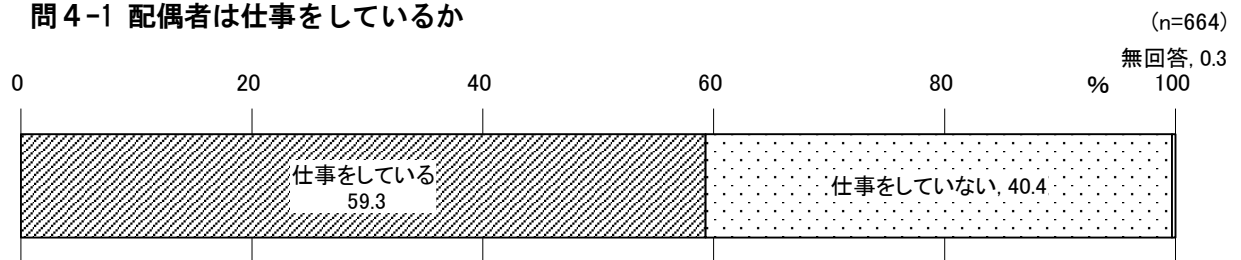
### 問3 家族構成



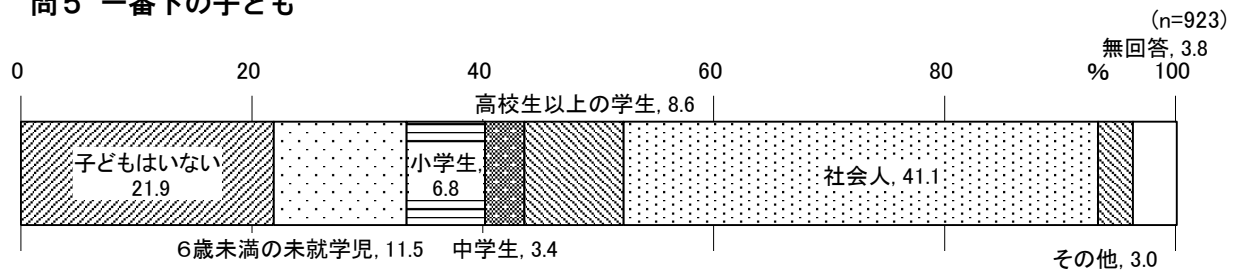
### 問4 結婚をしているか



### 問4-1 配偶者は仕事をしているか



### 問5 一番下の子ども

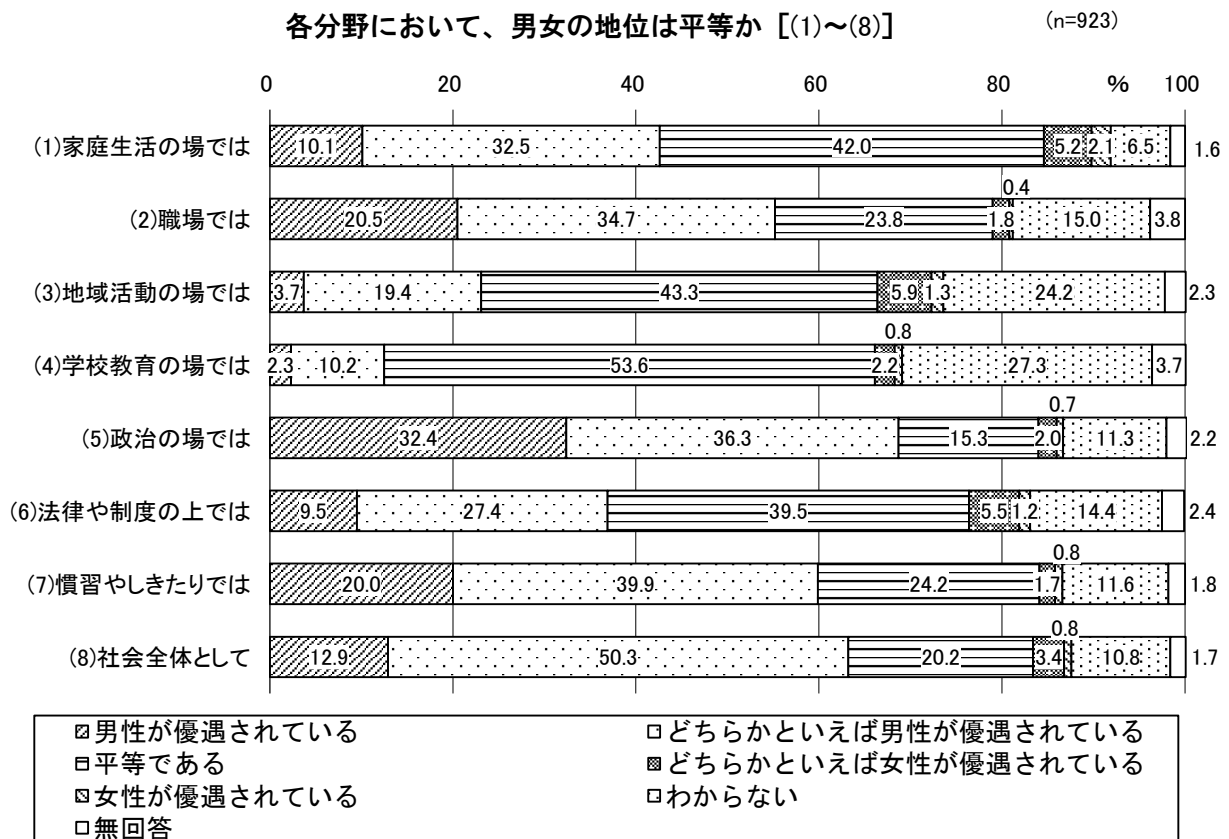


## 男女の平等や地域生活について

問6 次の各分野において男女の地位は、平等になっていると思いますか。

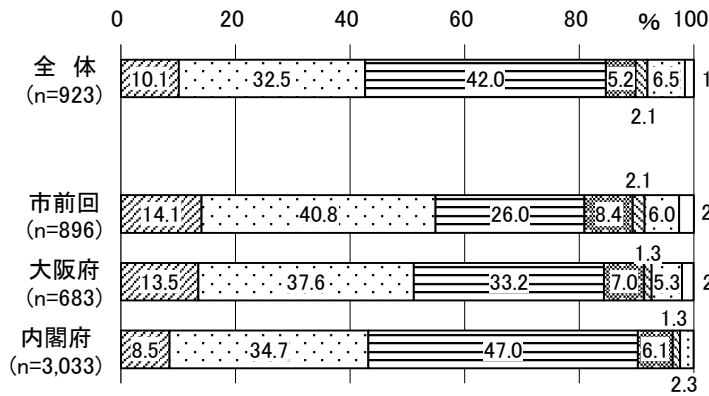
〔(1)～(8)それぞれに、○は1つ〕

- ・「男性が優遇されている」とする割合が高い項目は〈(5)政治の場では〉(32.4%)、〈(2)職場では〉(20.5%)、〈(7)慣習やしきたりでは〉(20.0%)などである。「女性が優遇されている」とする割合の最大は〈(1)家庭生活の場では〉の2.1%にすぎず、全体として男性が優遇視されている。

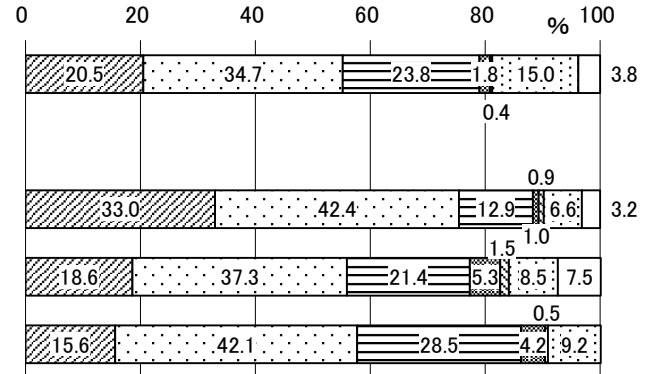


- ・ 前回調査と比較すると「男性が優遇されている」とする割合が下がった項目が多い。
- ・ 大阪府調査と比較すると、全体的に「男性が優遇されている」とする割合が低い。
- ・ 性・年齢別に加重点に換算してみると、おおむね女性において男性が優遇されているとする意見が強いが、〈(4)学校教育の場では〉〈(6)法律や制度の上では〉などでは、女性が優遇されているという意見に傾いている男性回答者がみられる。

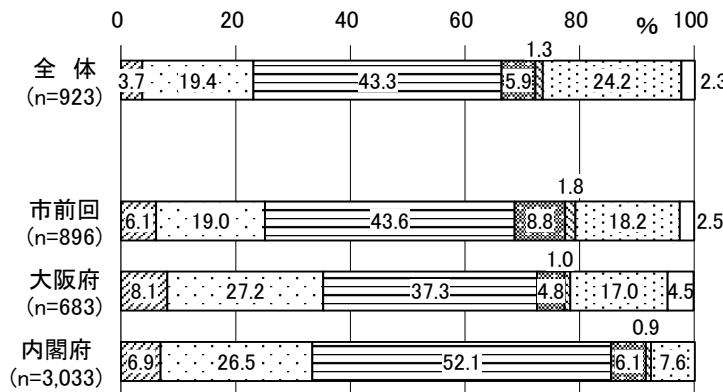
(1)家庭生活の場では



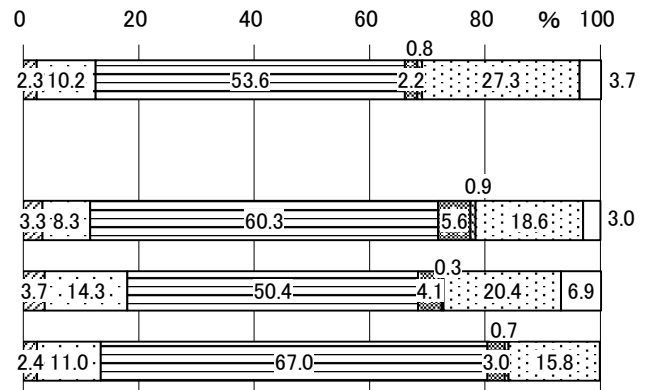
(2)職場では



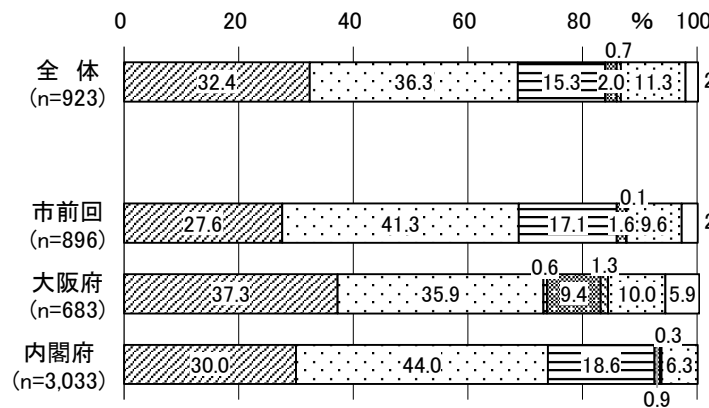
(3)地域活動の場では



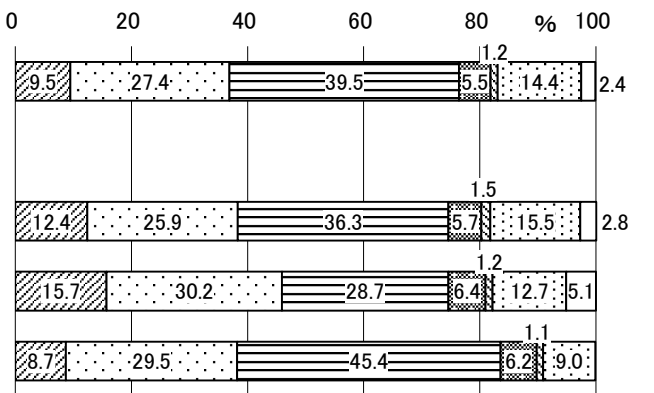
(4)学校教育の場では



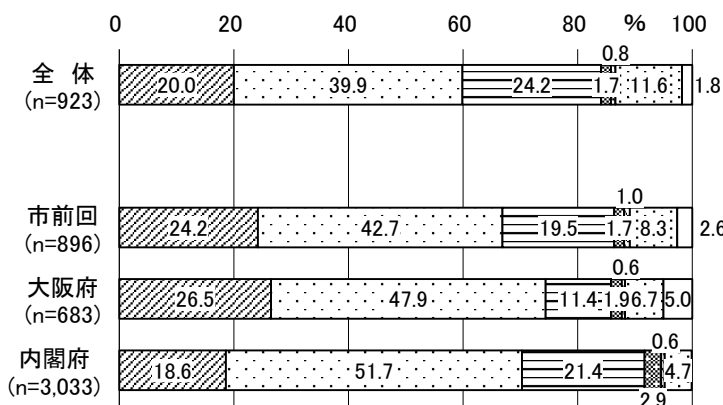
(5)政治の場では



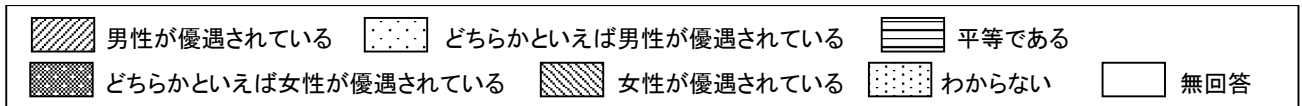
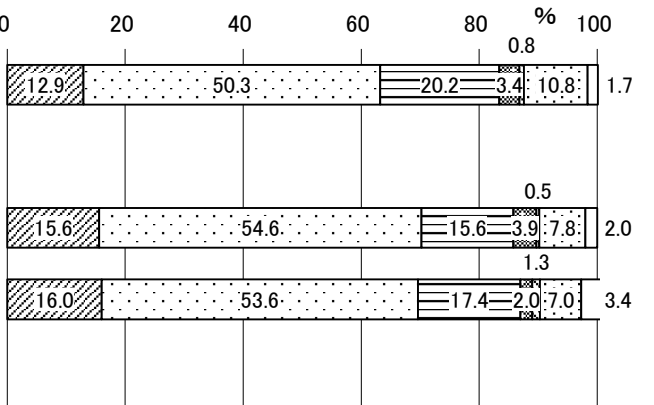
(6)法律や制度の上では



(7)慣習やしきたりでは

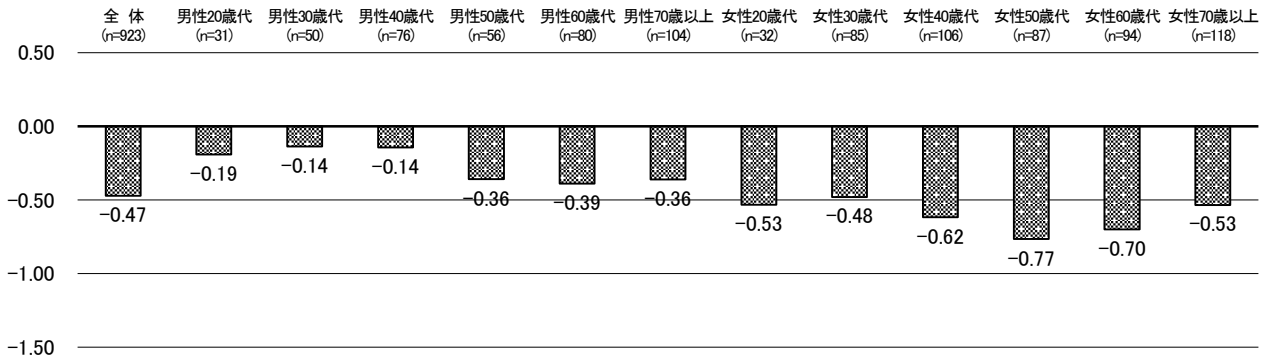


(8)社会全体として

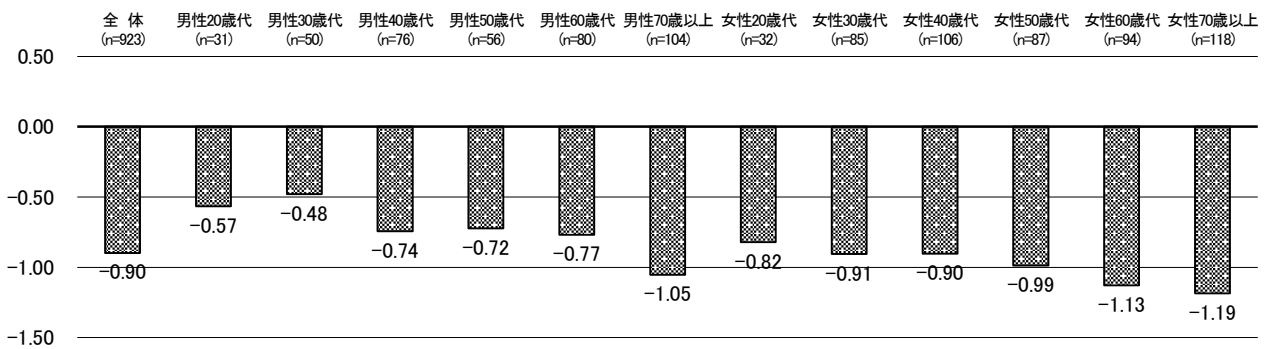


(1)～(8)のグラフは、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」「平等である」「どちらかといえば女性が優遇されている」「女性が優遇されている」の回答1件あたりにそれぞれ、－2点、－1点、0点、1点、2点を与え、これらを合計したものを、上記の回答合計件数で除した値(加重点)である。加重点が低いほど男性優遇視、高いほど女性優遇視とみることができる。

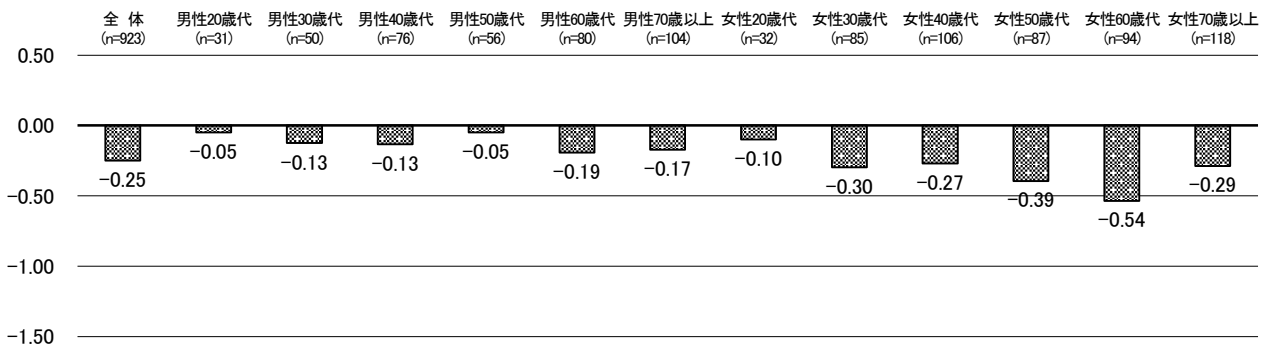
### (1) 家庭生活の場では



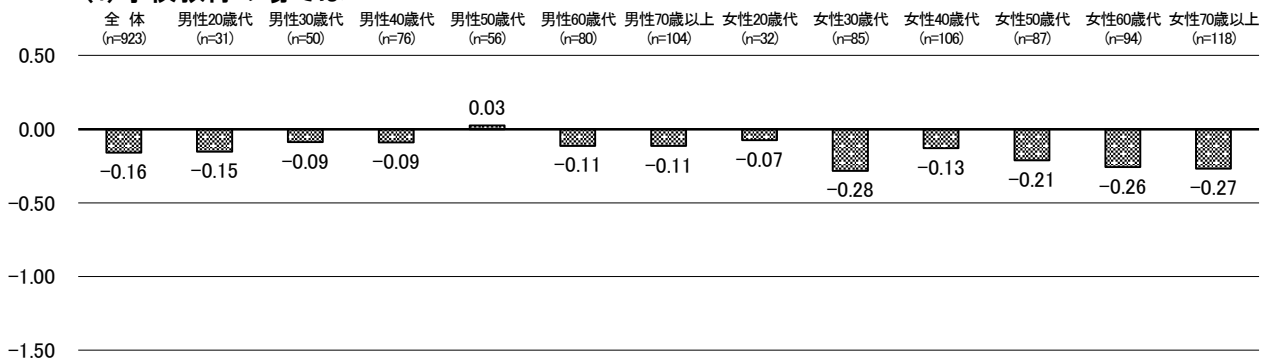
### (2) 職場では



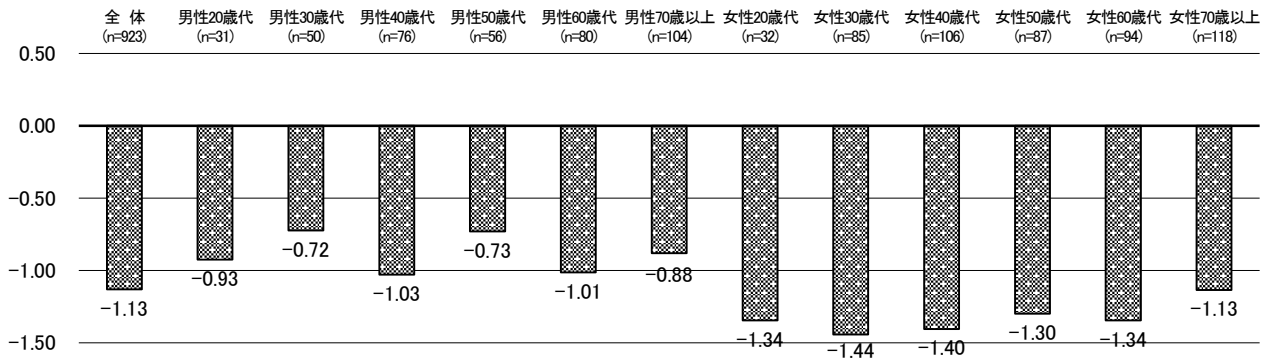
### (3) 地域活動の場では



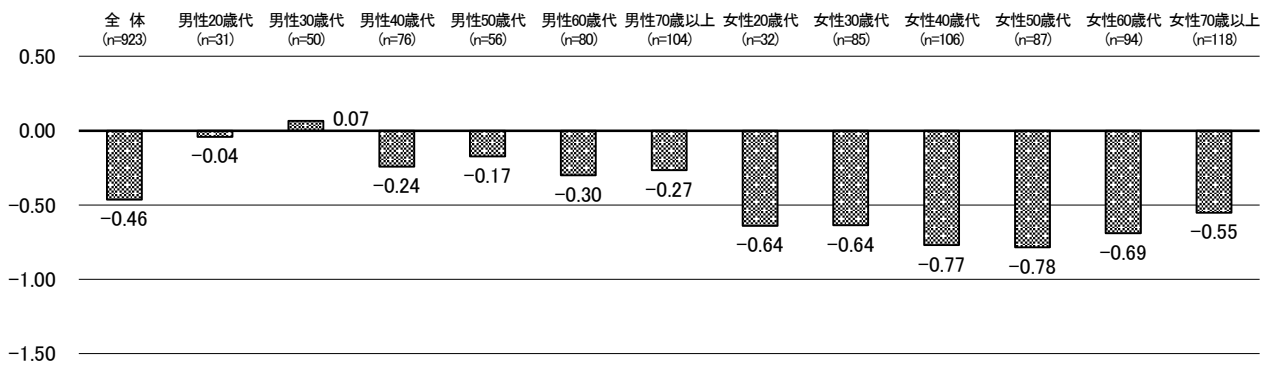
### (4) 学校教育の場では



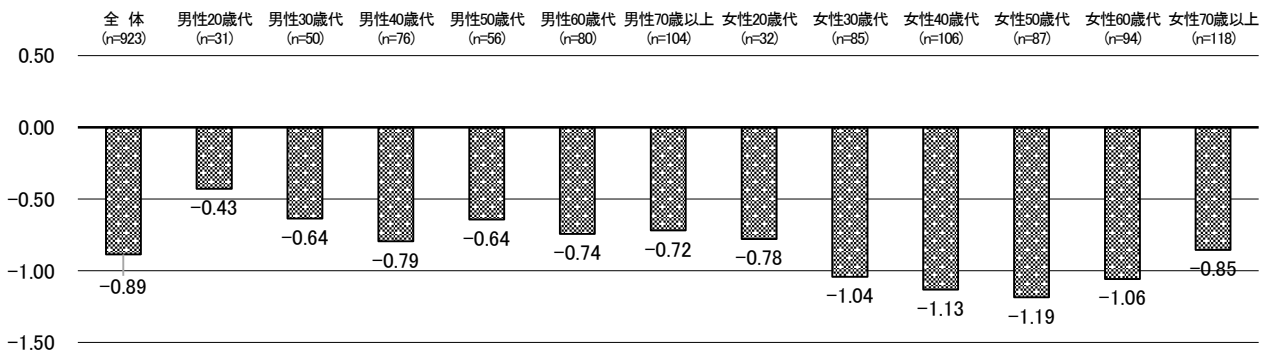
### (5) 政治の場では



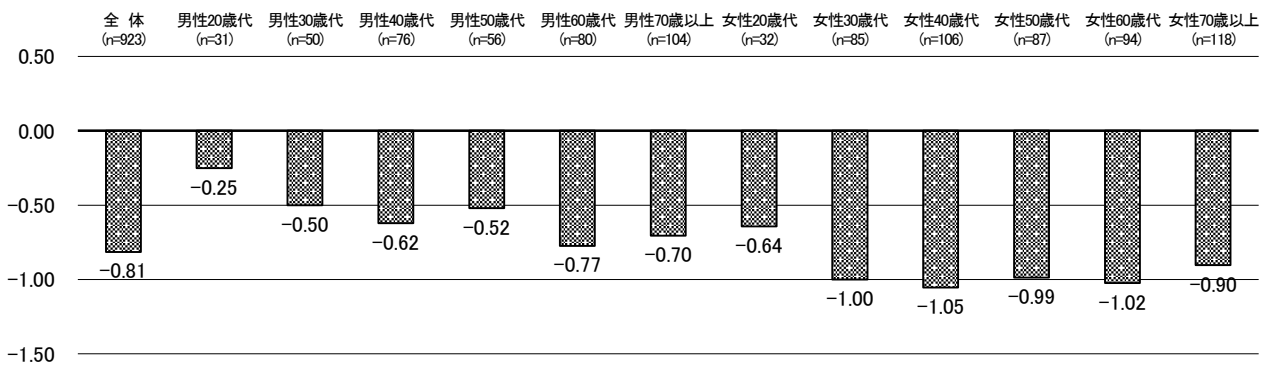
### (6) 法律や制度の上では



### (7) 慣習やしきたりでは

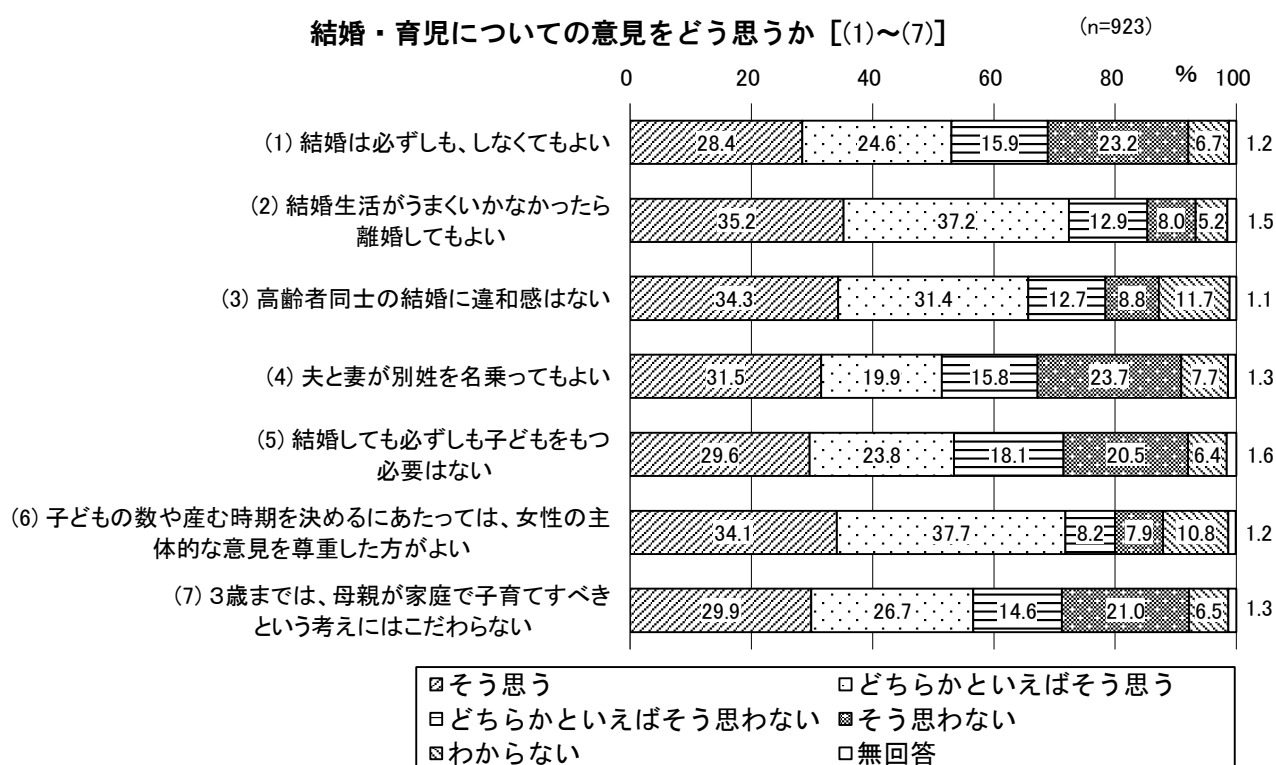


### (8) 社会全体として



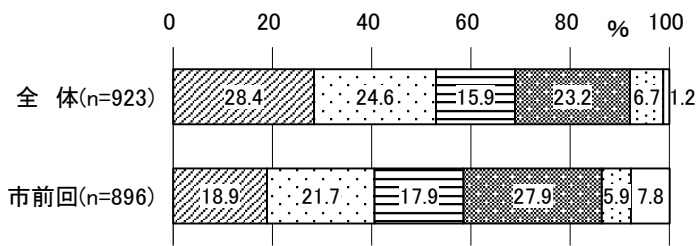
問7 次のような結婚・育児についての意見をどう思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。〔(1)～(7)それぞれに、○は1つ〕

- ・「そう思う」と、意見内容を肯定する割合が高いのは〈(2)結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい〉(35.2%)、〈(3)高齢者同士の結婚に違和感はない〉(34.3%)、〈(6)子どもの数や産む時期を決めるにあたっては、女性の主体的な意見を尊重した方がよい〉(34.1%)である。
- ・逆に「そう思わない」の割合が高いのは〈(4)夫と妻が別姓を名乗ってもよい〉(23.7%)、〈(1)結婚は必ずしも、しなくてもよい〉(23.2%)、〈(7)3歳までは、母親が家庭で子育てすべきという考えにはこだわらない〉(21.0%)である。ただこれらの項目は否定的意見が強いものの、いずれも「そう思う」とする割合が上回っている。

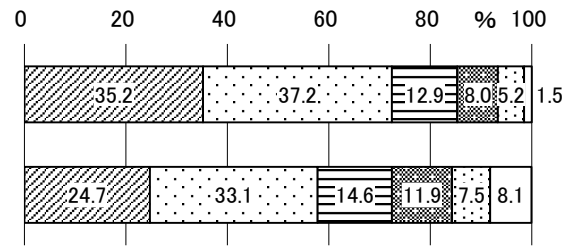


- ・前回調査と比較すると、(1)～(7)すべてにおいて「そう思う」が高くなっている。
- ・前回で「そう思わない」が「そう思う」より上回っていたのが逆転した項目は、〈(1)結婚は必ずしも、しなくてもよい〉〈(4)夫と妻が別姓を名乗ってもよい〉〈(5)結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない〉〈(7)3歳までは、母親が家庭で子育てすべきという考えにはこだわらない〉である。
- ・加重点でみると、全体で肯定的意見が強いのは〈(6)子どもの数や産む時期を決めるにあたっては、女性の主体的な意見を尊重した方がよい〉〈(2)結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい〉〈(3)高齢者同士の結婚に違和感はない〉であり、「そう思う」の割合とほぼ同じ傾向である。
- ・性・年齢別に加重点をみると、全体的には女性において肯定的傾向が強いが、(3)や(6)では男性においても肯定的である。特に女性20歳代、30歳代、50歳代などで肯定的意見が強い項目がある。男性では70歳以上で否定的意見の強い項目が多い。

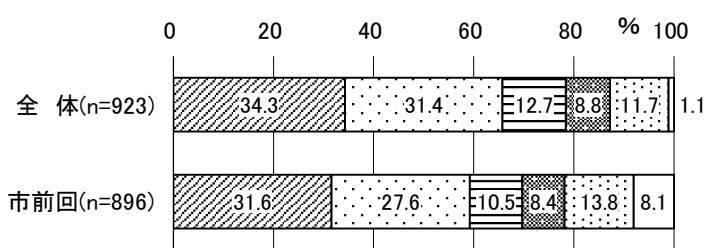
(1)結婚は必ずしも、しなくてもよい



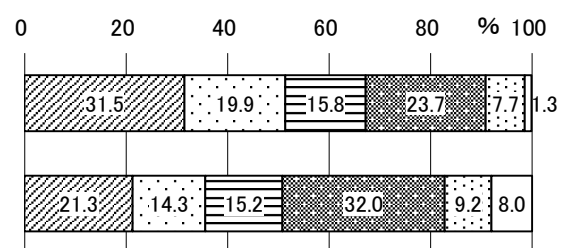
(2)結婚生活がうまくいかなかったら  
離婚してもよい



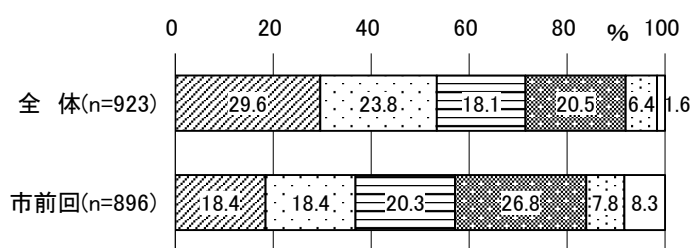
(3)高齢者同士の結婚に違和感はない



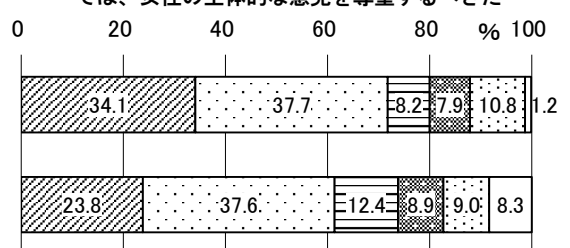
(4)夫と妻が別姓を名乗ってもよい



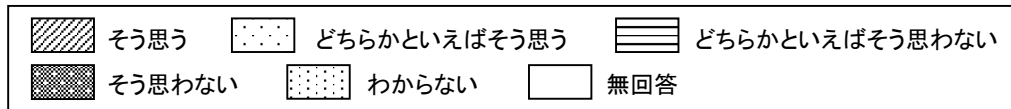
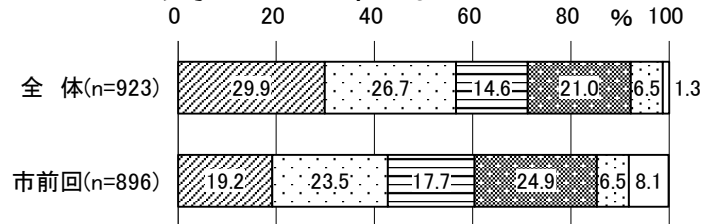
(5)結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



(6)子どもの数や産む時期を決定するにあたっては、女性の主体的な意見を尊重するべきだ



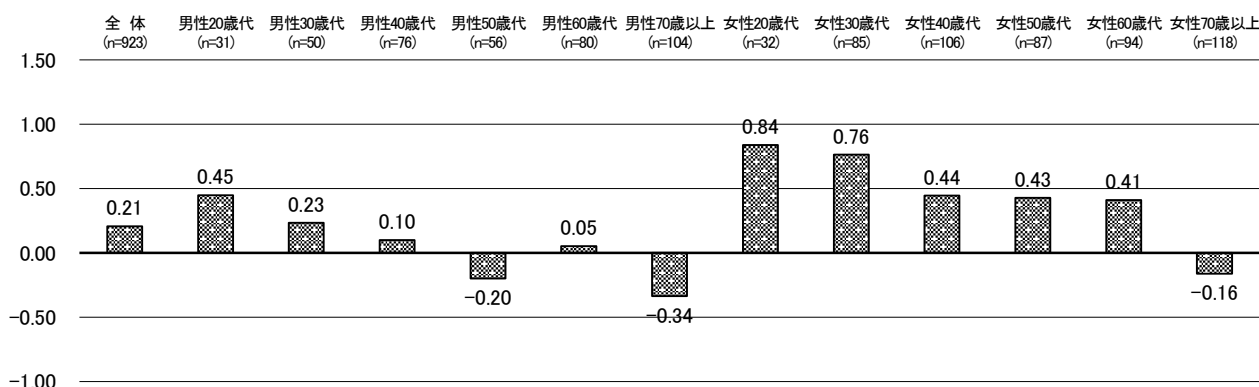
(7)3歳までは、母親が家庭で子育てすべきだ  
という考えにはこだわらない



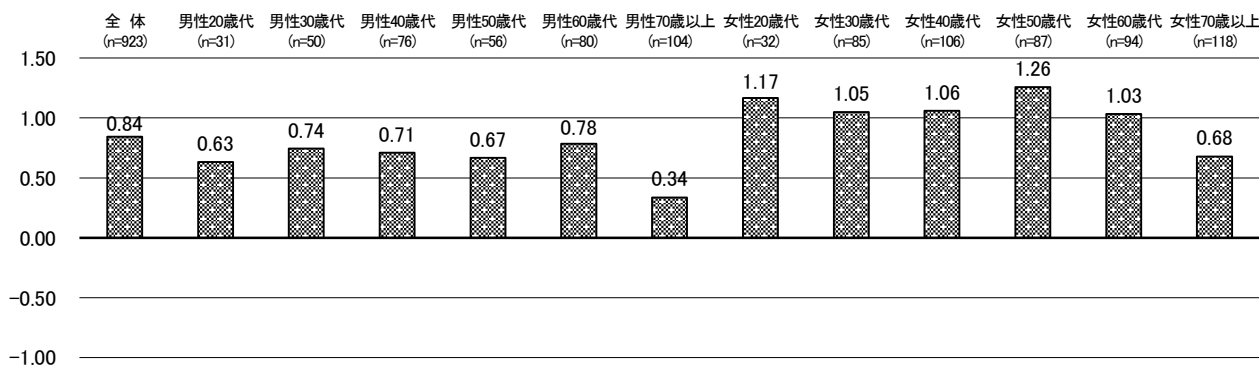
(1)～(7)のグラフは、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の回答1件あたりにそれぞれ、2点、1点、-1点、-2点を与え、これらを合計したものを、上記の回答合計件数で除した値(加重点)である。

加重点が高いほど、意見に肯定的であるとみることができる。

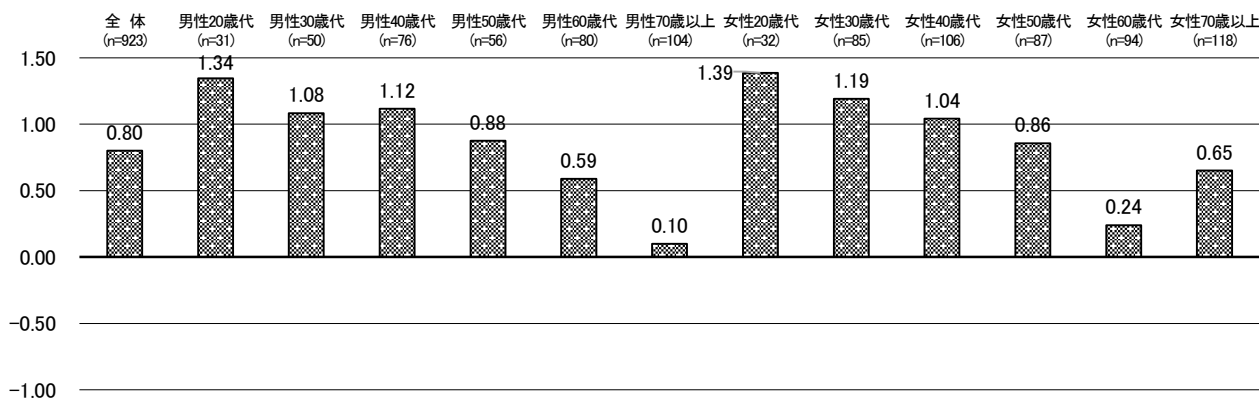
### (1) 結婚は必ずしも、しなくてもよい



### (2) 結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい

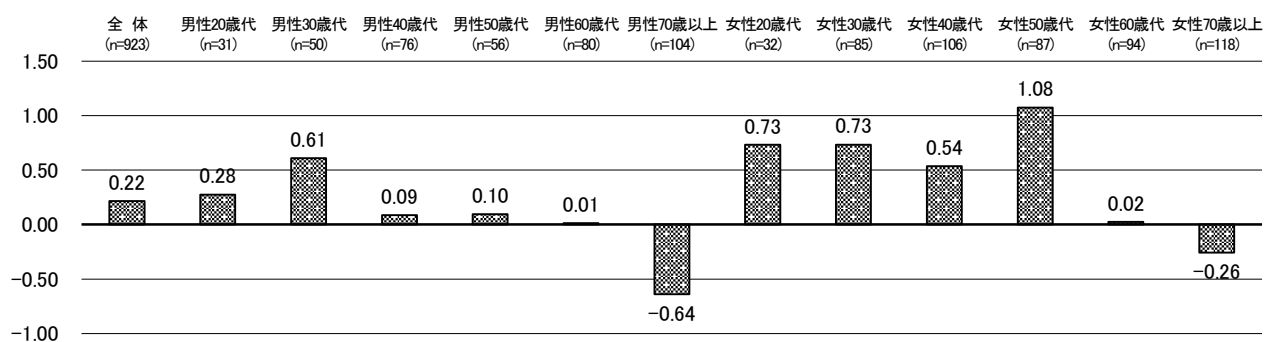


### (3) 高齢者同士の結婚に違和感はない

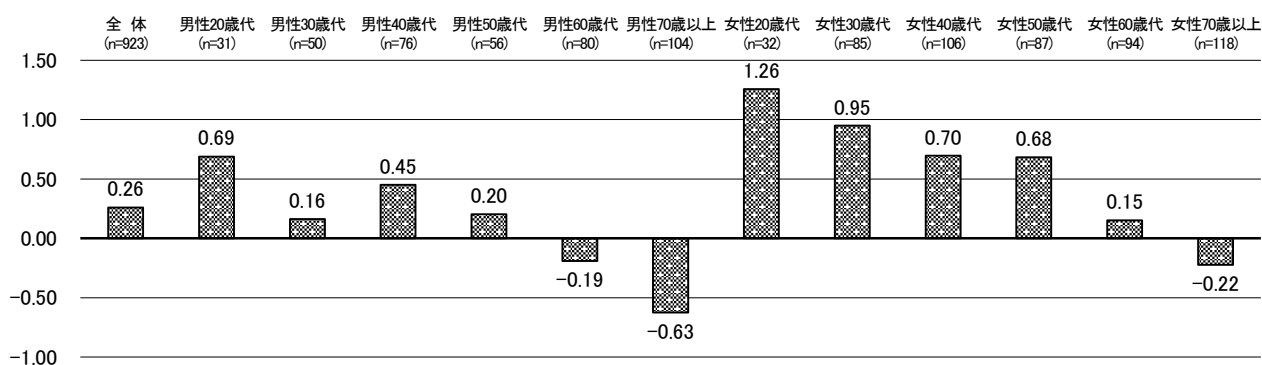




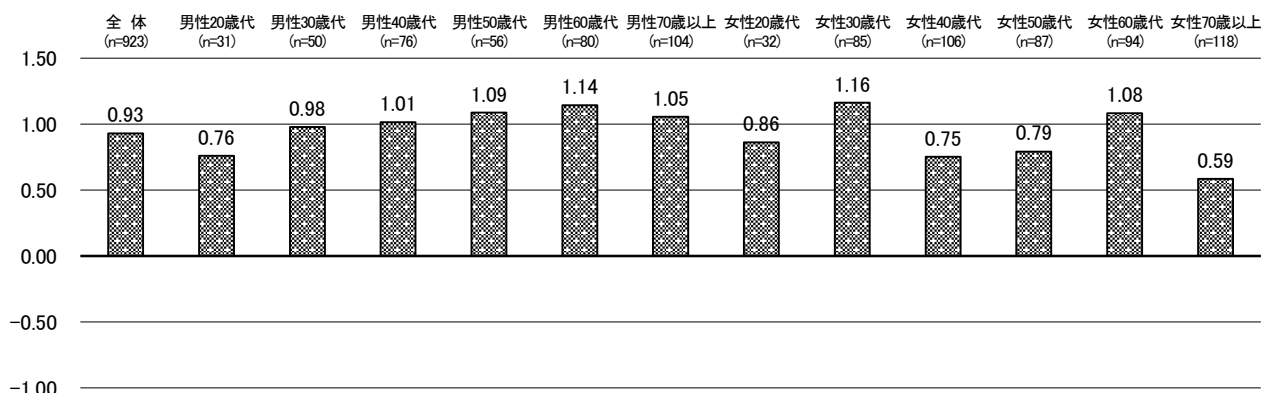
#### (4) 夫と妻が別姓を名乗ってもよい



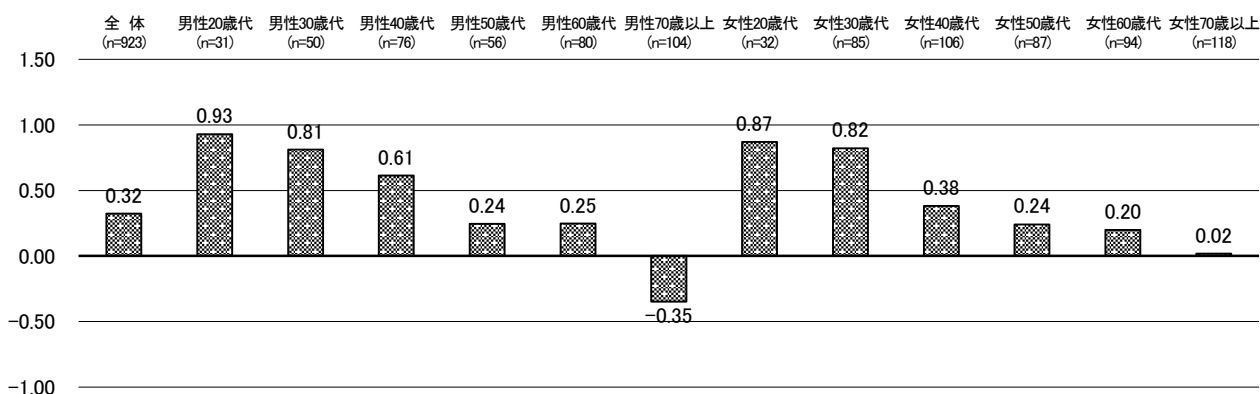
#### (5) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない



#### (6) 子どもの数や産む時期を決めるにあたっては、女性の主体的な意見を尊重した方がよい



#### (7) 3歳までは、母親が家庭で子育てすべきという考えにはこだわらない

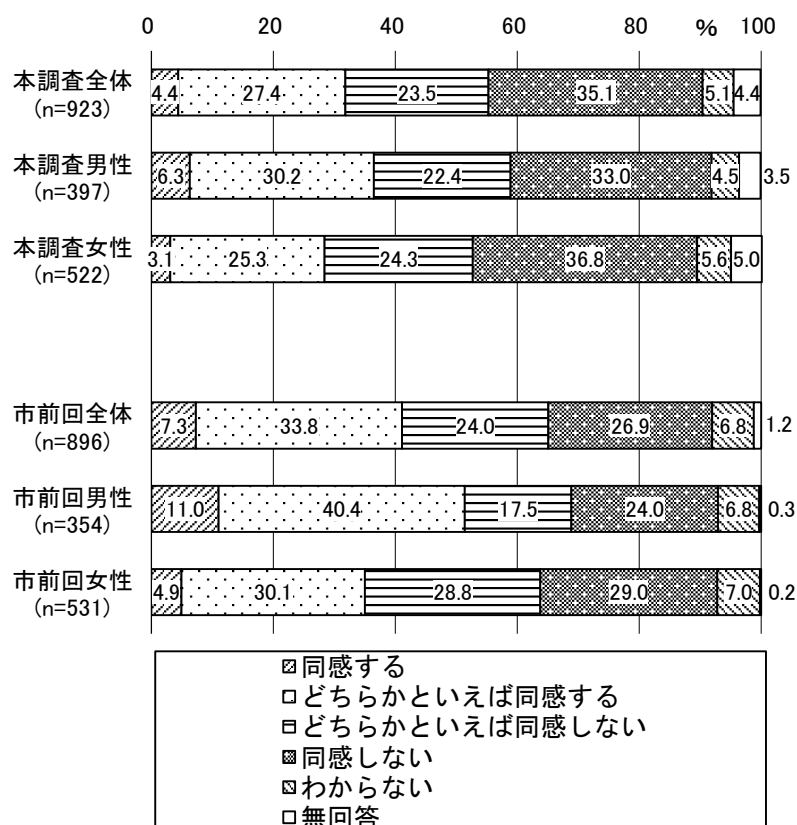


**問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。**  
**【○は1つ】**

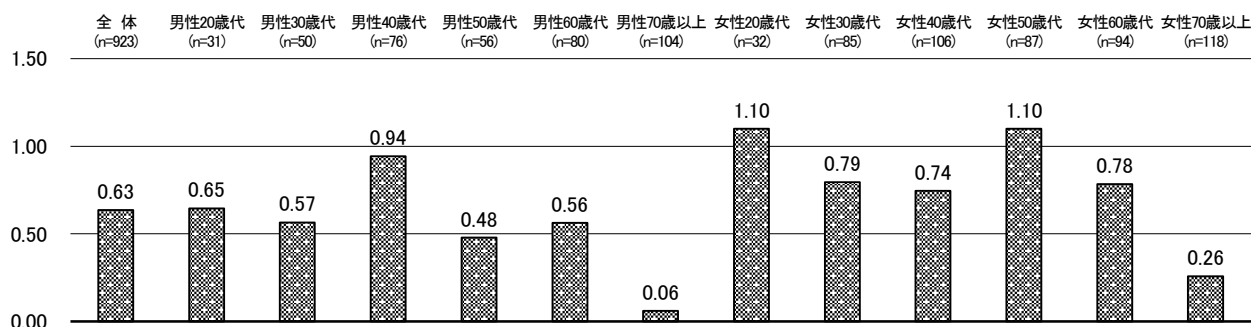
- ・「同感しない」が35.1%で最も高い。これに「どちらかといえば同感する」(27.4%)が続く。「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の割合の和は58.6%、「同感する」「どちらかといえば同感する」の和は31.8%で、全体的には同感しないという意見が強い。
- ・前回調査と比較すると、全体では「同感しない」が8ポイント上昇し、「どちらかといえば同感する」が6ポイント低下した。性別でみると、男性・女性ともに「同感しない」が上昇し、「同感する」「どちらかといえば同感しない」がともに低下した。

**「男は仕事、女は家庭」という考え方について**

- ・性・年齢別に加重点でみると、女性20歳代と50歳代、男性40歳代などで否定的傾向が強い。



**「男は仕事、女は家庭」という考え方について**



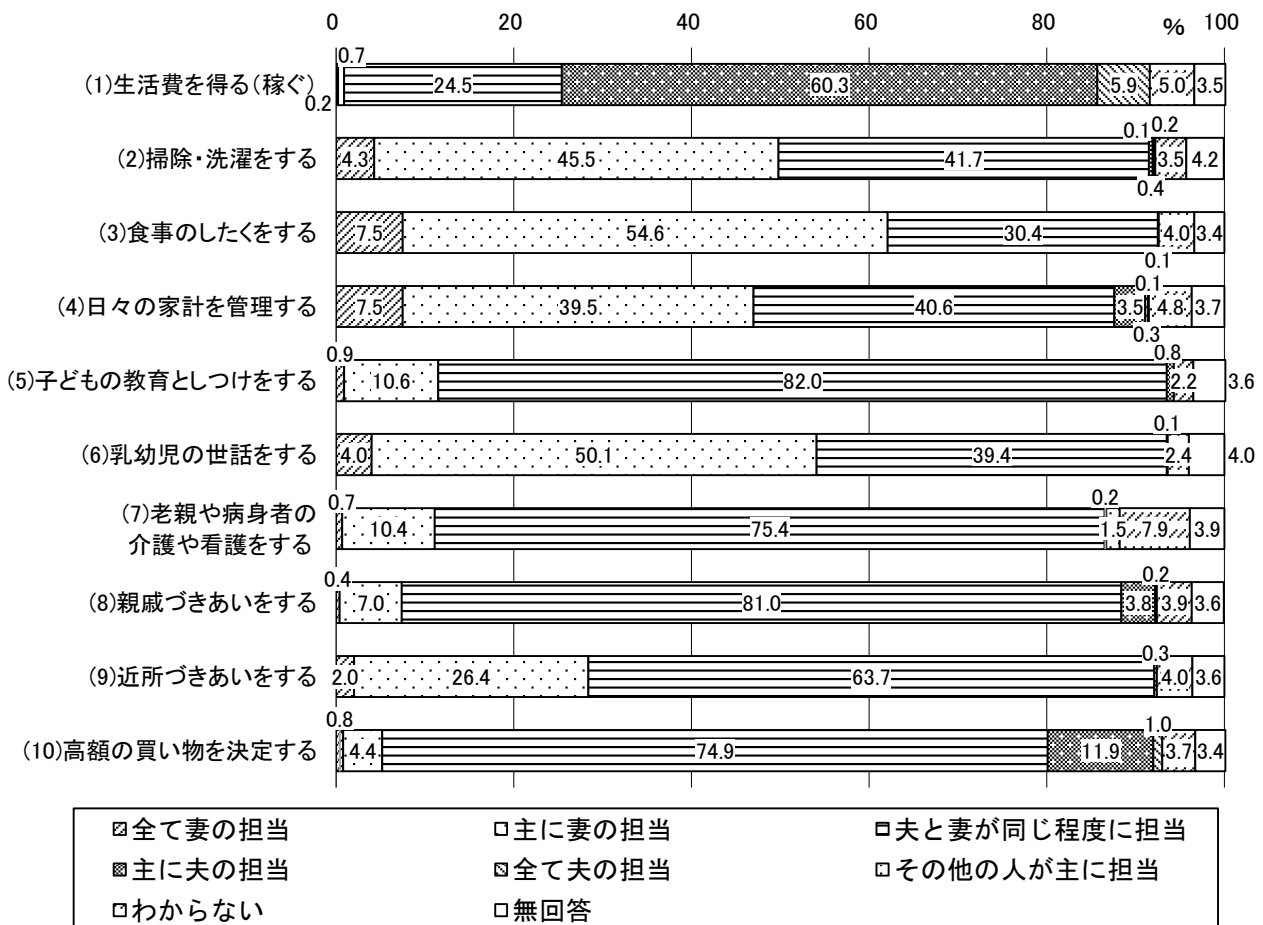
上のグラフは、「同意する」「どちらかといえば同意する」「どちらかといえば同意しない」「同意しない」の回答1件あたりにそれぞれ、-2点、-1点、1点、2点を与え、これらを合計したものを、上記の回答合計件数で除した値(加重点)である。加重点が高いほど、否定的な意見であるとみることができる。

**問9 次の家庭内の仕事について、どのように担当するのが望ましいとお考えですか。配偶者・パートナーがいなくても、仮にいと想定してお答えください。**  
**〔(1)～(10)それぞれに、○は1つ〕**

- ・「全て妻の担当」「主に妻の担当」の割合の和が過半数であるのは〈(3) 食事のしたくをする〉(62.1%)と〈(6) 乳幼児の世話をする〉(54.1%)で、これに〈(2) 掃除・洗濯をする〉(49.8%)が続く。
- ・「夫と妻が同じ程度に担当」が高いのは〈(5) 子どもの教育としつけをする〉(82.0%)、〈(8) 親戚づきあいをする〉(81.0%)、〈(7) 老親や病身者の介護や看護をする〉(75.4%)などである。

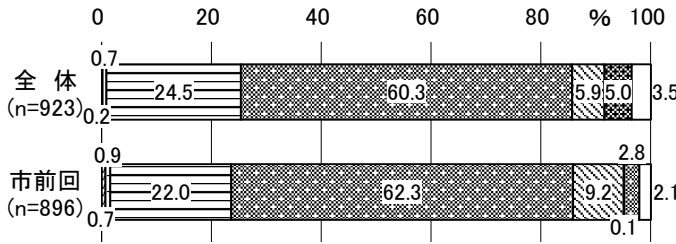
家庭内の仕事の担当についてどれが望ましいか 〔(1)～(10)〕

(n=923)

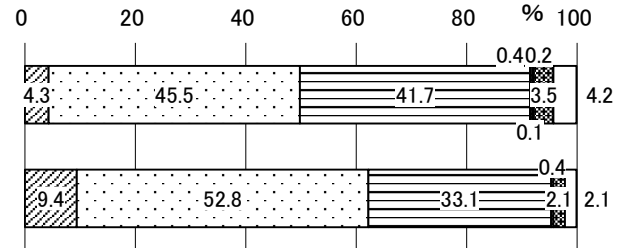


- ・ 前回調査と比較すると、(1)～(10)すべてにおいて「全て妻の担当」「主に妻の担当」の割合の和が低下した。
- ・ 性・年齢別に加重点でみると、極端な相違はないものの、男女ともに70歳以上および60歳代で妻の役割に偏っている傾向がある。

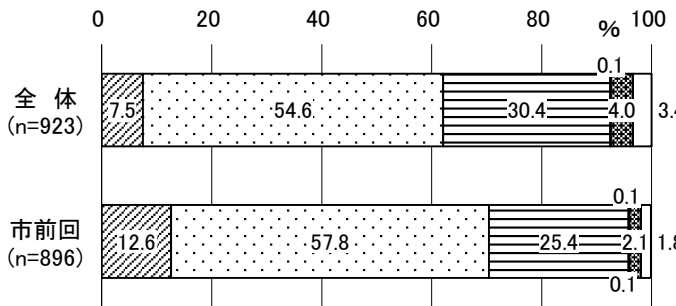
(1)生活費を得る（稼ぐ）



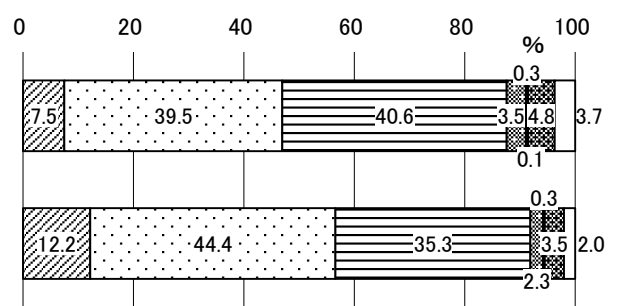
(2)掃除・洗濯をする



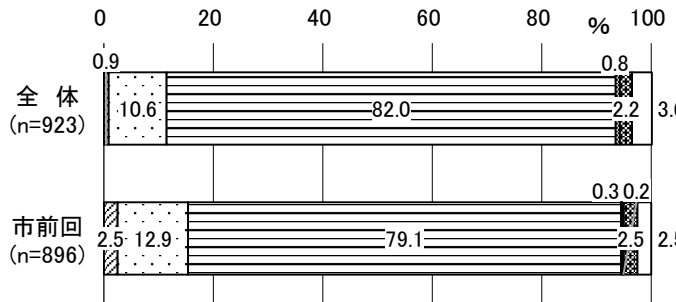
(3)食事のしたくをする



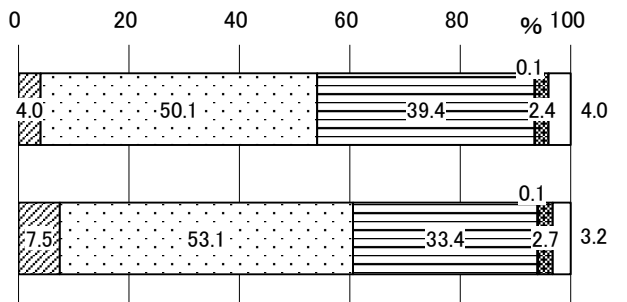
(4)日々の家計を管理する



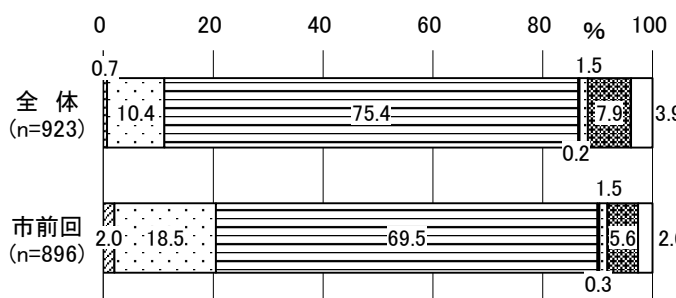
(5)子どもの教育としつけをする



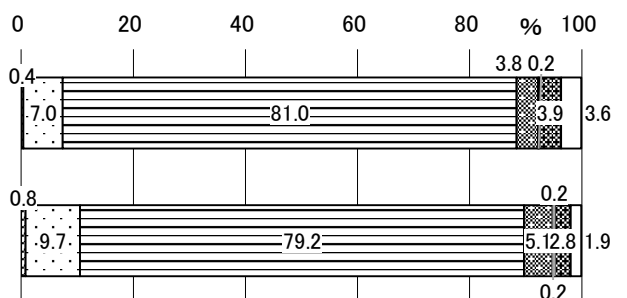
(6)乳幼児の世話をする



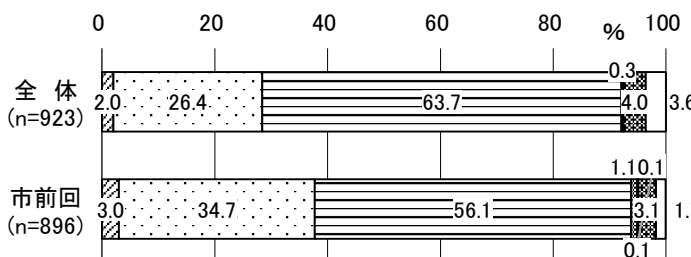
(7)老親や病身者の介護や看護をする



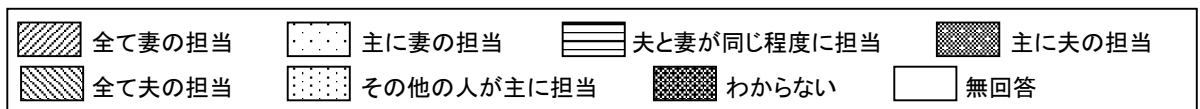
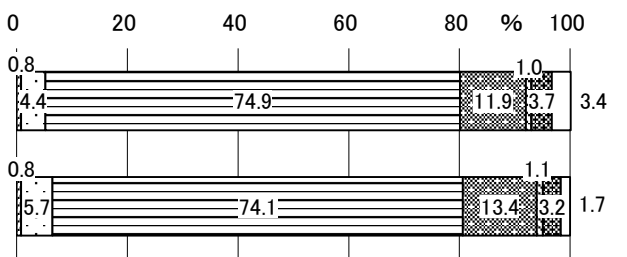
(8)親戚づきあいをする



(9)近所づきあいをする

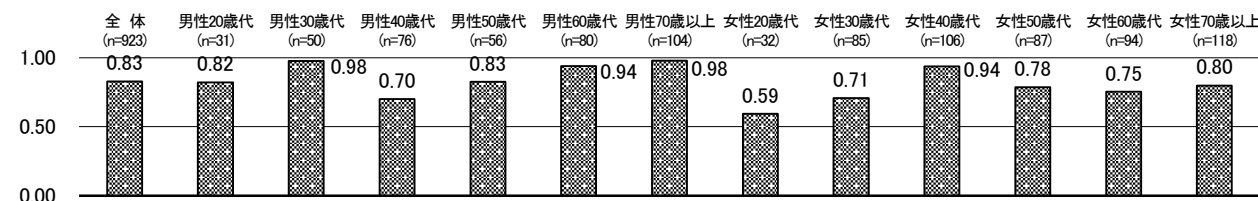


(10)高額な買い物を決定する

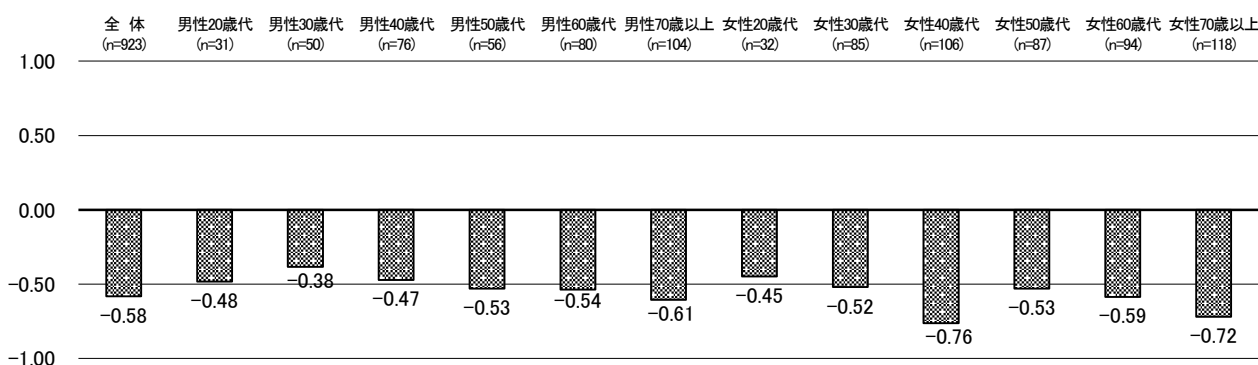


(1)～(10)のグラフは、「全て妻の担当」「主に妻の担当」「夫と妻が同じ程度に担当」「主に夫の担当」「全て夫の担当」の回答1件あたりにそれぞれ、－2点、－1点、0点、1点、2点を与え、これらを合計したものを、上記の回答合計件数で除した値(加重点)である。  
加重点が高いほど夫の担当の程度が高く、低いほど妻の担当の程度が高いとみることができる。

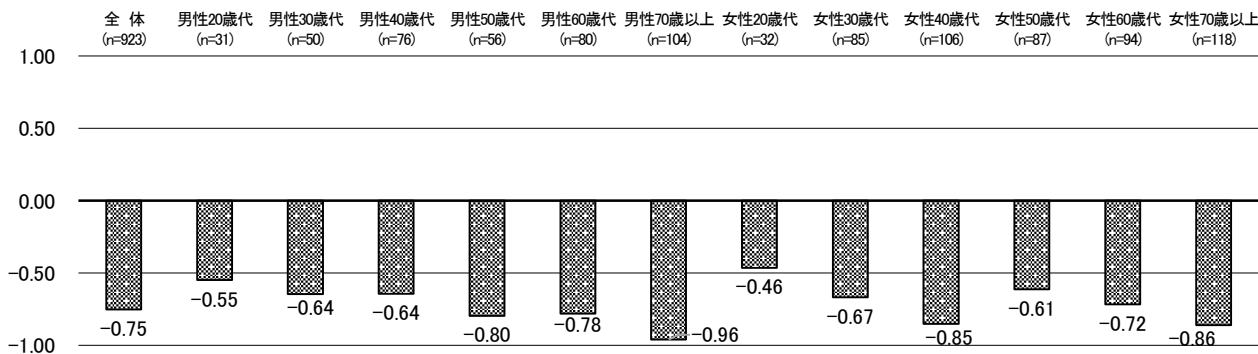
### (1) 生活費を得る（稼ぐ）



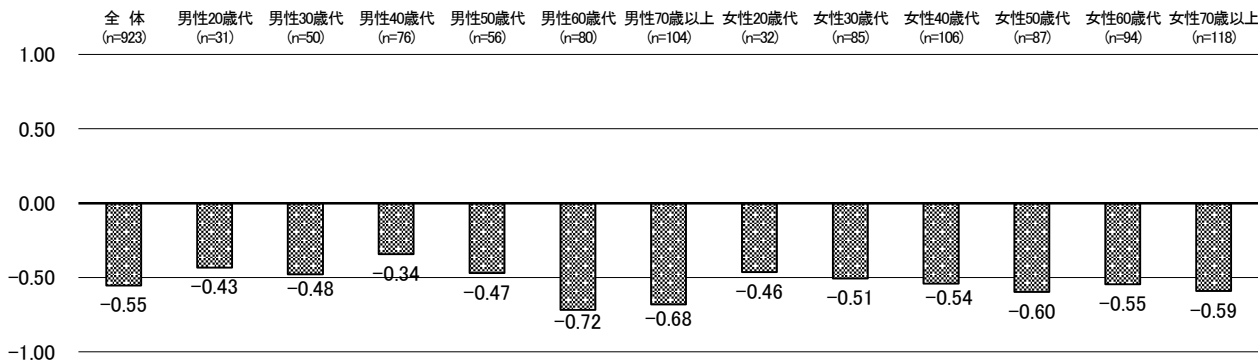
### (2) 掃除・洗濯をする



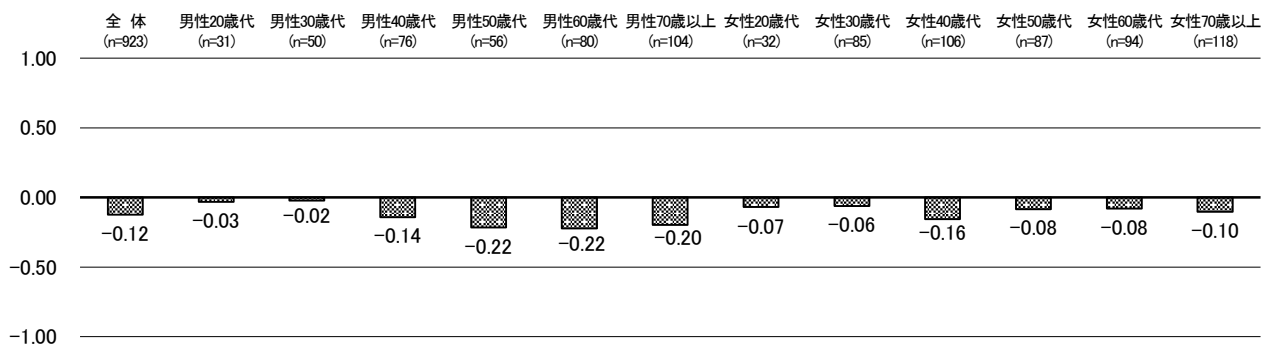
### (3) 食事のしたくをする



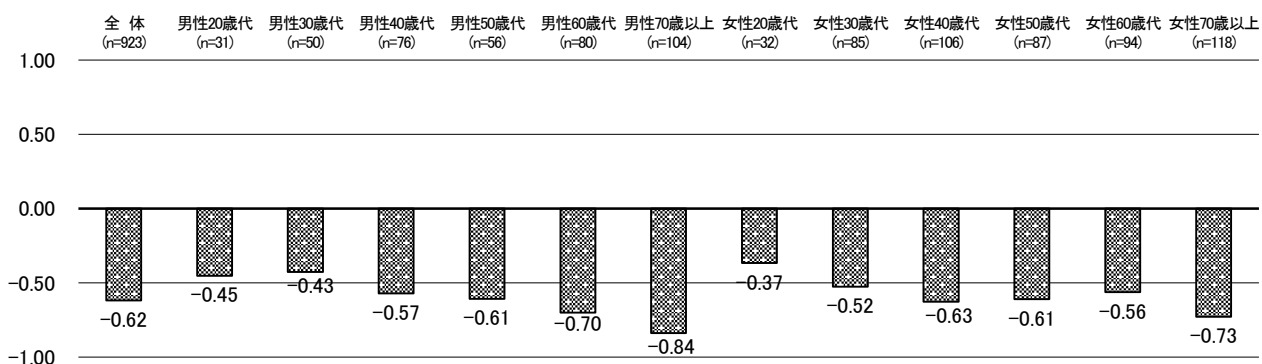
### (4) 日々の家計を管理する



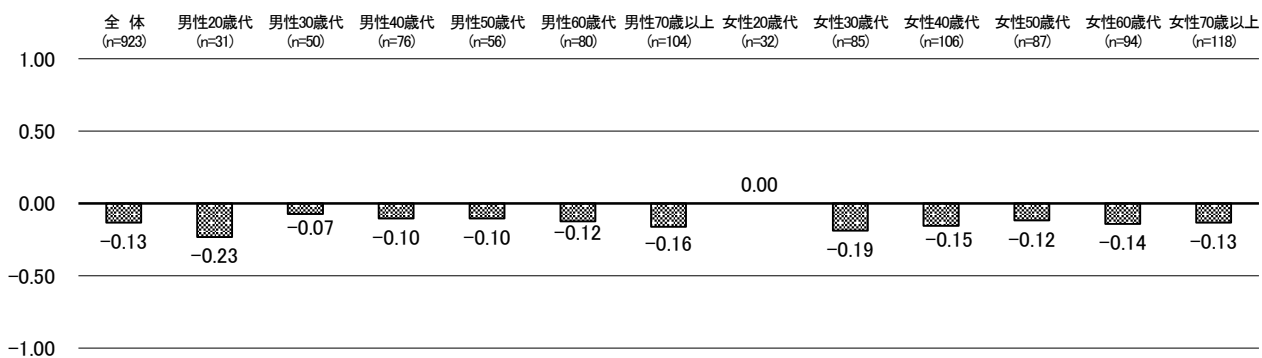
### (5) 子どもの教育としつけをする



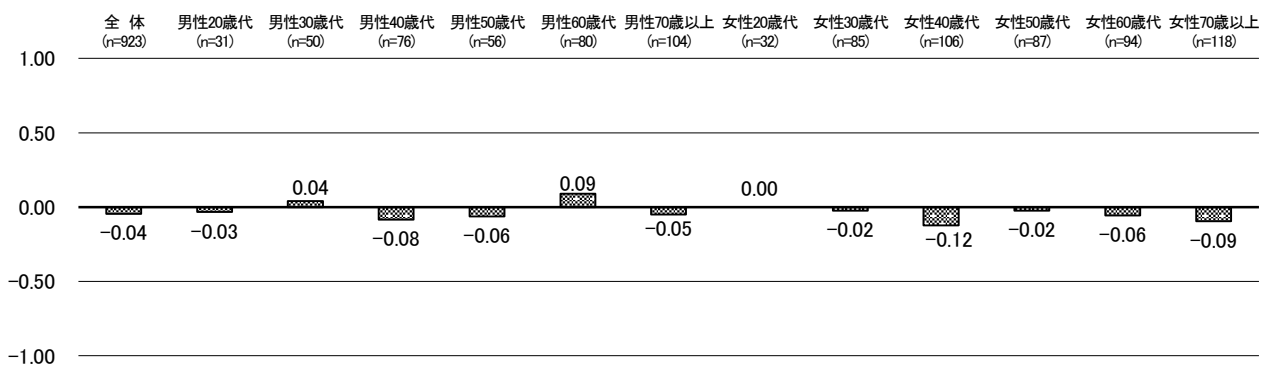
### (6) 乳幼児の世話ををする



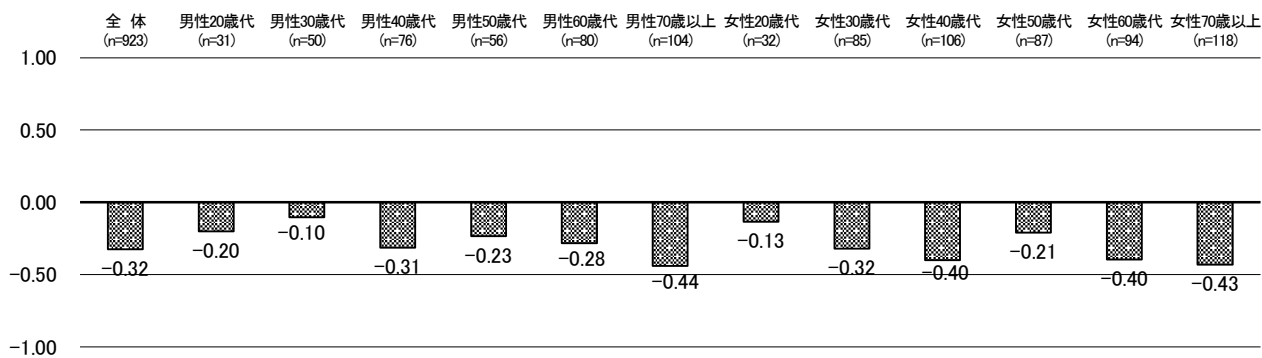
### (7) 老親や病身者の介護や看護をする



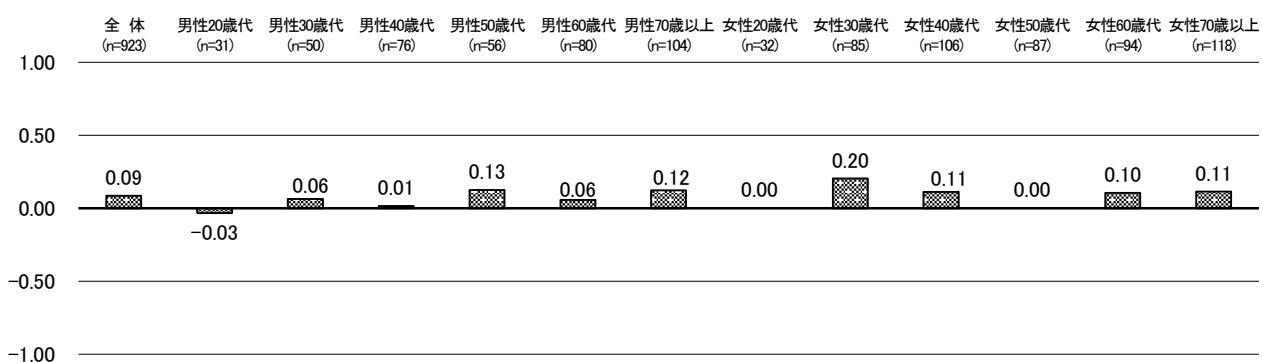
### (8) 親戚づきあいをする



### (9) 近所づきあいをする

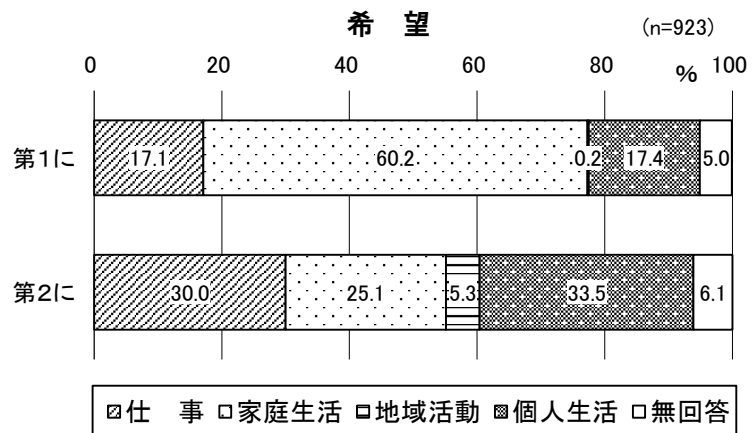


### (10) 高額買い物を決定する

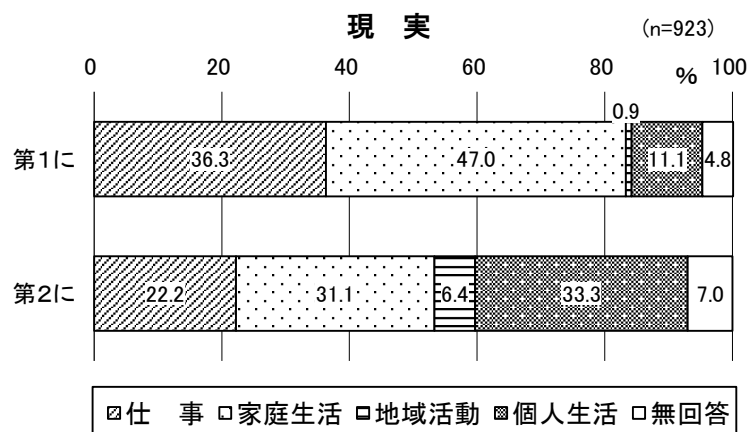


問 10 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域活動」「個人生活」の優先度についてお答えください。あなたの希望とあなたの現実（現状）について、1番と2番はどれですか。  
[  内に数字を記入 ]

- ・希望の第1では、家庭生活－個人生活－仕事－地域活動の順、第2では個人生活－仕事－家庭生活－地域活動の順である。
- ・現実の第1では、家庭生活－仕事－個人生活－地域生活の順、第2では個人生活－家庭生活－仕事－地域生活の順である。



- ・性・年齢別にそれぞれの第1位をみると、希望の第1ではすべての層で家庭生活となっている。
- ・希望の第2で第1位となっているのは、男性の20歳代から50歳代と女性20歳代で仕事である。男性60歳以上では家庭生活が第1位であるのに対して、女性の30歳以上では個人生活となっており、家庭生活はあがっていない。
- ・現実の第1では男性の20歳代から60歳代と女性20歳代では仕事が第1位となっており、希望の第2の傾向と似ている。現実の第2では、男性では家庭生活、女性では個人生活が第1位である場合が多い。



- ・総括すると、男性の60歳代までと女性20歳代では、家庭生活を優先したいにもかかわらず現実には仕事を中心になっている。また女性の30歳代・40歳代のおそらく有業者層では、個人生活を重視したいが仕事が優先されている。

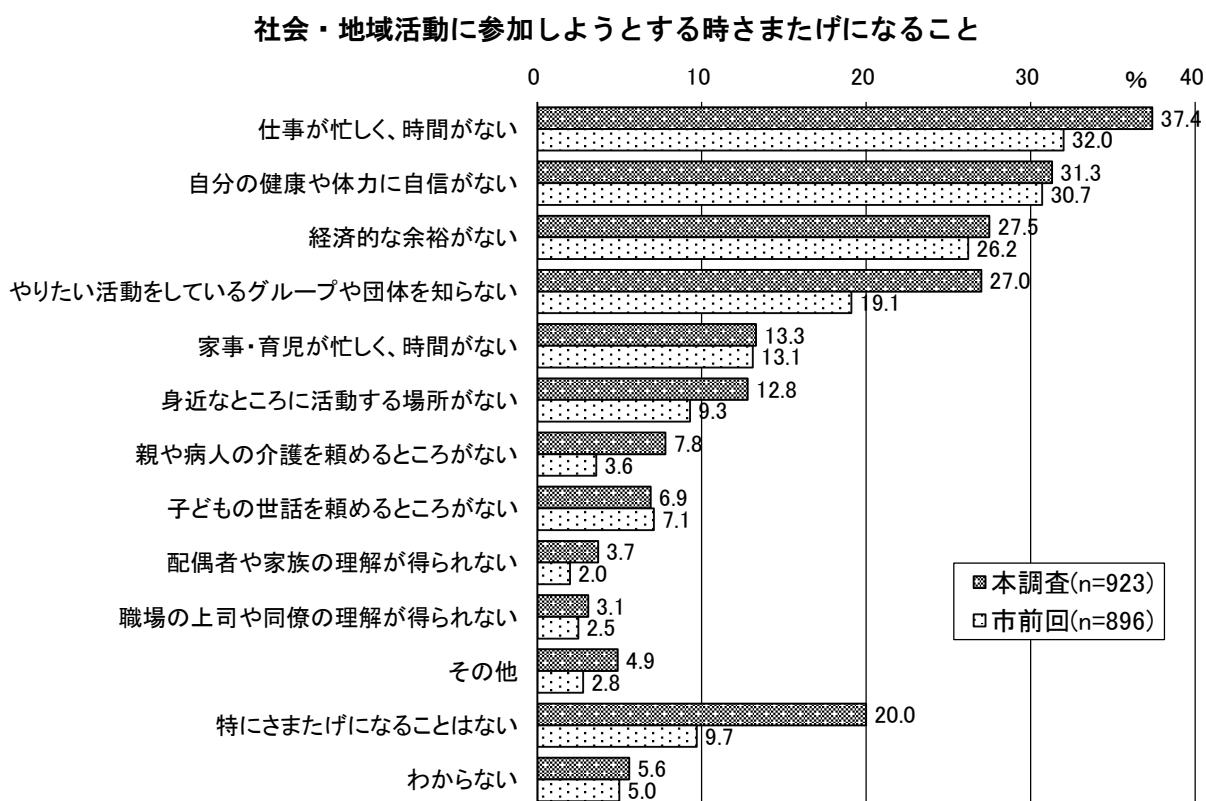


「仕事」「家庭生活」などの優先度の希望と現実

	希 望		現 実	
	「第1に」の第1位	「第2に」の第1位	「第1に」の第1位	「第2に」の第1位
全 体 (n=923)	家庭生活	個人生活	家庭生活	個人生活
男性 20 歳代 (n=31)	家庭生活	仕 事	仕 事	家庭生活
男性 30 歳代 (n=50)	家庭生活	仕 事 家庭生活	仕 事	家庭生活
男性 40 歳代 (n=76)	家庭生活	仕 事	仕 事	家庭生活
男性 50 歳代 (n=56)	家庭生活	仕 事	仕 事	家庭生活
男性 60 歳代 (n=80)	家庭生活	家庭生活	仕 事	家庭生活
男性 70 歳以上 (n=104)	家庭生活	家庭生活	家庭生活	個人生活
女性 20 歳代 (n=32)	家庭生活	仕 事	仕 事	個人生活
女性 30 歳代 (n=85)	家庭生活	個人生活	家庭生活	仕 事 個人生活
女性 40 歳代 (n=106)	家庭生活	個人生活	家庭生活	仕 事
女性 50 歳代 (n=87)	家庭生活	個人生活	家庭生活	個人生活
女性 60 歳代 (n=94)	家庭生活	個人生活	家庭生活	個人生活
女性 70 歳以上 (n=118)	家庭生活	個人生活	家庭生活	個人生活

**問 11 あなたが、今後、社会・地域活動に参加しようとする時、何かさまたげになるようなことがありますか。[○は3つまで]**

- ・「仕事が忙しく、時間がない」(37.4%)、「自分の健康や体力に自信がない」(31.3%)、「経済的な余裕がない」(27.5%)、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」(27.0%)が上位の4項目である。
- ・前回調査と比較すると「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」が8ポイント、「仕事が忙しく、時間がない」が5ポイント上昇した。全体では7位であるが「親や病人の介護を頼めるところがない」(7.8%)も4ポイント上昇している。



- ・性・年齢別にみると「仕事が忙しく、時間がない」は男性の20歳代から50歳代、女性20歳代・40歳代・50歳代で第1位になっている。「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」は全体では第4位であるが、男性20歳代～40歳代と60歳代、女性20歳代では第2位となっている。

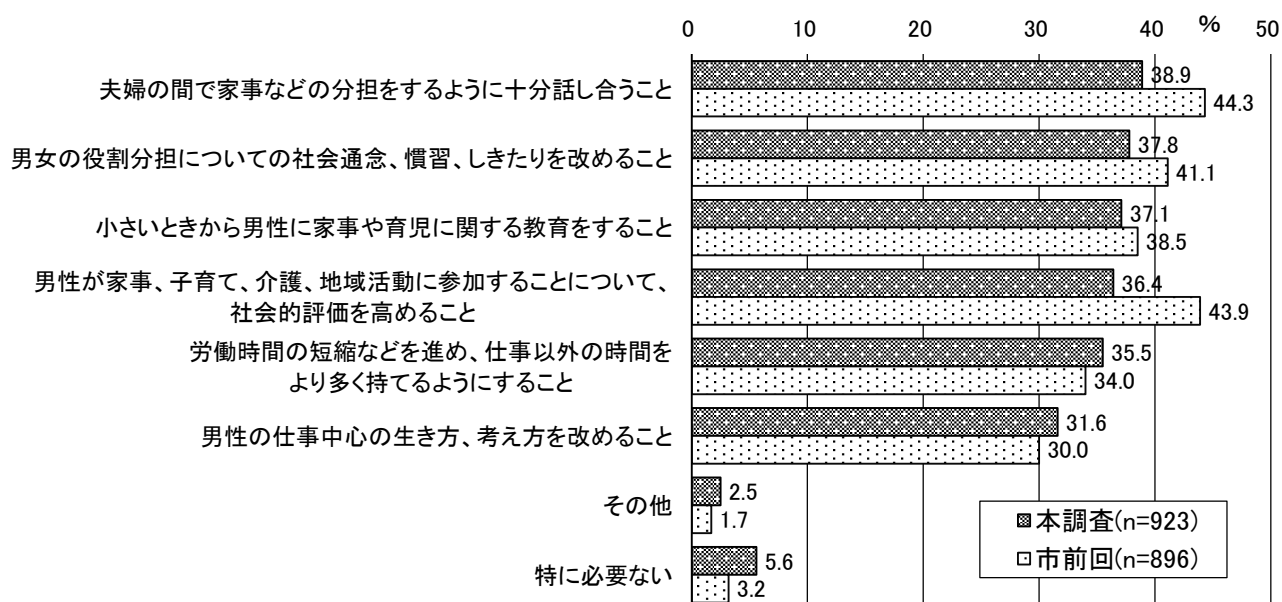
# 社会・地域活動に参加しようとする時さまたげになること

	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	仕事が忙しく、時間がない	自分の健康や体力に自信がない	経済的な余裕がない
男性 20 歳代 (n=31)	仕事が忙しく、時間がない	経済的な余裕がない やりたい活動をしているグループや団体を知らない	
男性 30 歳代 (n=50)	仕事が忙しく、時間がない	やりたい活動をしているグループや団体を知らない	経済的な余裕がない
男性 40 歳代 (n=76)	仕事が忙しく、時間がない	やりたい活動をしているグループや団体を知らない	経済的な余裕がない
男性 50 歳代 (n=56)	仕事が忙しく、時間がない	経済的な余裕がない	自分の健康や体力に自信がない
男性 60 歳代 (n=80)	経済的な余裕がない	やりたい活動をしているグループや団体を知らない 特にさまたげになることはない	
男性 70 歳以上 (n=104)	自分の健康や体力に自信がない	特にさまたげになることはない	やりたい活動をしているグループや団体を知らない
女性 20 歳代 (n=32)	仕事が忙しく、時間がない	やりたい活動をしているグループや団体を知らない	身近なところに活動する場所がない 経済的な余裕がない
女性 30 歳代 (n=85)	家事・育児が忙しく、時間がない	仕事が忙しく、時間がない	子どもの世話を頼めるところがない
女性 40 歳代 (n=106)	仕事が忙しく、時間がない	家事・育児が忙しく、時間がない	経済的な余裕がない
女性 50 歳代 (n=87)	仕事が忙しく、時間がない 自分の健康や体力に自信がない		経済的な余裕がない
女性 60 歳代 (n=94)	自分の健康や体力に自信がない	経済的な余裕がない	やりたい活動をしているグループや団体を知らない
女性 70 歳以上 (n=118)	自分の健康や体力に自信がない	特にさまたげになることはない	経済的な余裕がない

問 12 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、  
どのようなことが必要だと思いますか。[○は3つまで]

- ・第1位は「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」(38.9%)であるが、「その他」「特に必要ない」を除く選択肢のなかでは最下位の「男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること」(31.6%)とはわずか7ポイントの開きであり、集中した意見はない。
- ・「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」(36.4%)は前回調査から8ポイント、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」は5ポイント、それぞれ下がった。

### 男性が家事、子育てなどに参加するために必要なこと



- ・性・年齢別では「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」は男性 60 歳代と男女 70 歳以上で第1位となっており、高齢層で支持が高い。
- ・「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(35.5%)は全体では第5位であるが、男性 20 歳代～50 歳代と女性 20 歳代・30 歳代では第1位となっている。また「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」(36.4%)は全体で第4位であるが、男性 30 歳代～50 歳代と女性 30 歳代では第2位に、さらに女性 40 歳代では第1位になっているなど、若年層・中年層ではワーク・ライフ・バランスが重視されている。

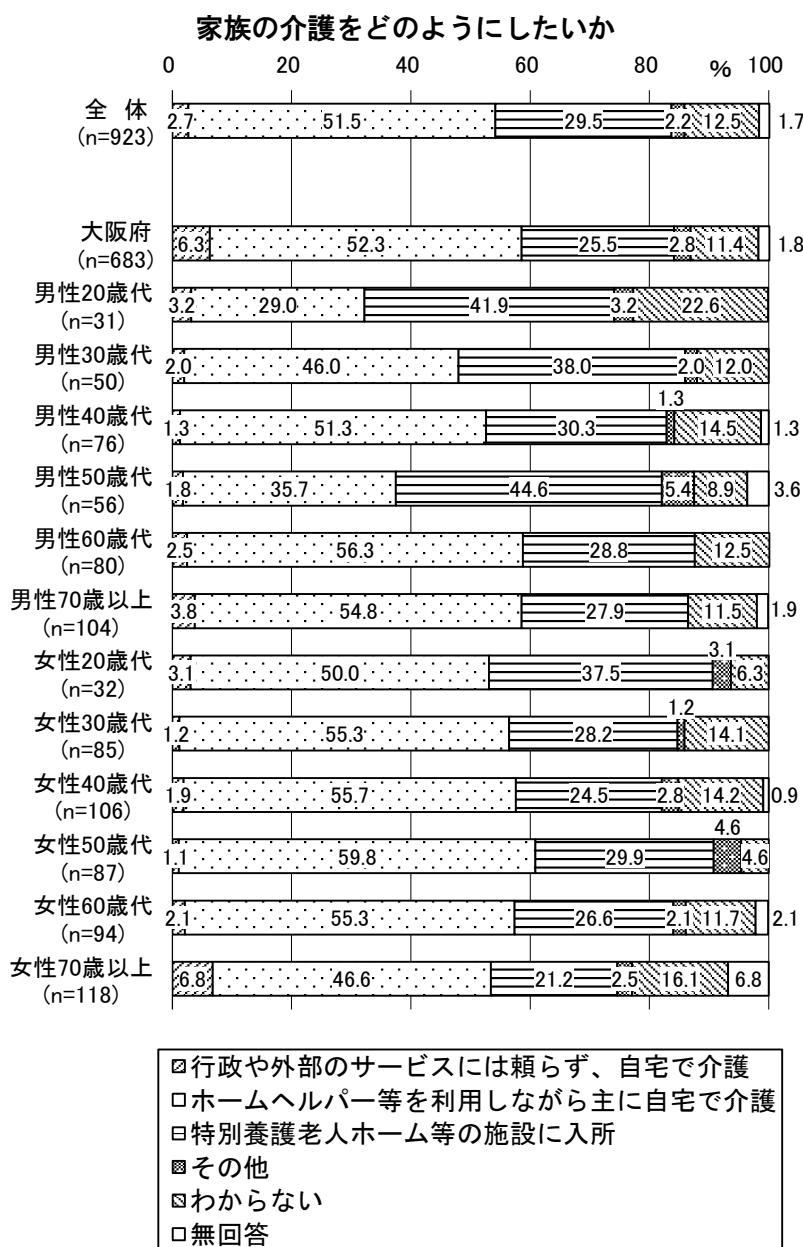
## 男性が家事、子育てなどに参加するときに必要なこと

	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること
男性 20 歳代 (n=31)	労働時間短縮などを進め、仕事以外の時間をより多くすること	夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること
男性 30 歳代 (n=50)	労働時間短縮などを進め、仕事以外の時間をより多くすること	男性が家事、子育てなどに参加することについて、社会的評価を高めること	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと
男性 40 歳代 (n=76)	労働時間短縮などを進め、仕事以外の時間をより多くすること	男性が家事、子育てなどに参加することについて、社会的評価を高めること	男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること
男性 50 歳代 (n=56)	労働時間短縮などを進め、仕事以外の時間をより多くすること	男性が家事、子育てなどに参加することについて、社会的評価を高めること	夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること
男性 60 歳代 (n=80)	夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	
男性 70 歳以上 (n=104)	夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること
女性 20 歳代 (n=32)	労働時間短縮などを進め、仕事以外の時間をより多くすること	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること	
女性 30 歳代 (n=85)	労働時間短縮などを進め、仕事以外の時間をより多くすること	男性が家事、子育てなどに参加することについて、社会的評価を高めること	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
女性 40 歳代 (n=106)	男性が家事、子育てなどに参加することについて、社会的評価を高めること	労働時間短縮などを進め、仕事以外の時間をより多くすること 小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること	
女性 50 歳代 (n=87)	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること		小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること
女性 60 歳代 (n=94)	小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	
女性 70 歳以上 (n=118)	夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること	男性が家事、子育てなどに参加することについて、社会的評価を高めること

## 介護について

問 13 自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、あなたはどのようにしたいとお考えですか。〔○は1つ〕

- ・「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護したい（している）」が51.5%で半数を超え、これに「特別養護老人ホーム等の施設に入所させたい（入所させている）」(29.5%)が次ぐ。
- ・「行政や外部のサービスには頼らず、自宅で介護したい（している）」は 2.7%で、大阪府調査の 6.3%よりやや低い。
- ・性・年齢別にみると、男性 50 歳代で「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護したい（している）」が 35.7%と全体に比べて 16 ポイントも低く、逆に「特別養護老人ホーム等の施設に入所させたい（入所させている）」が 44.6%と全体を 15 ポイント上回っている。「入所させたい」は男性 20 歳代でも高く、「主に自宅で介護したい」は 29.0%で最も低い。

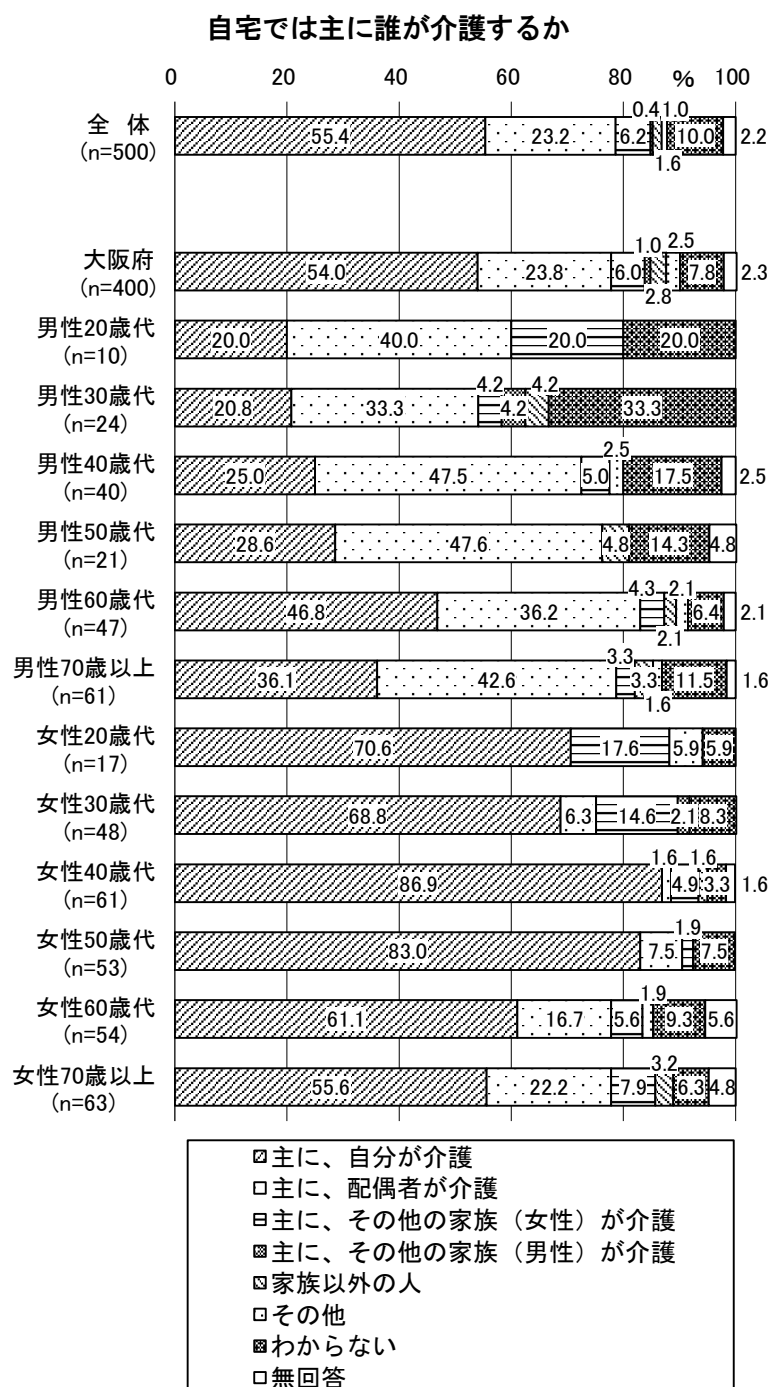


問 13-1 問 13 で「1」または「2」と答えた方におたずねします。

自宅で介護する場合、主に誰が介護することになると思いますか。[〇は1つ]

・「主に、自分が介護すると思う（している）」(55.4%)が過半数で、「主に、配偶者が介護すると思う（している）」(23.2%)、「主に、その他の家族（女性）が介護すると思う（している）」(6.2%)などとなっている。

・性・年齢別では、全体的に女性で「主に、自分が介護すると思う（している）」が高く、特に女性 40 歳代では 86.9%にのぼる。男性では 60 歳代を除くと「主に、自分が介護」よりも「主に、配偶者が介護」の割合が上回る。

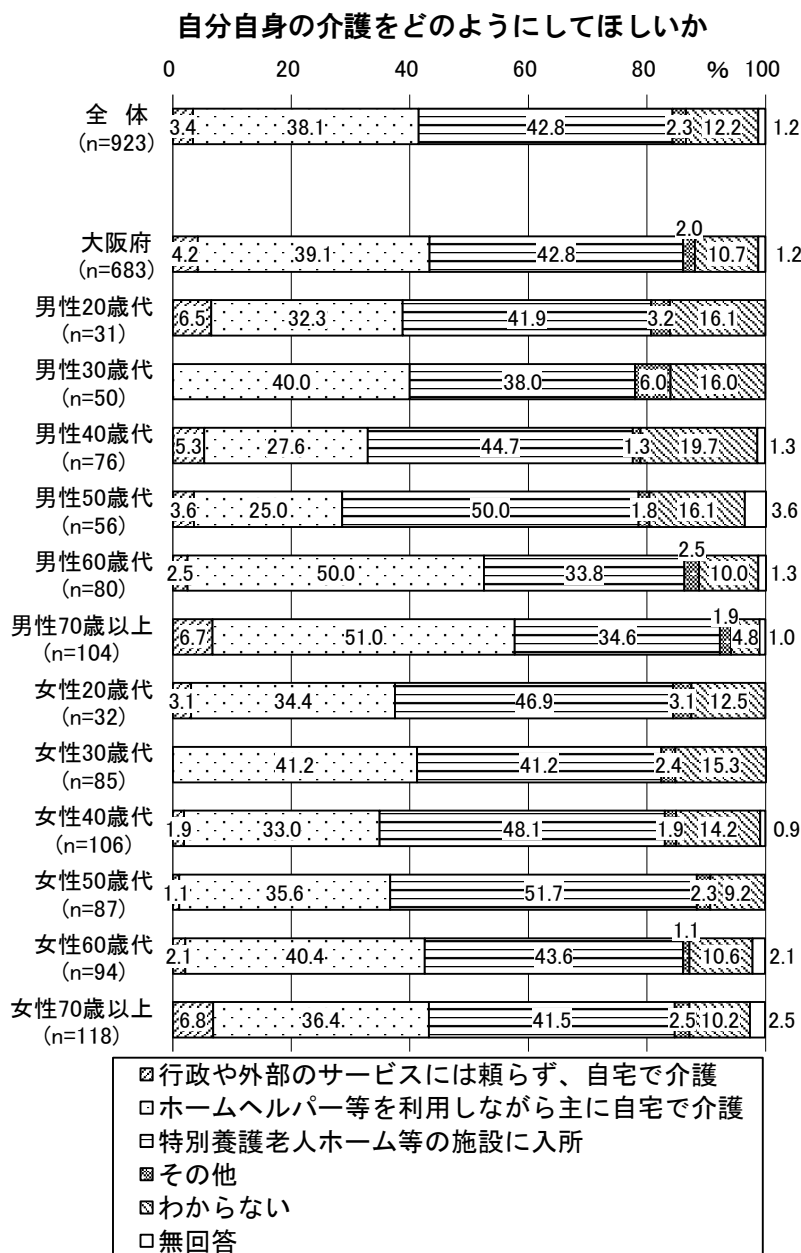


問 14 もしあなた自身が介護を要する状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。[〇は1つ]

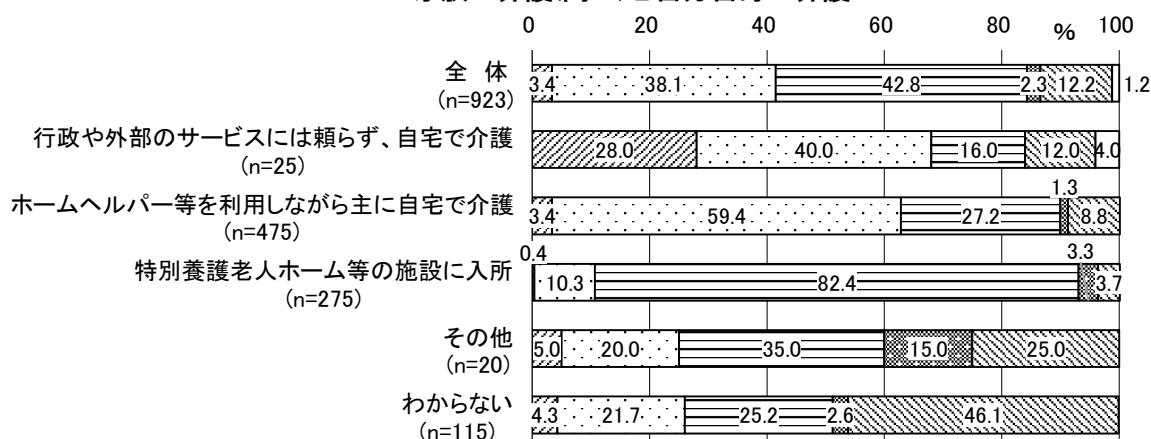
・「特別養護老人ホーム等の施設に入所したい」が42.8%、「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」が38.1%で、問13の家族に対する介護の場合と順位が逆転している。

・「入所したい」の割合は男性・女性ともに50歳代が最も高く半数以上になっている。男性の60歳以上では「ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護してもらいたい」が半数以上と高く、「入所したい」とする割合を上回っている。

・問13で尋ねた家族に対する介護のしかたとの関係を見ると「施設に入所」とした回答者の82.4%が、自分も施設に入所したいと答えるなど、家族に対する介護のしかたの傾向とおおむね一致している。「(すべて) 自宅で介護」とした回答者は、自分の介護についても28.0%が自宅で介護してほしいとしており全体より高いものの、「主に自宅で介護」とする割合が40.0%と最も高くなっている。



家族の介護(問13)と自分自身の介護



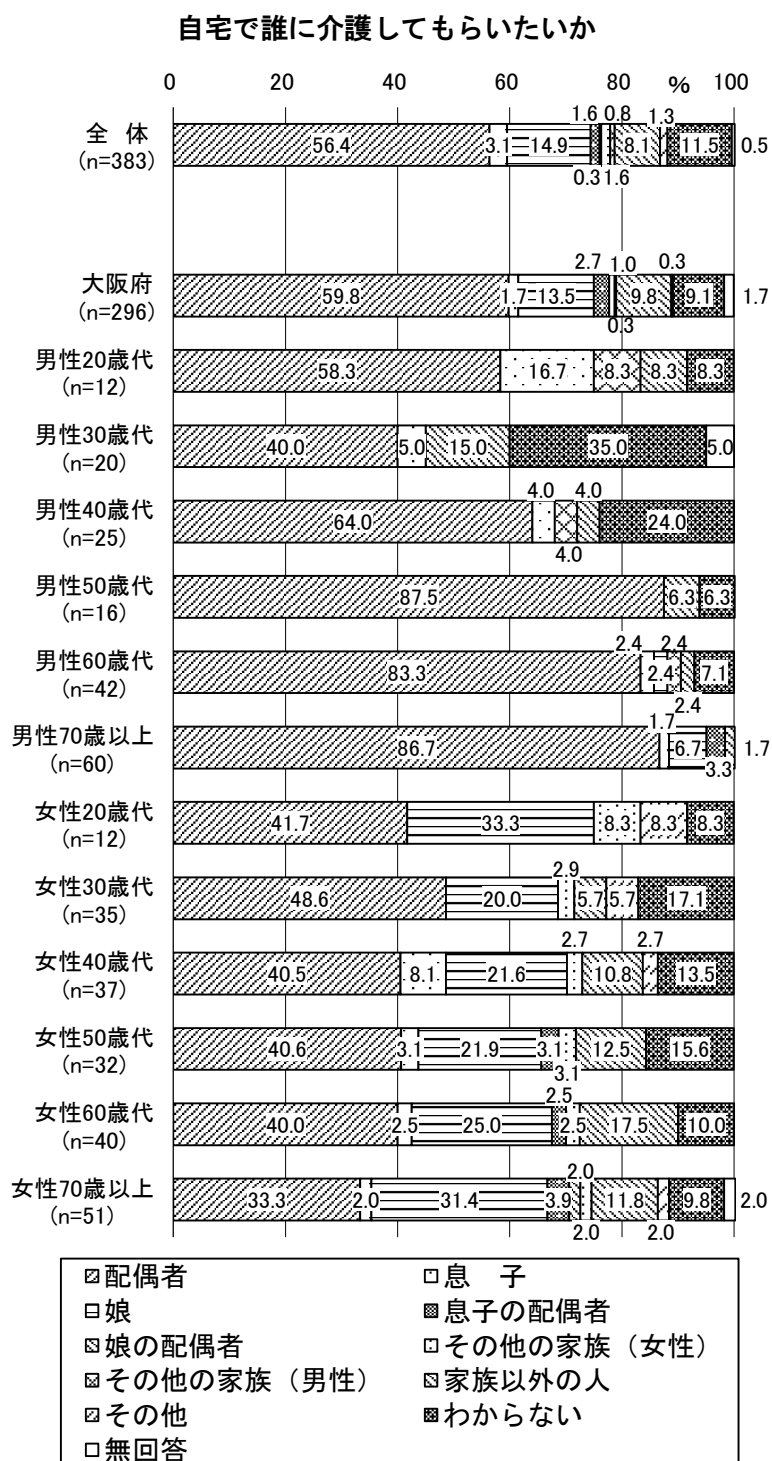


問 14-1 問 14 で「1」または「2」と答えた方におたずねします。

自宅で介護される場合、主に誰に介護してもらいたと思いますか。[Oは1つ]

・「配偶者」が 56.4%と過半数で、これに「娘」(14.9%)、「家族以外の人」(8.1%)が続く。

・男性では、30 歳代を除くと過半数が配偶者の介護を望んでいるのに対して、女性はすべての年齢層で配偶者の介護を望む割合は半数を下回っている。女性が配偶者の次に望む介護者は娘である。「家族以外の人」を望む割合は、女性 60 歳代、男性 30 歳代などで高い。



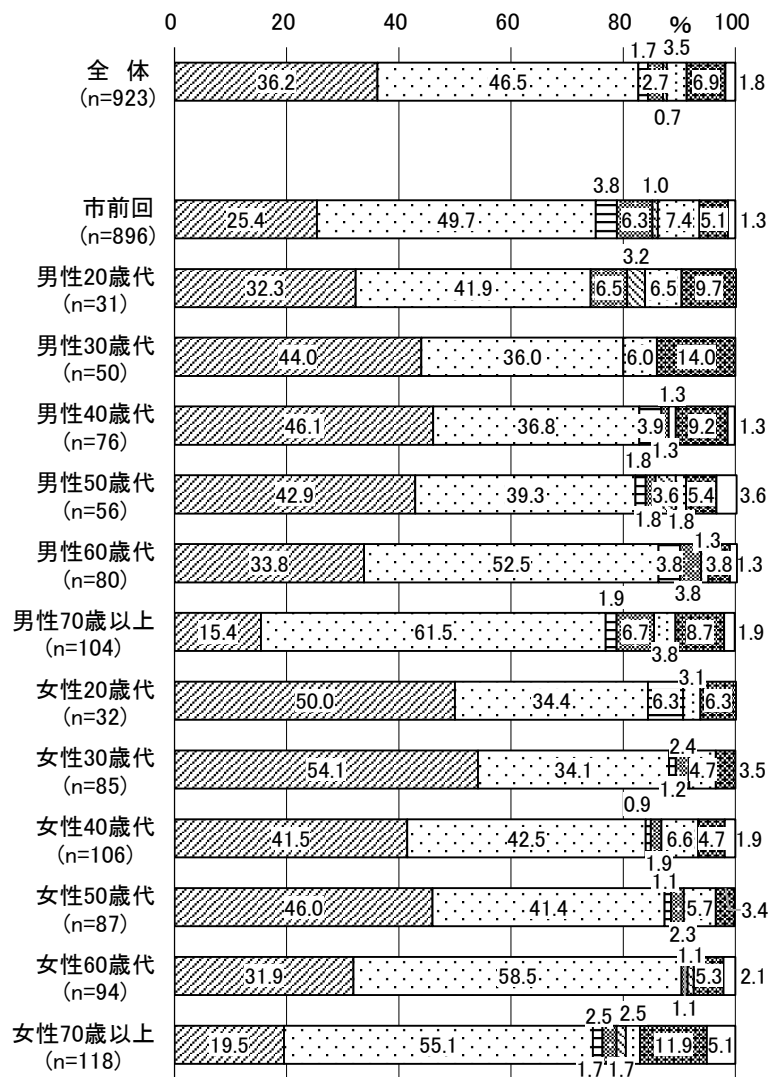
## 働くことについて

問 15 一般に、女性が職業を持つことについて、次のどれが望ましいと思いますか。

〔○は1つ〕

- ・「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ」(46.5%)が最も多く、「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」(36.2%)がこれに次いでいる。
- ・前回調査と比較すると「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」が 11 ポイント上昇している。
- ・性・年齢別では「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ」は男性 70 歳以上や女性 60 歳以上の高年層において高い。
- ・「結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ」が最も低いのは女性の 20 歳代と 30 歳代であり、この層は「職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける」という意見への支持が半数以上になっている。

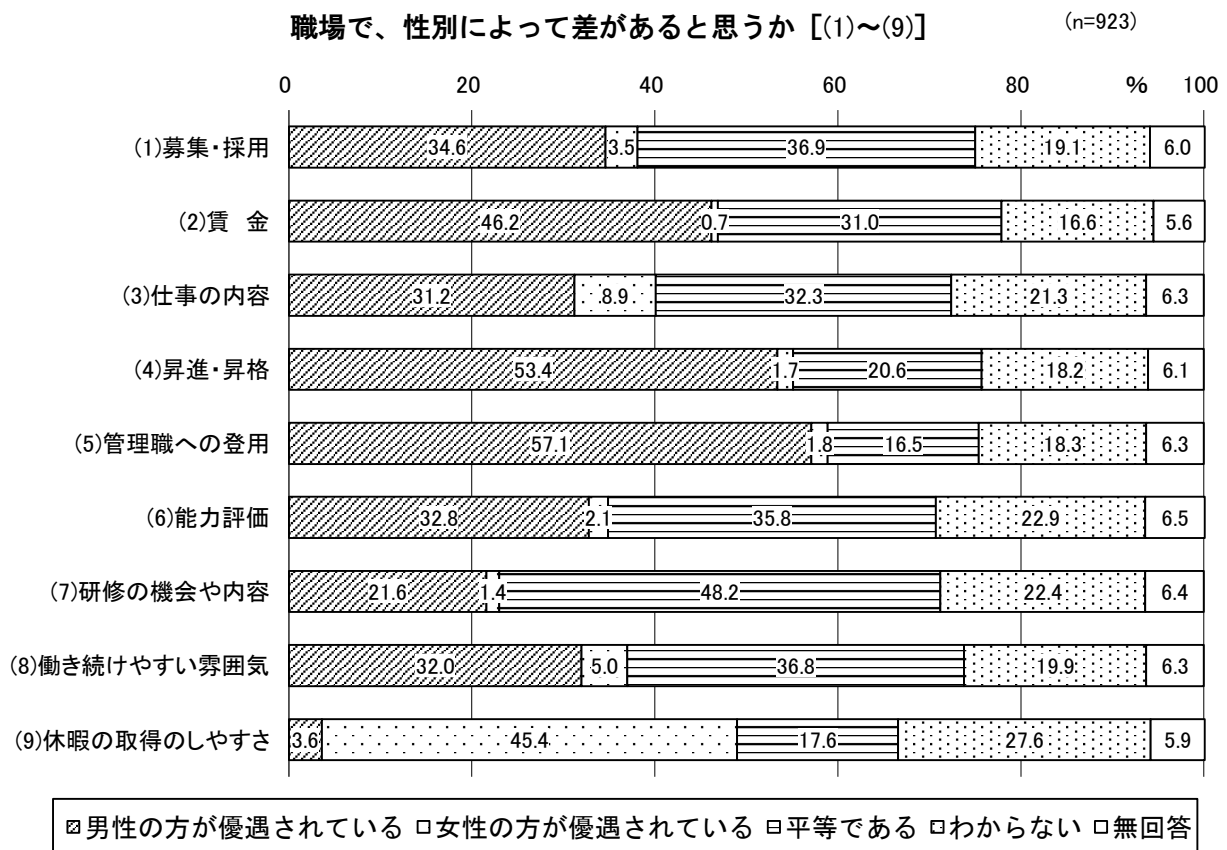
女性が職業を持つことについて



- 職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける
- 結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後再び職業を持つ
- 結婚を機に退職し、後は職業を持たない
- 出産を機に退職し、後は職業を持たない
- 職業を持たない
- その他
- わからない
- 無回答

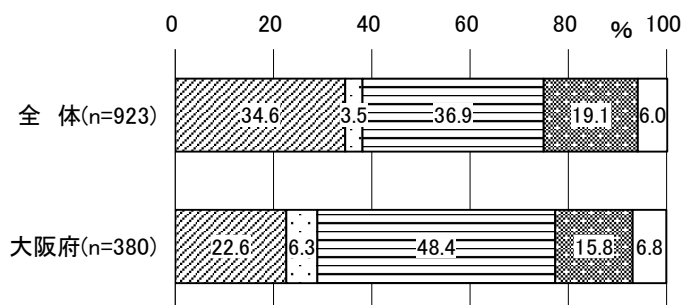
問 16 (働いている方に) あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。  
(働いていない方に) 一般に、職場では、性別によって差があると思いますか。  
[(1)～(9)それぞれに、○は1つ]

- ・「男性の方が優遇されている」が高いのは〈(5)管理職への登用〉(57.1%)、〈(4)昇進・昇格〉(53.4%)、〈(2)賃 金〉(46.2%)などである。「女性の方が優遇されている」が高いのは〈(9)育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ〉(45.4%)であるが、これ以外の項目では「女性の方が優遇されている」は10%に満たない。「平等である」とする割合が高いのは〈(7)研修の機会や内容〉(48.2%)、〈(1)募集・採用〉(36.9%)、〈(8)働き続けやすい雰囲気〉(36.8%)などである。
- ・大阪府調査との比較では、概して「男性の方が優遇されている」の割合が高く、〈(4)昇進・昇格〉では19ポイント、〈(5)管理職への登用〉では17ポイント大阪府調査を上回っている。

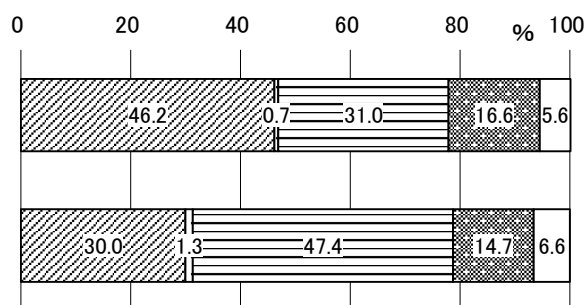


- ・性・年齢別で加重点をみると、全体的に男性よりも女性で、また高年層で男性を優遇視する傾向が強い。ただし〈(3)仕事の内容〉〈(7)働き続けやすい雰囲気〉のように、男性の若年層を中心に男女いずれにも優遇視しない項目もある。

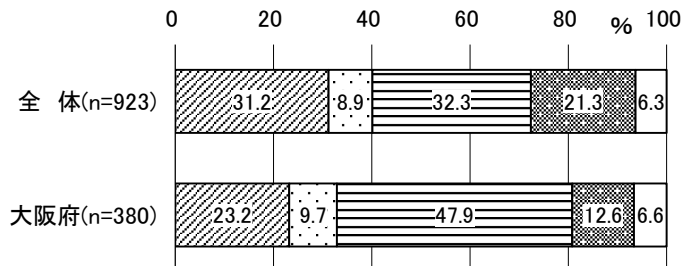
(1)募集・採用



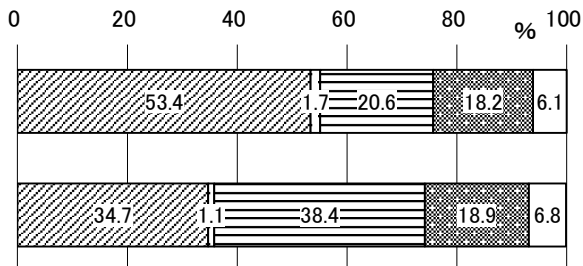
(2)賃金



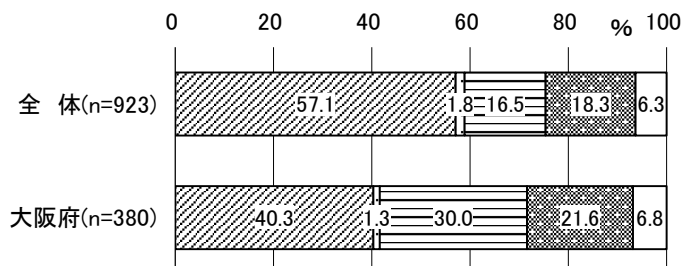
(3)仕事の内容



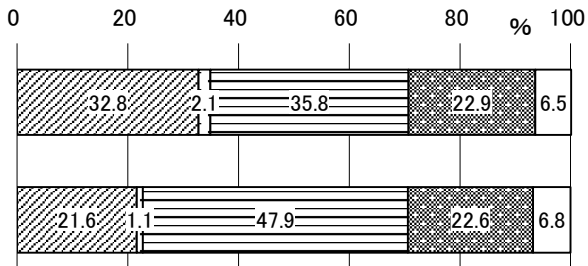
(4)昇進・昇格



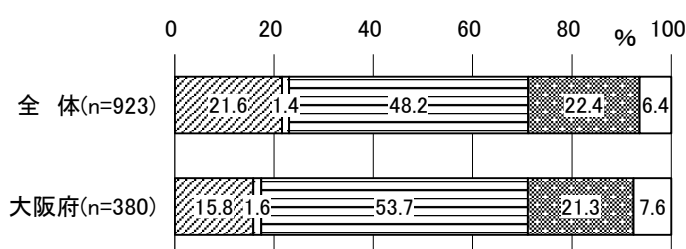
(5)管理職への登用



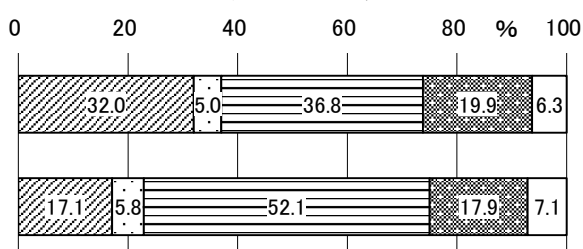
(6)能力評価



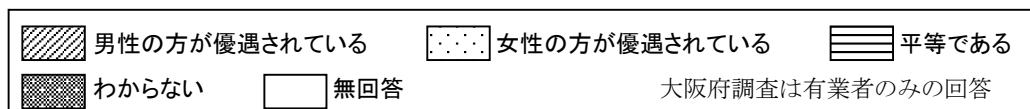
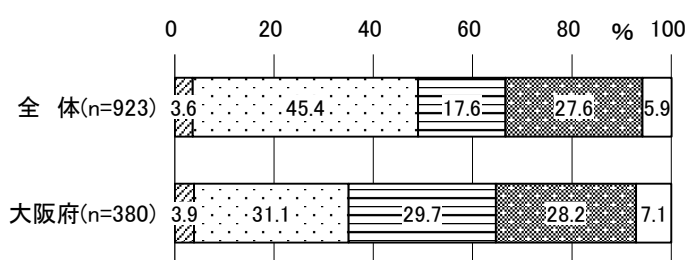
(7)研修の機会や内容



(8)働き続けやすい雰囲気

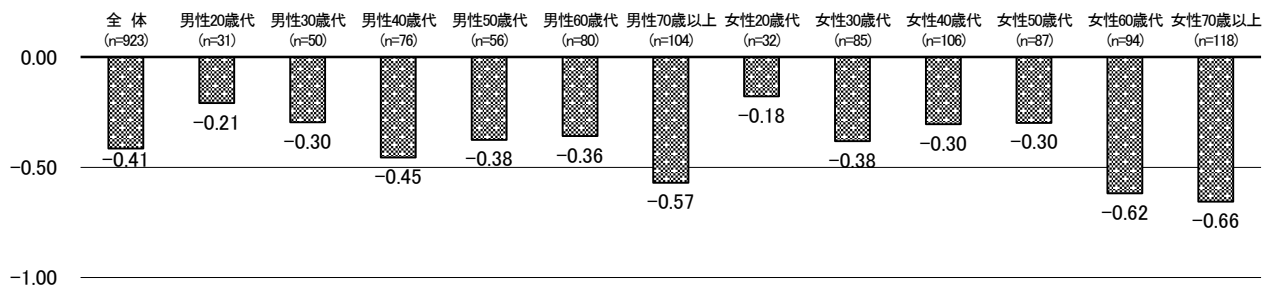


(9)休暇の取得のしやすさ

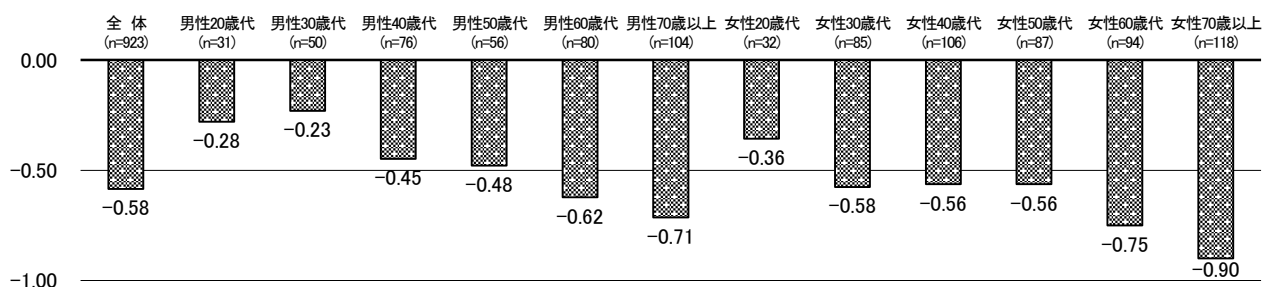


(1)～(9)のグラフは、「男性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」「平等である」の回答1件あたりにそれぞれ、－1点、1点、0点を与え、これらを合計したものを、上記の回答合計件数で除した値(加重点)である。加重点が低いほど男性優遇視、高いほど女性優遇視とみることができる。

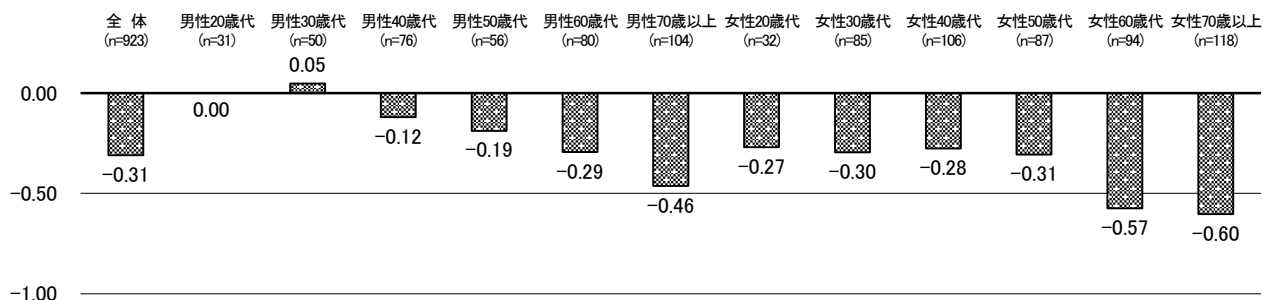
## (1) 募集・採用



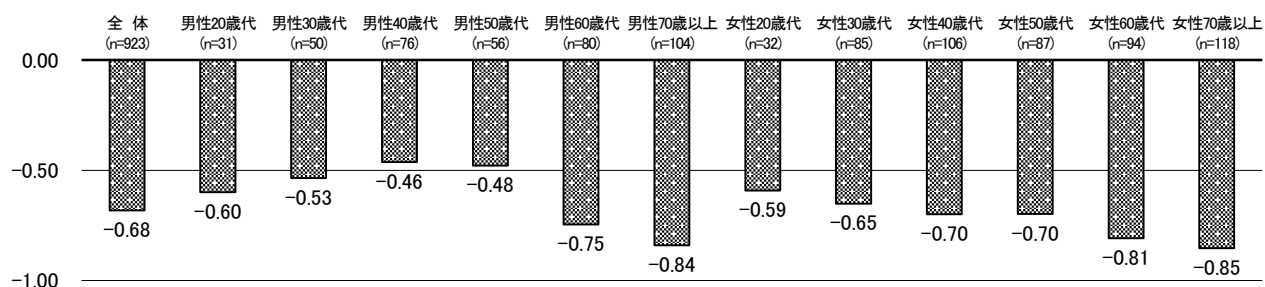
## (2) 賃金



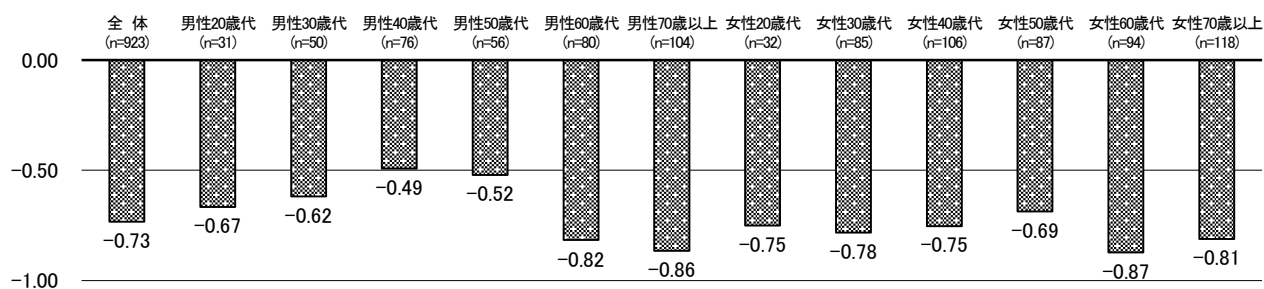
## (3) 仕事の内容



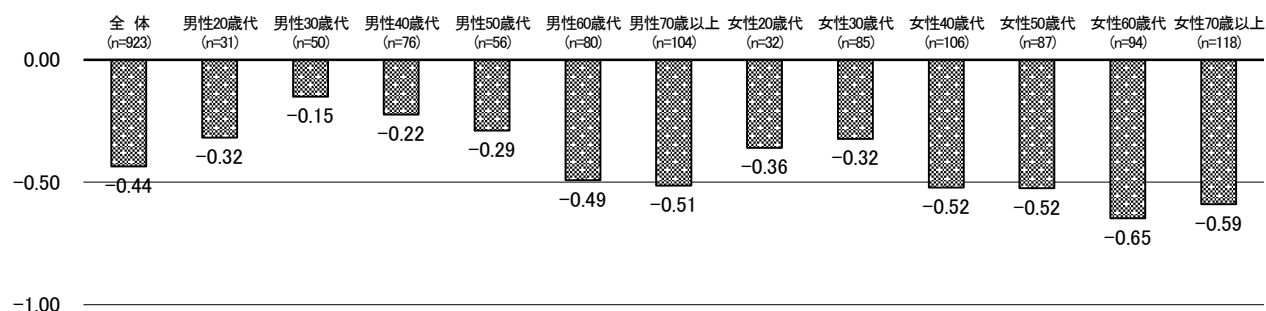
## (4) 昇進・昇格



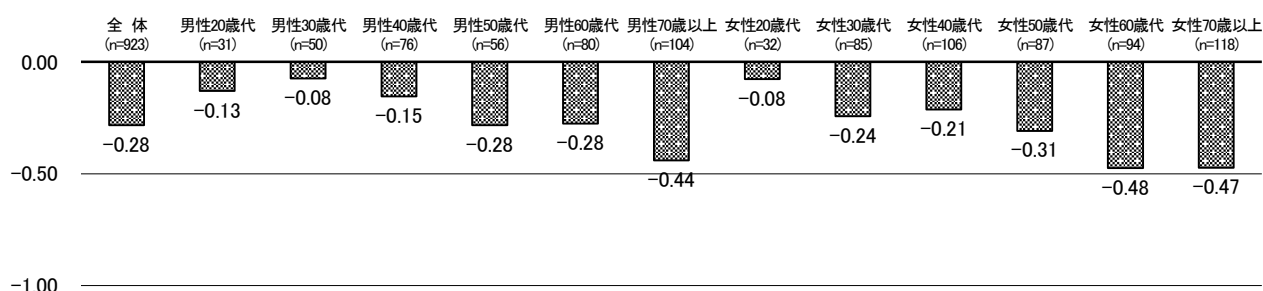
## (5) 管理職への登用



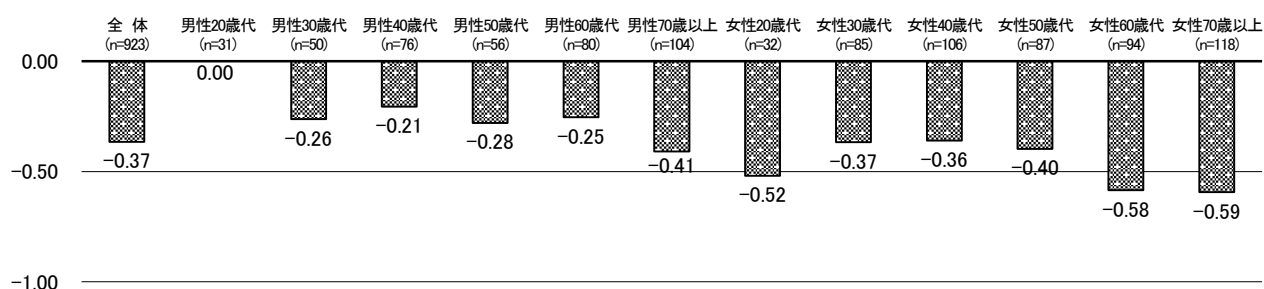
## (6) 能力評価



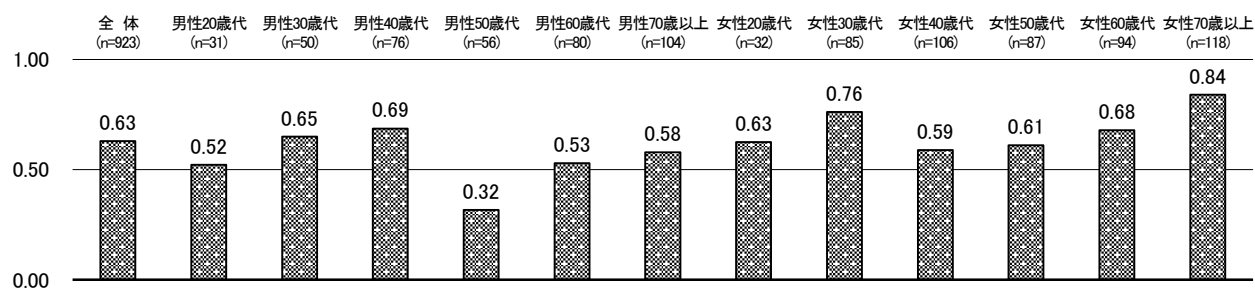
## (7) 研修の機会や内容



## (8) 働き続けやすい雰囲気

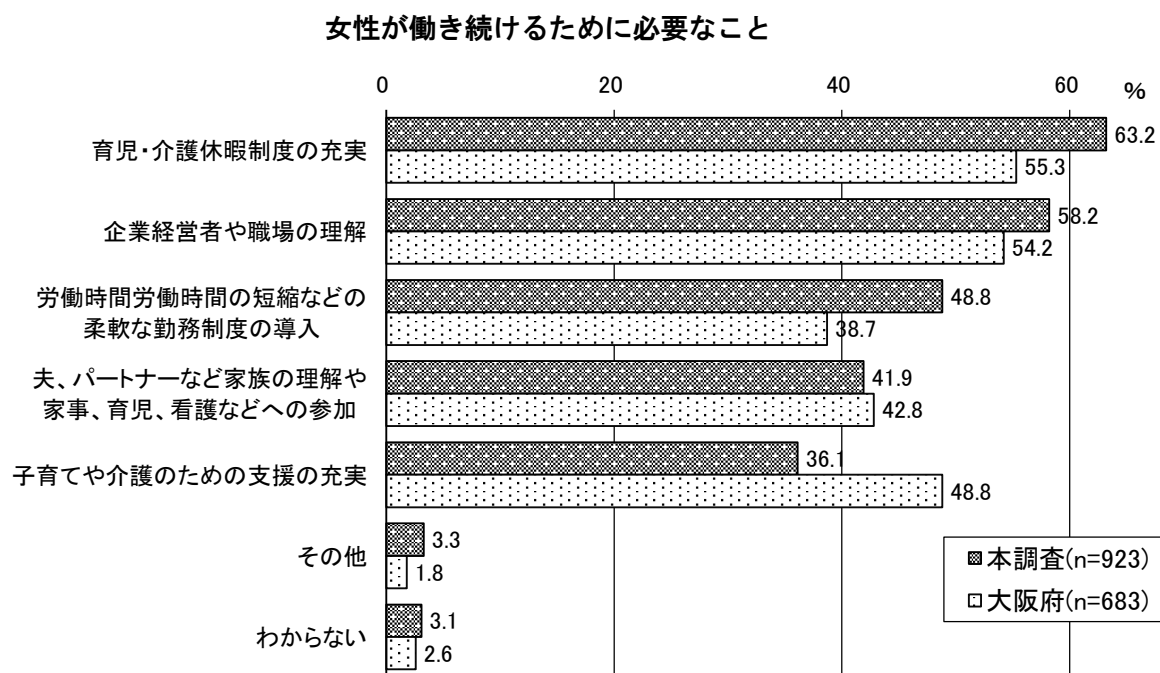


## (9) 休暇の取得のしやすさ



**問 17 出産・子育て・介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。[○は3つまで]**

- ・上位の3項目は「育児・介護休暇制度の充実」(63.2%)、「企業経営者や職場の理解」(58.2%)、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」(48.8%)であり、働きやすくする公的制度や勤務先の理解・制度が優先されている。
- ・上の3項目は大阪府調査を4ポイントから10ポイント上回っている。「子育てや介護のための支援の充実」は逆に府を13ポイント下回っている。



- ・性・年齢別にみると、男性では「育児・介護休暇制度の充実」と並んで「企業経営者や職場の理解」が第1位になっている層が多い。有職率が高い女性の20歳代と30歳代では「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が第1位になっている。

## 女性が働き続けるために必要なこと

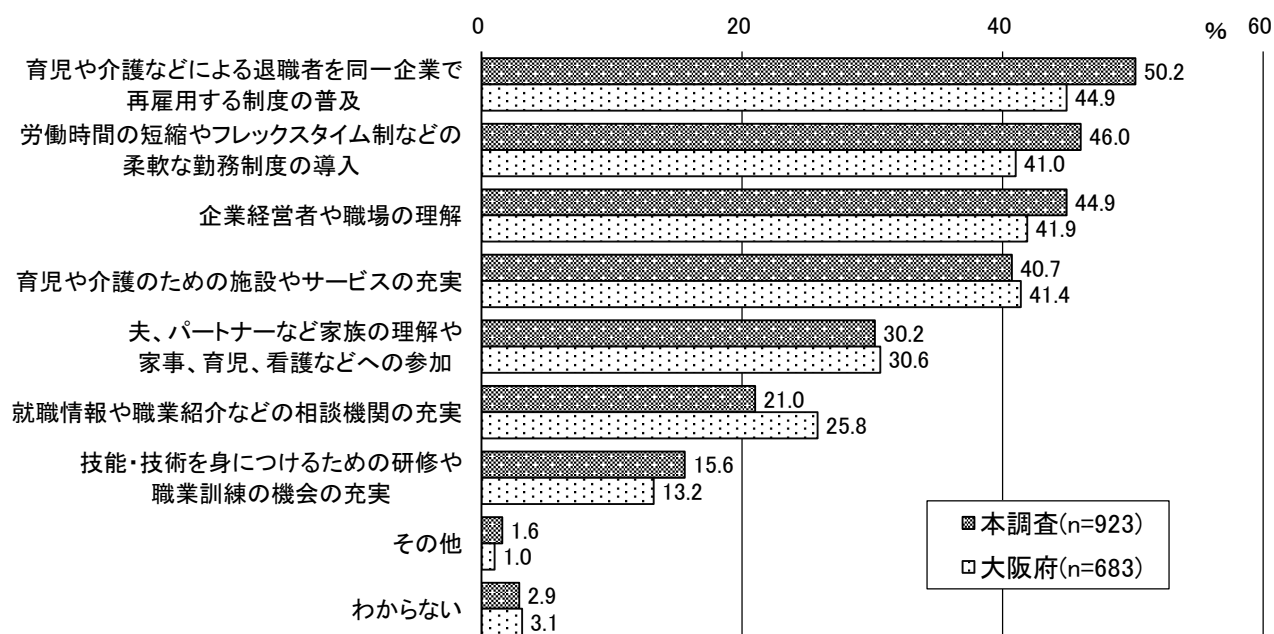
	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	育児・介護休暇制度の充実	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮などの導入
男性 20 歳代 (n=31)	労働時間の短縮などの導入	育児・介護休暇制度の充実	企業経営者や職場の理解
男性 30 歳代 (n=50)	育児・介護休暇制度の充実	労働時間の短縮などの導入	企業経営者や職場の理解
男性 40 歳代 (n=76)	育児・介護休暇制度の充実 企業経営者や職場の理解		労働時間の短縮などの導入
男性 50 歳代 (n=56)	育児・介護休暇制度の充実 企業経営者や職場の理解		子育てや介護のための支援の充実
男性 60 歳代 (n=80)	育児・介護休暇制度の充実 企業経営者や職場の理解		夫など家族の理解や家事などへの参加
男性 70 歳以上 (n=104)	育児・介護休暇制度の充実	企業経営者や職場の理解	子育てや介護のための支援の充実
女性 20 歳代 (n=32)	労働時間の短縮などの導入	育児・介護休暇制度の充実	企業経営者や職場の理解
女性 30 歳代 (n=85)	労働時間の短縮などの導入	企業経営者や職場の理解	育児・介護休暇制度の充実
女性 40 歳代 (n=106)	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮などの導入	育児・介護休暇制度の充実
女性 50 歳代 (n=87)	育児・介護休暇制度の充実	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮などの導入
女性 60 歳代 (n=94)	育児・介護休暇制度の充実	企業経営者や職場の理解	夫など家族の理解や家事などへの参加
女性 70 歳以上 (n=118)	育児・介護休暇制度の充実	夫など家族の理解や家事などへの参加	企業経営者や職場の理解



**問 18 出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。[○は3つまで]**

- ・「育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及」が50.2%で、半数の回答者に支持されている。このほか「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」(46.0%)、「企業経営者や職場の理解」(44.9%)、「育児や介護のための施設やサービスの充実」(40.7%)が40%以上である。上位の2項目は公的制度の改善や勤務先の制度の改善であり、問17（女性が働き続けるために必要なこと）と共通した意見内容となっている。
- ・大阪府調査との比較では、支持する順位はおおむね似ている。また上位の項目では府を上回っているものが多い。

**再就職を希望する女性が再就職しやすくなるために必要なこと**



- ・性・年齢別では、男女とも30歳代と40歳代で「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が第1位になっている。

## 再就職を希望する女性が再就職しやすくなるために必要なこと

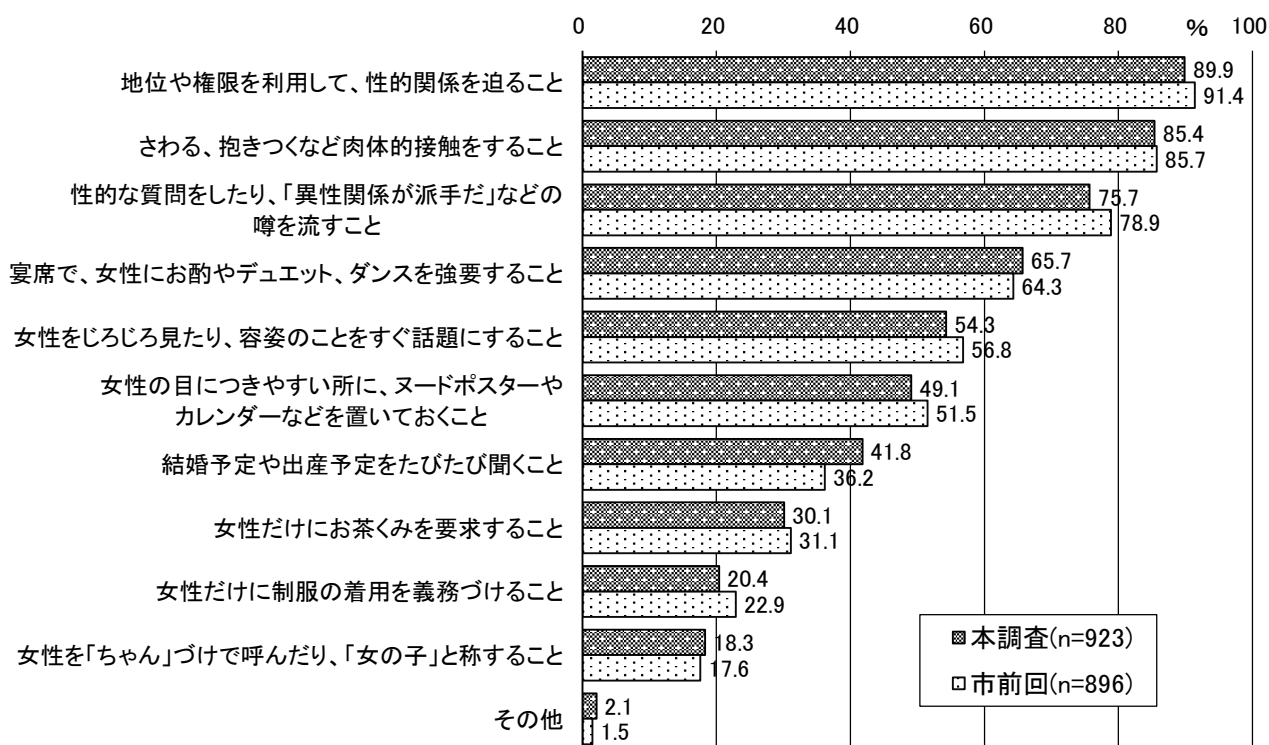
	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	労働時間の短縮などの導入	企業経営者や職場の理解
男性 20 歳代 (n=31)	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮などの導入
男性 30 歳代 (n=50)	労働時間の短縮などの導入	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解 育児や介護のための施設やサービスの充実
男性 40 歳代 (n=76)	労働時間の短縮などの導入	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解
男性 50 歳代 (n=56)	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	育児や介護のための施設やサービスの充実
男性 60 歳代 (n=80)	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮などの導入
男性 70 歳以上 (n=104)	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮などの導入
女性 20 歳代 (n=32)	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	労働時間の短縮などの導入
女性 30 歳代 (n=85)	労働時間の短縮などの導入	育児や介護のための施設やサービスの充実	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及 企業経営者や職場の理解
女性 40 歳代 (n=106)	労働時間の短縮などの導入	企業経営者や職場の理解	夫など家族の理解や家事などへの参加
女性 50 歳代 (n=87)	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	労働時間の短縮などの導入	育児や介護のための施設やサービスの充実
女性 60 歳代 (n=94)	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	企業経営者や職場の理解	育児や介護のための施設やサービスの充実
女性 70 歳以上 (n=118)	育児や介護のための施設やサービスの充実	退職者を同一企業で再雇用する制度の普及	労働時間の短縮などの導入

## 性的いやがらせや配偶者間の暴力について

問 19 次のうち、あなたがセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）だと思うものは、どれですか。〔○はいくつでも〕

- ・過半数がセクシュアル・ハラスメントであると判断している項目は「地位や権限を利用して、性的関係を迫ること」(89.9%)、「さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」(85.4%)、「性的な質問をしたり、『異性関係が派手だ』などの噂を流すこと」(75.7%)、「宴席で、女性にお酌やデュエット、ダンスを強要すること」(65.7%)、「女性をじろじろ見たり、容姿のことをすぐ話題にすること」(54.3%)である。
- ・前回調査との比較では、順位、割合ともにほぼ同様であるが、「結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと」(41.8%)は6ポイント上昇した。

### セクシュアル・ハラスメントだと思うこと



- ・性・年齢層で上位3項目をみるとほとんど一致しているが、女性20歳代では「性的な質問をしたり、『異性関係が派手だ』などの噂を流すこと」が第2位となっている。

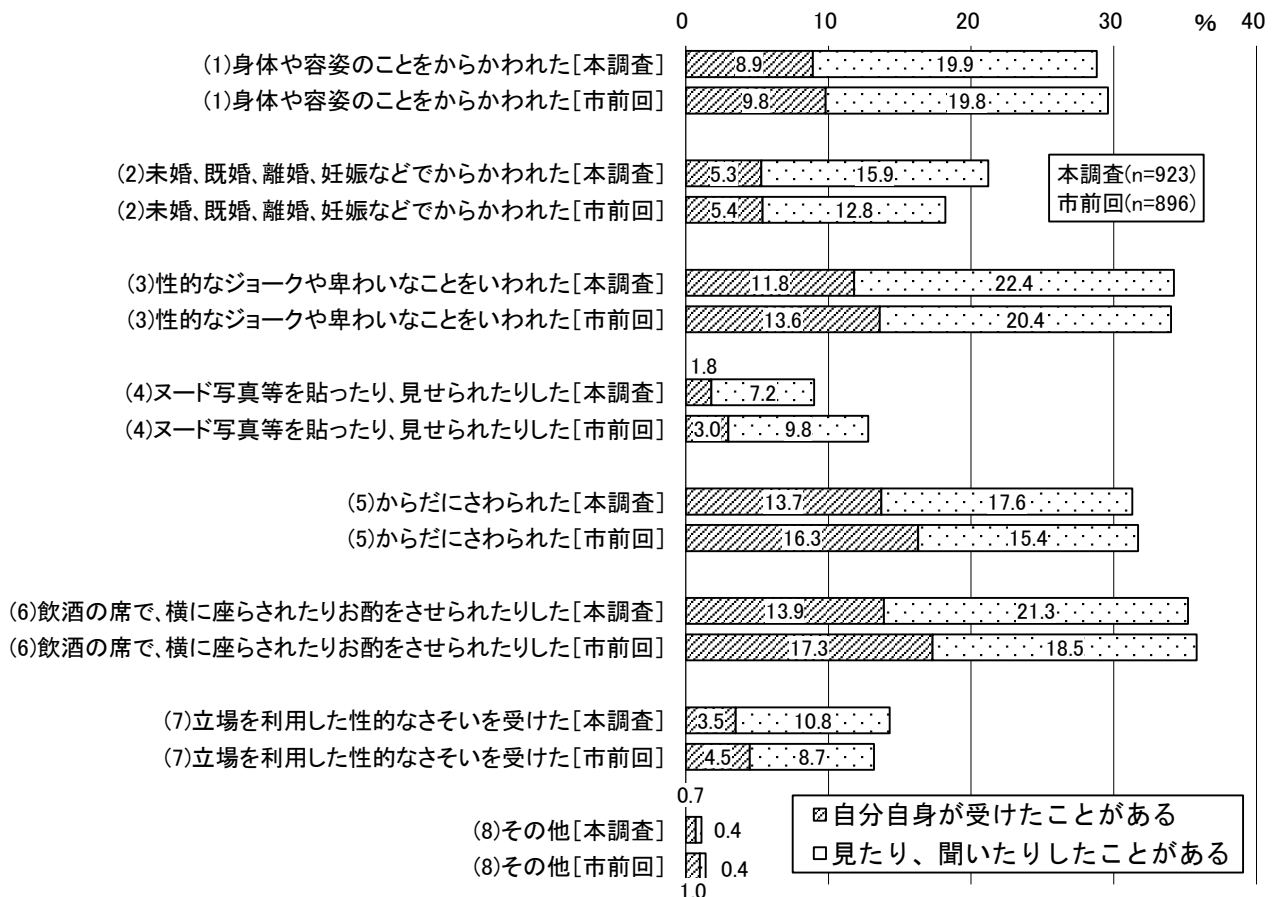
## セクシュアル・ハラスメントだと思うこと

	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと
男性 20 歳代 (n=31)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと 宴席で、女性にお酌やデュエット、ダンスを強要すること	
男性 30 歳代 (n=50)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと
男性 40 歳代 (n=76)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと
男性 50 歳代 (n=56)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと
男性 60 歳代 (n=80)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと
男性 70 歳以上 (n=104)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと
女性 20 歳代 (n=32)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること
女性 30 歳代 (n=85)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと
女性 40 歳代 (n=106)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと
女性 50 歳代 (n=87)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと
女性 60 歳代 (n=94)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと
女性 70 歳以上 (n=118)	地位や権限を利用して、性的関係を迫ること	さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること	性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと

**問 20 あなたは、身近でセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を見たり、聞いたり、あるいは自分自身が受けたったりした事がありますか。また、それはどのような内容でしたか。〔○はいくつでも〕**

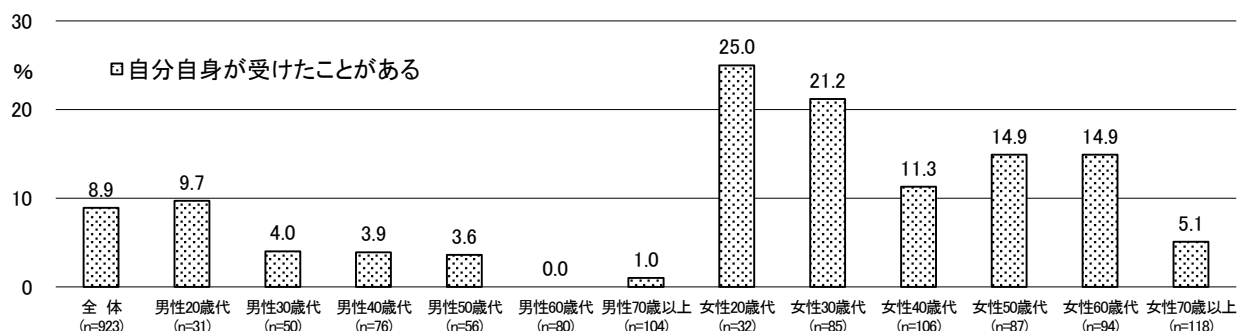
- ・「自分自身が受けたことがある」とする割合が 10%を超えるのは〈(6)飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした〉(13.9%)、〈(5)からだにさわられた〉(13.7%)、〈(3)性的なジョークや卑わいなことをいわれた〉(11.8%)である。
- ・問 19（セクシュアル・ハラスメントだと思うこと）の結果と比較すると、問 19 で第 1 位の「地位や権限を利用して性的な関係を迫ること」は、この設問では〈(7)立場を利用した性的なさそいを受けた〉に対応するが、「自分自身が受けたことがある」とする割合は 3.5%で高くない。しかし問 19 第 2 位の「さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること」に対応する〈(5)からだにさわられた〉はこの設問でも第 2 位に、また問 19 第 3 位「性的な質問をしたり、『異性関係が派手だ』などの噂を流すこと」という言葉によるいやがらせは、ここでの〈(3)性的なジョークや卑わいなことをいわれた〉に対応していて第 3 位と高い。
- ・前回調査と比較すると、(1)～(7)について「自分自身が受けたことがある」とする割合はすべて下回っている。

#### セクシュアル・ハラスメントを受けたり聞いたりした体験 [(1)～(8)]

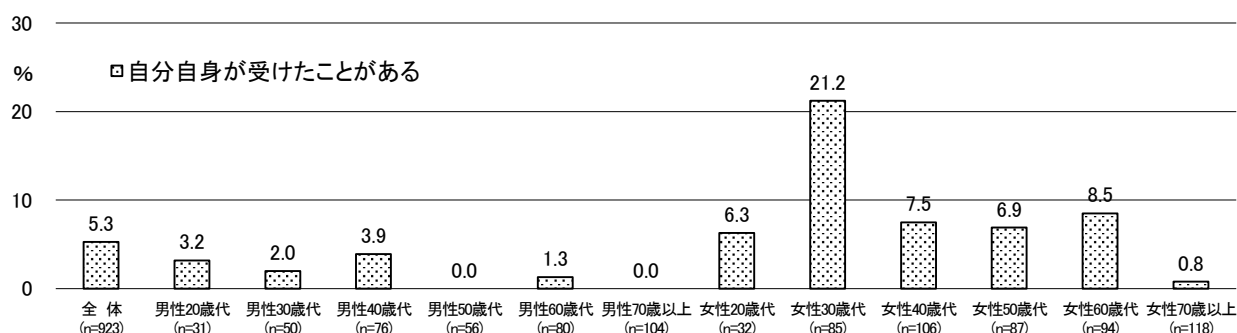


- ・「自分自身が受けたことがある」とする割合を性・年齢別でみると、いずれも女性 20 歳代と 30 歳代で多い。特に第 1 位である〈(6)飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした〉はこの層で約 3 人に 1 人が体験している。

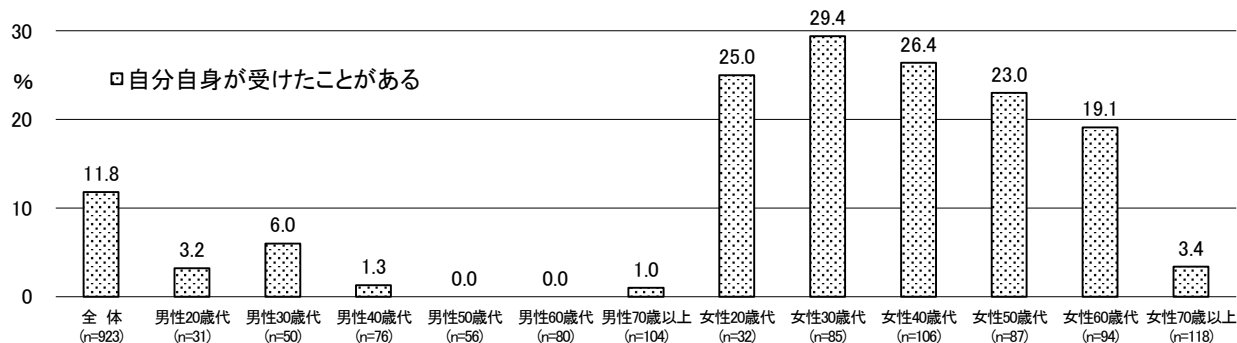
## (1) 身体や容姿のことをからかわれた



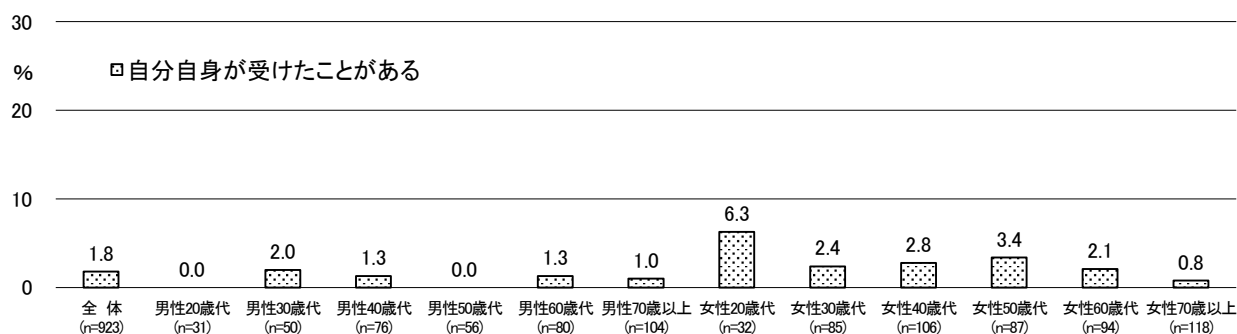
## (2) 未婚、既婚、離婚、妊娠などでからかわれた



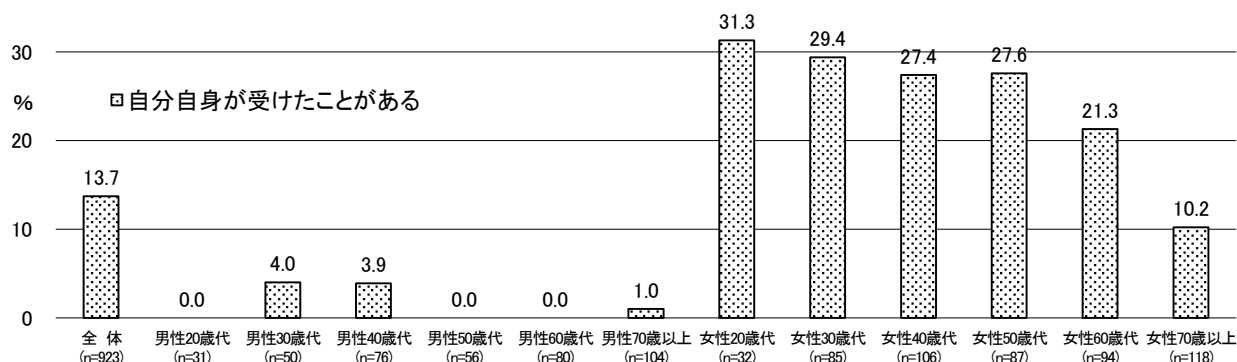
## (3) 性的なジョークや卑わいなことをいわれた



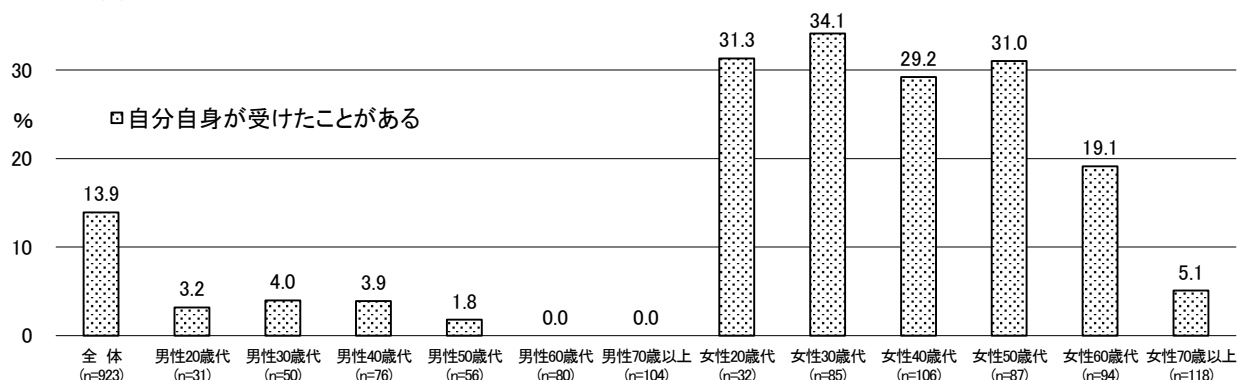
## (4) ヌード写真等を貼ったり、みせられたりした



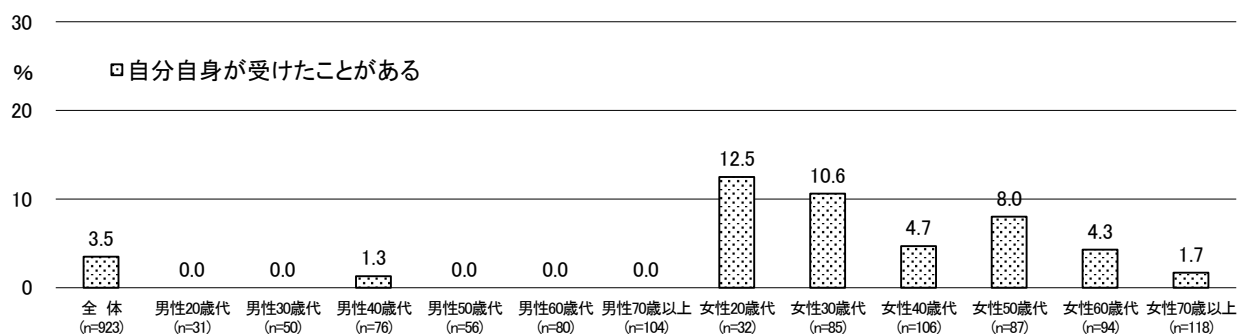
### (5) からだにさわられた



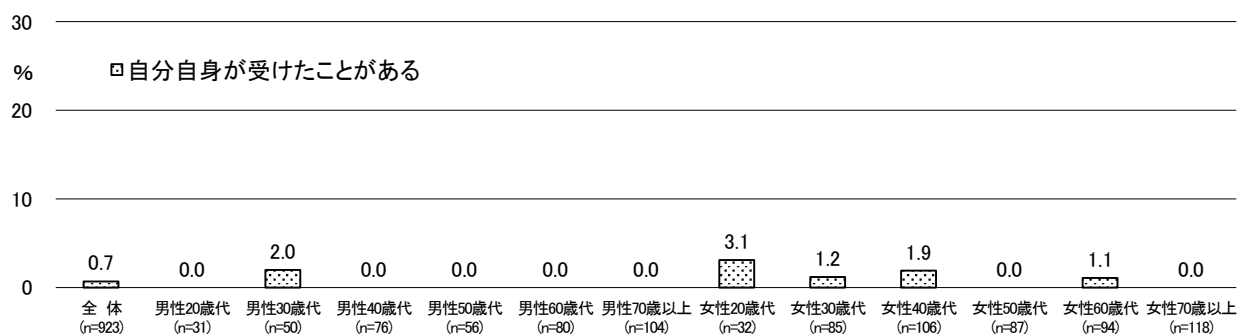
### (6) 飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした



### (7) 立場を利用した性的なさそいを受けた

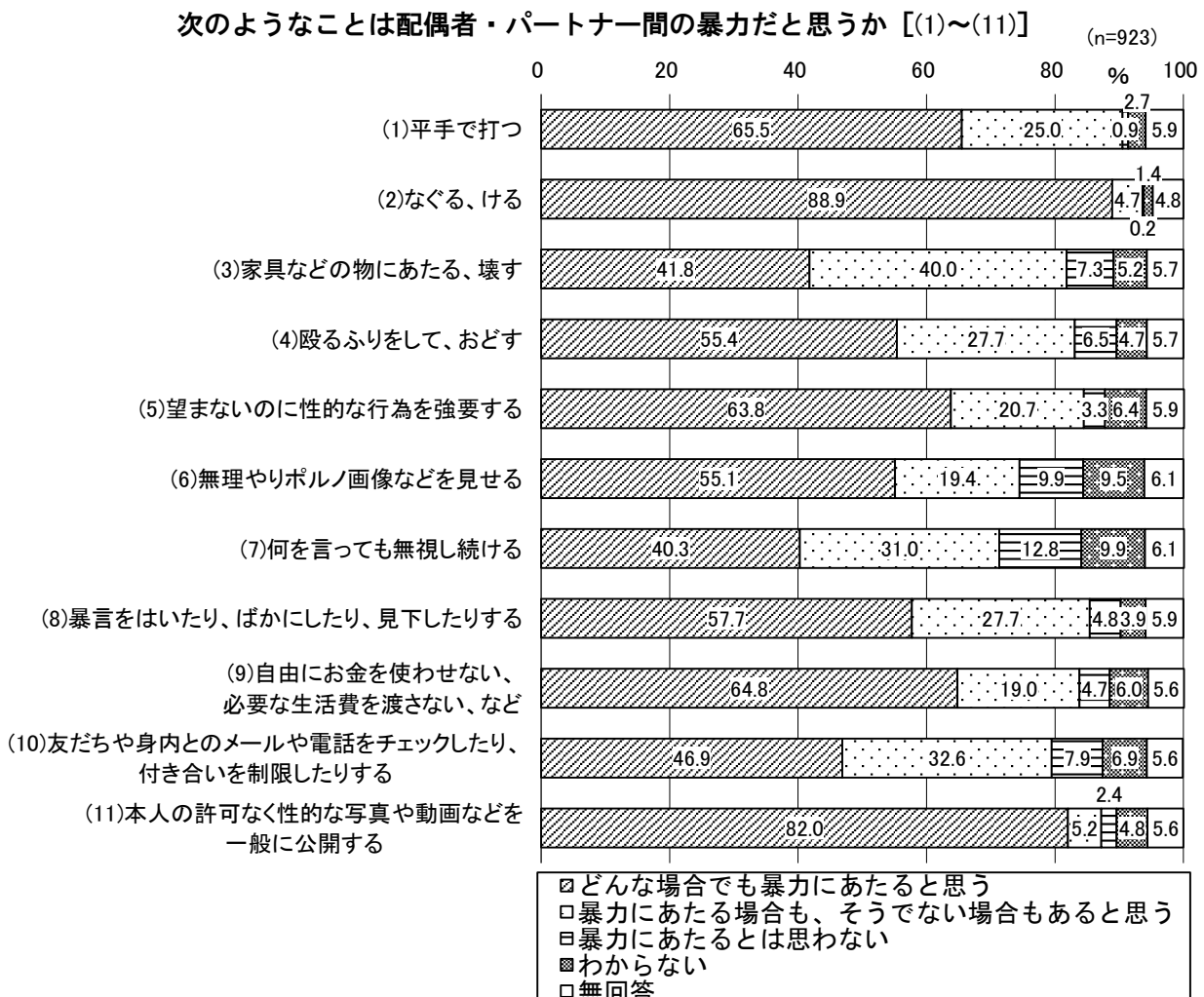


### (8) その他

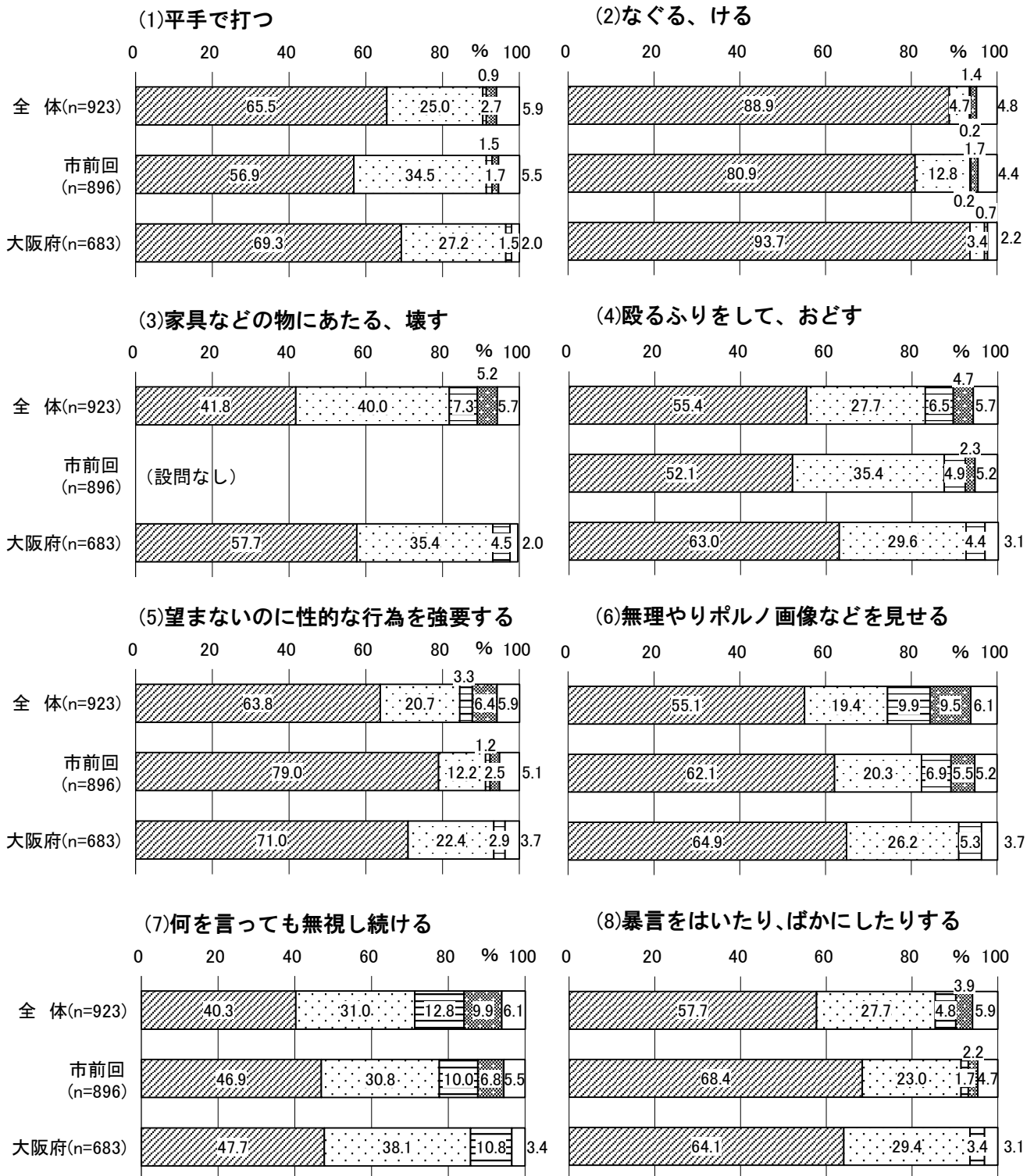


問 21 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だ  
 と思いますか。それぞれについて、あなたの考えに近いものに○をつけてください。  
 [(1)～(11)それぞれに、○は1つ]

- ・「どんな場合でも暴力にあたると思う」とする割合は〈(2)なぐる、ける〉(88.9%)と〈(11)本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する〉(82.0%)が80%を超えている。このほかに半数を超えているのは〈(1)平手で打つ〉(65.5%)、〈(9)自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する〉(64.8%)、〈(5)望まないのに性的な行為を強要する〉(63.8%)、〈(8)暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする〉(57.7%)、〈(4)殴るふりをして、おどす〉(55.4%)、〈(6)無理やりポルノ画像などを見せる〉(55.1%)である。上位には、肉体的な暴力に加えて経済的暴力やいわゆるリベンジポルノが含まれる。
- ・前回調査に比べて「どんな場合でも暴力にあたると思う」とする割合が高いのは〈(1)平手で打つ〉〈(2)なぐる、ける〉〈(4)殴るふりをして、おどす〉〈(9)自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する〉〈(10)友だちや身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする〉である。
- ・大阪府調査との比較では、(1)～(11)のすべてにおいて「どんな場合でも暴力にあたると思う」とする割合が下回っている。

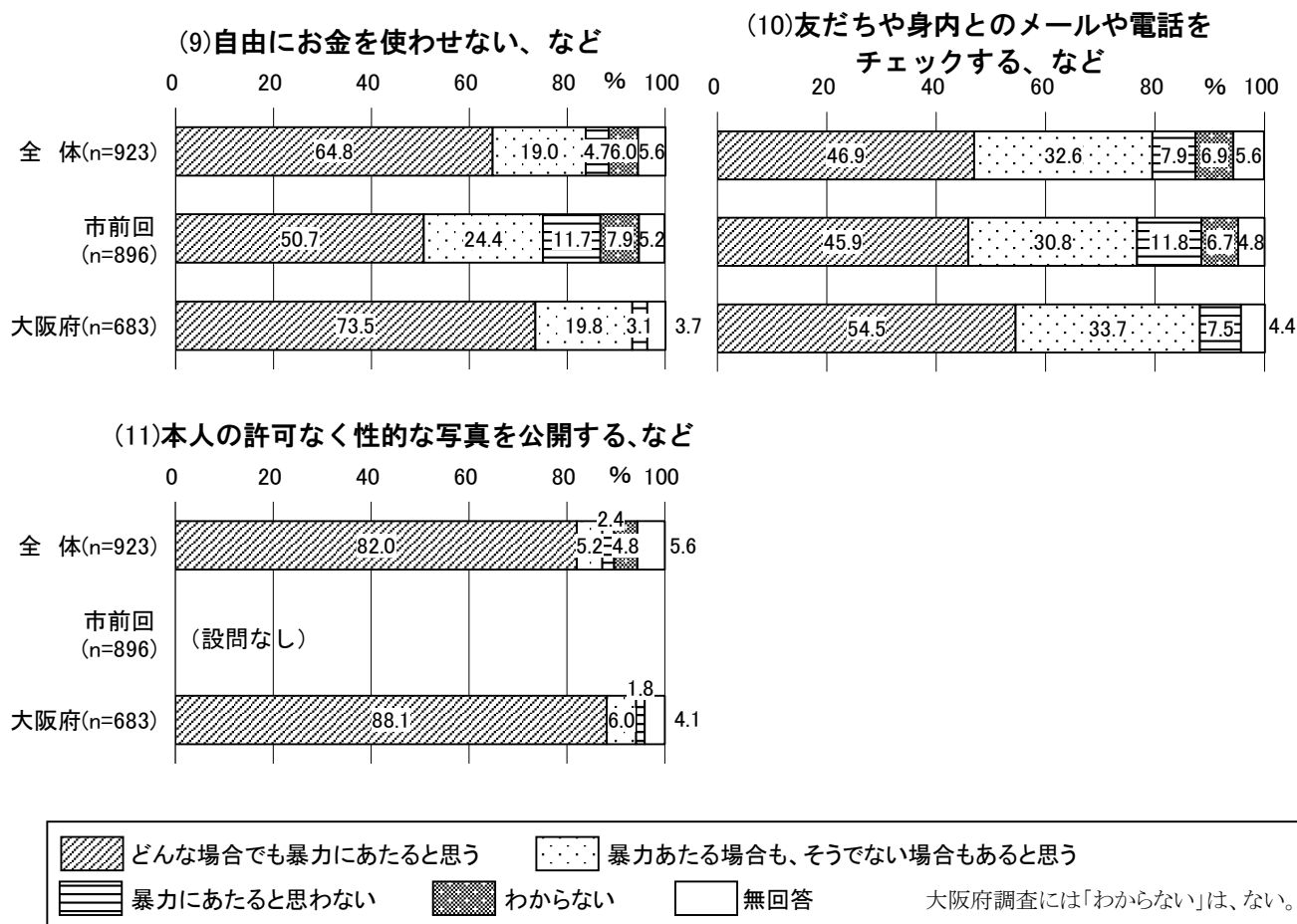






どんな場合でも暴力にあたると思う
 暴力あたる場合も、そうでない場合もあると思う
 暴力にあたらないと思う
 わからない
 無回答

大阪府調査には「わからない」は、ない。



・「どんな場合でも暴力にあたると思う」とする割合は全体的に女性で高く、性・年齢別で最も高い層を整理すると下のようであり、女性40歳代で該当する項目が多い。

#### 「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が最も高い層

女性20歳代：〈(6)無理やりポルノ画像などを見せる〉

女性30歳代：〈(4)殴るふりをして、おどす〉〈(11)本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する〉

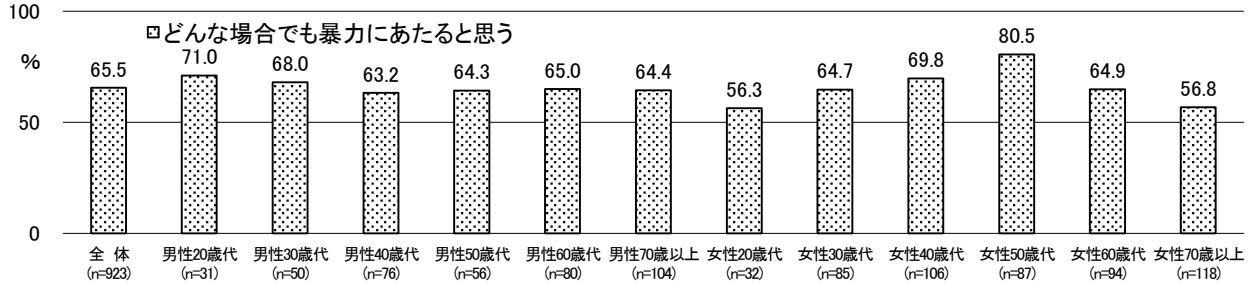
女性40歳代：〈(2)なぐる、ける〉〈(5)望まないのに性的な行為を強要する〉〈(7)何を言っても無視し続ける〉〈(8)暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする〉〈(9)自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する〉

女性50歳代：〈(1)平手で打つ〉〈(10)友だちや身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする〉

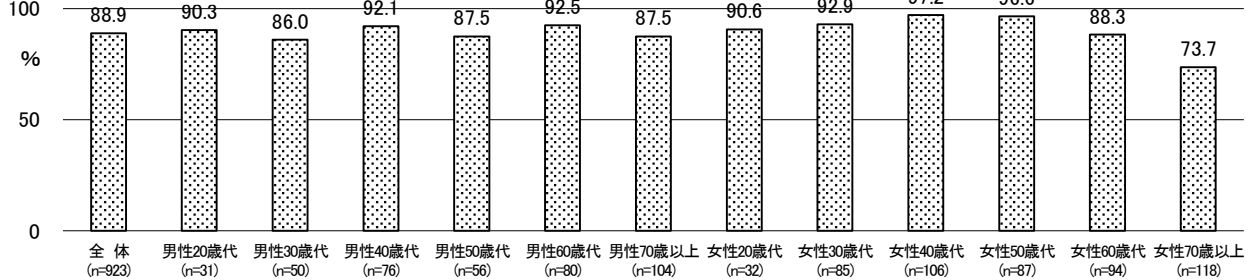
女性60歳代：〈(3)家具などの物にあたる、壊す〉

・また「どんな場合でも暴力にあたると思う」とする割合が最も低いのは女性70歳以上である場合が多く、11項目のうち8項目にのぼる。また〈(10)友だちや身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする〉は、男性30歳代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」とする割合が最も低い。

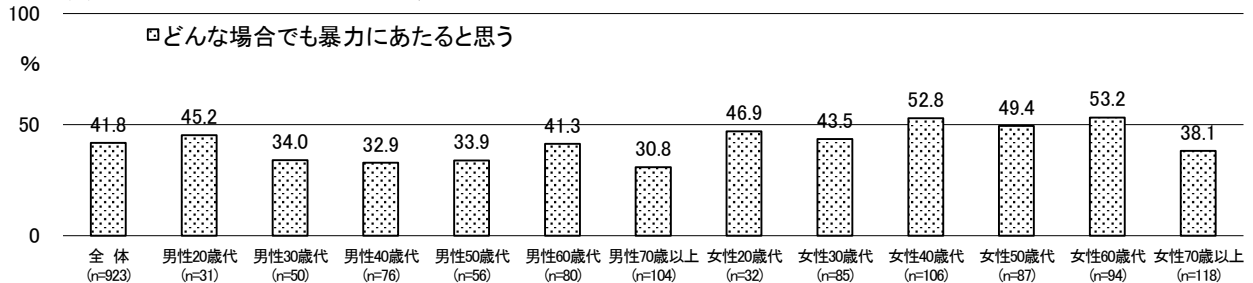
### (1) 平手で打つ



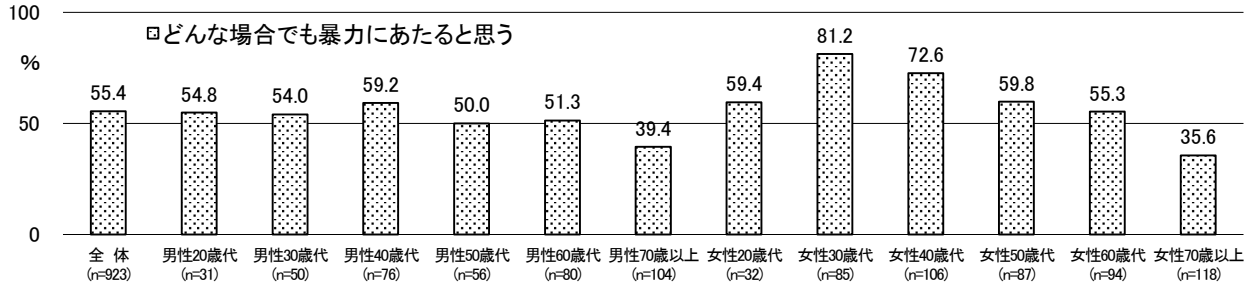
### (2) なぐる、ける



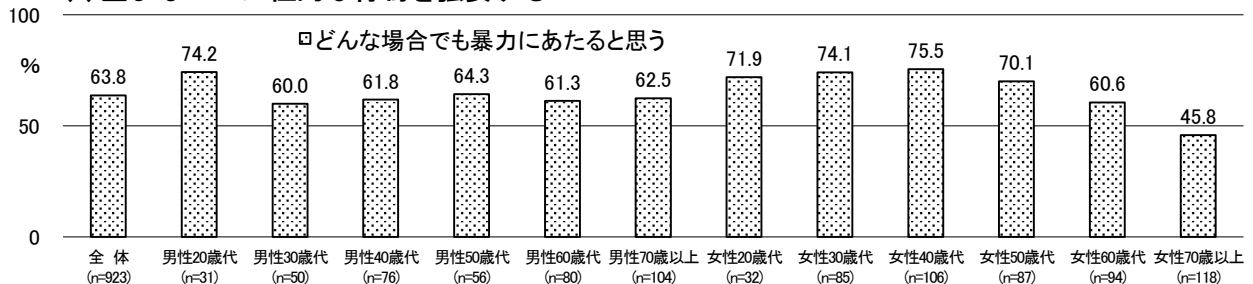
### (3) 家具などの物にあたる、壊す



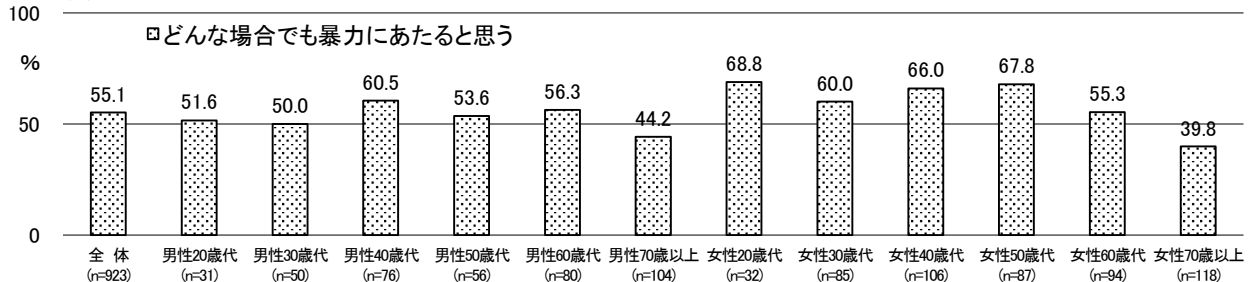
### (4) 殴るふりをして、おどす



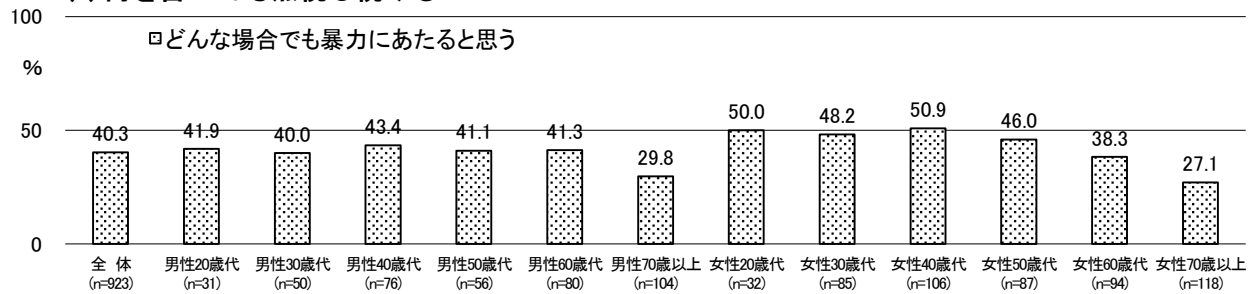
### (5) 望まないのに性的な行為を強要する



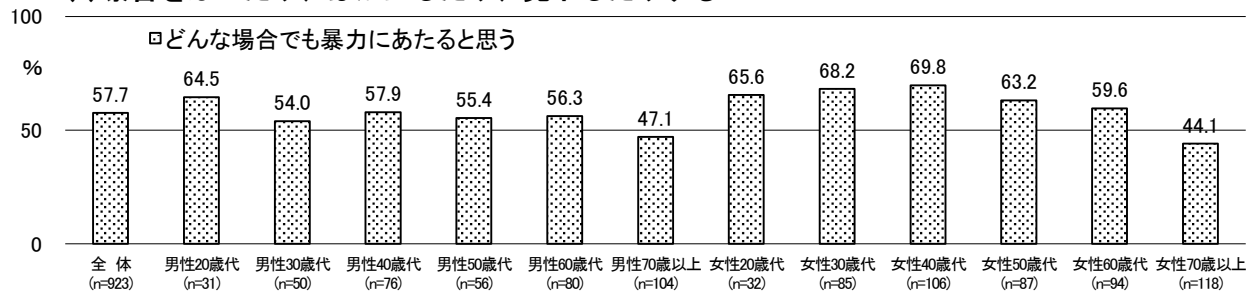
### (6) 無理やりポルノ画像などを見せる



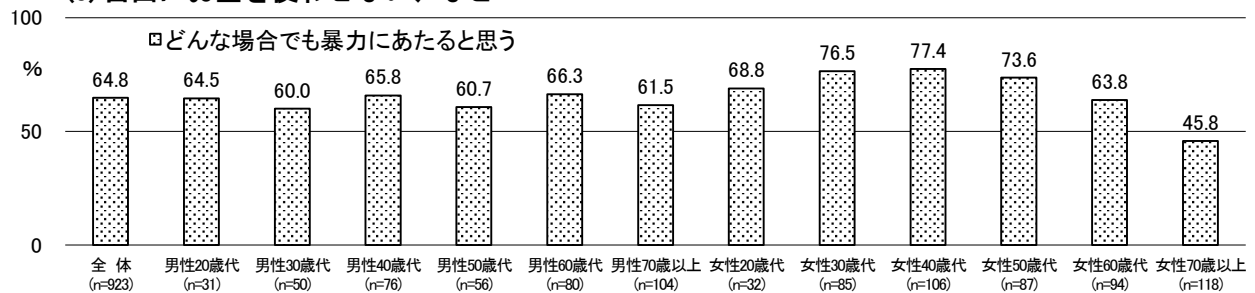
### (7) 何を言っても無視し続ける



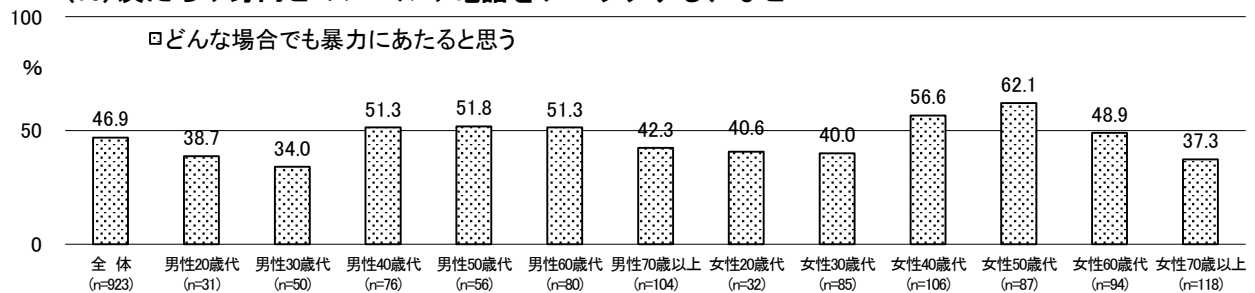
### (8) 暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする



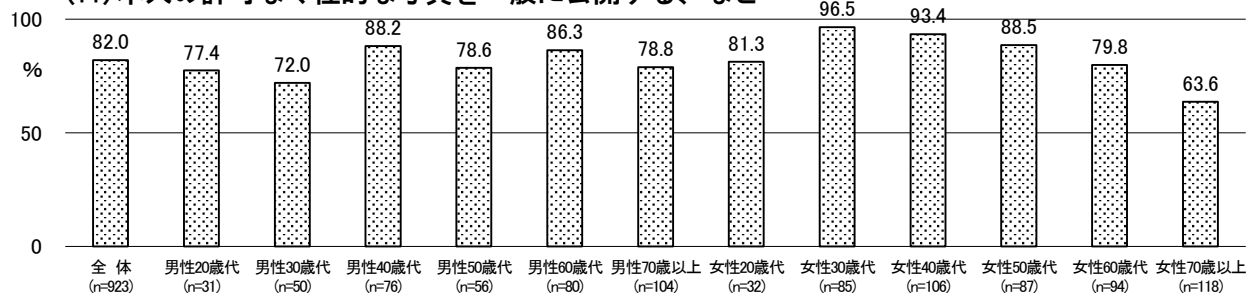
### (9) 自由にお金を使わせない、など



### (10) 友だちや身内とのメールや電話をチェックする、など



### (11) 本人の許可なく性的な写真を一般に公開する、など



問 22 あなたは10 歳代、20 歳代に、交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。〔(1)～(9)それぞれに、○は1 つ〕

問 23 あなたはこれまでに、配偶者から、次のようなことをされたことがありますか。〔(1)～(9)それぞれに、○は1 つ〕

- ・10～20 歳代に交際相手からされたことについて「何度もあった」「1、2 度あった」の合計値でみると、最も多いのは〈(4)大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた〉(9.0%)、で、これに〈(9)いやがっているのに性的な行為を強要された〉(4.7%)、〈(8)何を言っても無視され続けた〉(4.6%)が次いでいる。配偶者からされたことについても上位はこの3 項目で、それぞれ18.4%、5.8%、8.8%である。
- ・重大な〈(1)命の危険を感じるくらいの暴力を受けた〉〈(2)医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた〉は、交際相手によるものが(1)1.2%(11 件)、(2)0.8%(7 件)、配偶者によるものが(1)1.4%(13 件)、(2)1.2%(11 件)となっている。



- ・配偶者からされたこととして「何度もあった」とする割合が最も高い層を整理すると下の通りで、女性 50 歳代が多い。

#### 配偶者からされたこととして「何度もあった」とする割合が最も高い層

男性 40 歳代：〈(5) デートの費用やお金を無理やり出させられた〉

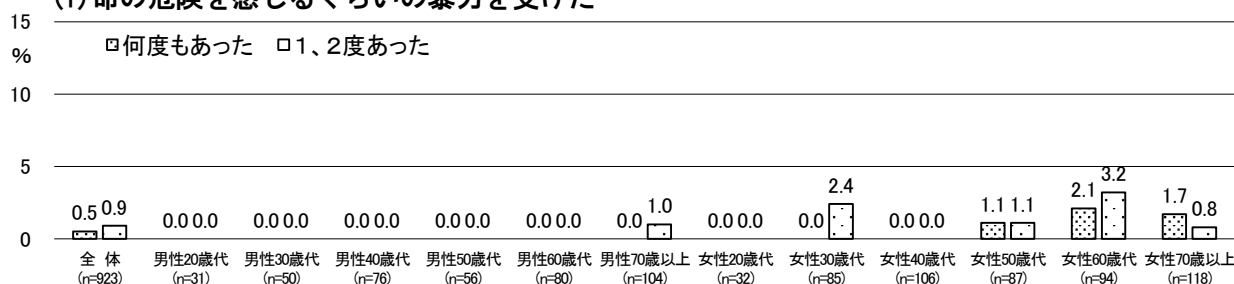
女性 30 歳代：〈(8) 何を言っても無視され続けた〉

女性 50 歳代：〈(4) 大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた〉〈(6) 交友関係や電話・メールを細かく監視された〉〈(7) 危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた〉〈(9) いやがっているのに性的な行為を強要された〉

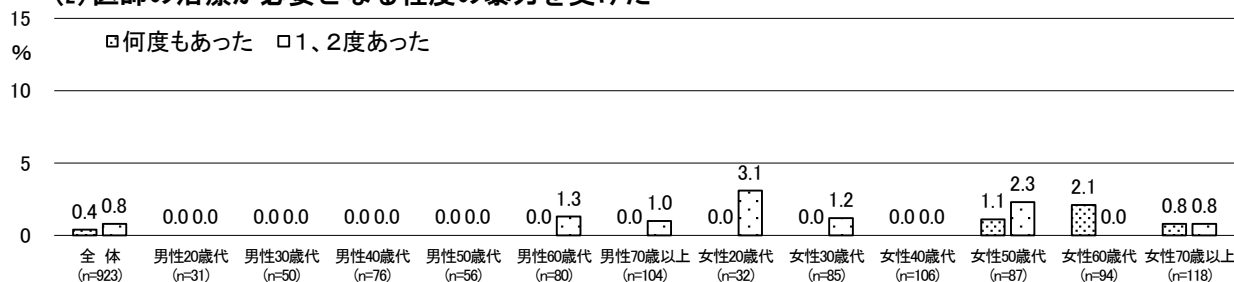
女性 60 歳代：〈(1) 命の危険を感じるくらいの暴力を受けた〉〈(2) 医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた〉〈(3) 医師の治療が必要とならない程度の暴力を受けた〉

#### 配偶者からされたこと

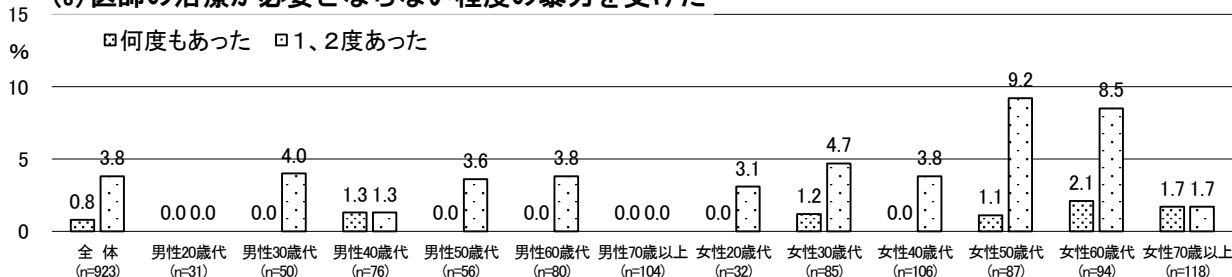
##### (1) 命の危険を感じるくらいの暴力を受けた



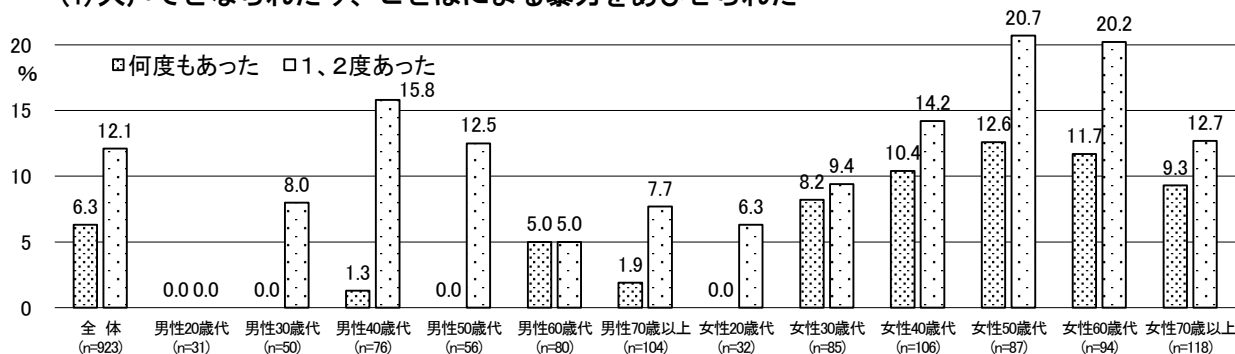
##### (2) 医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた



##### (3) 医師の治療が必要とならない程度の暴力を受けた

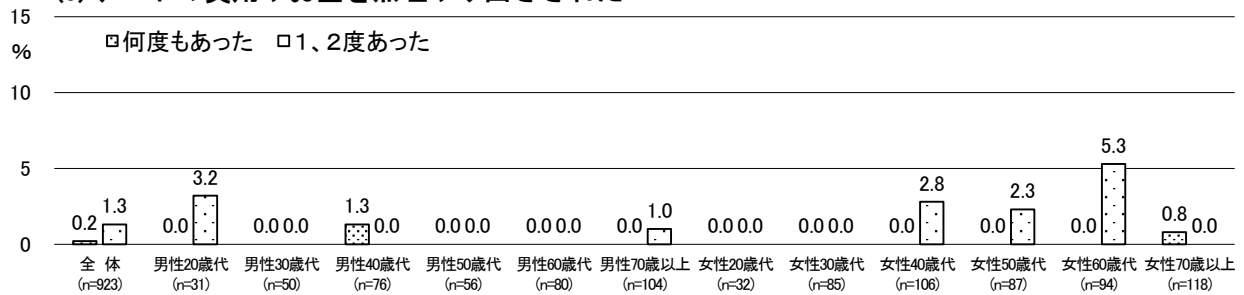


##### (4) 大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた

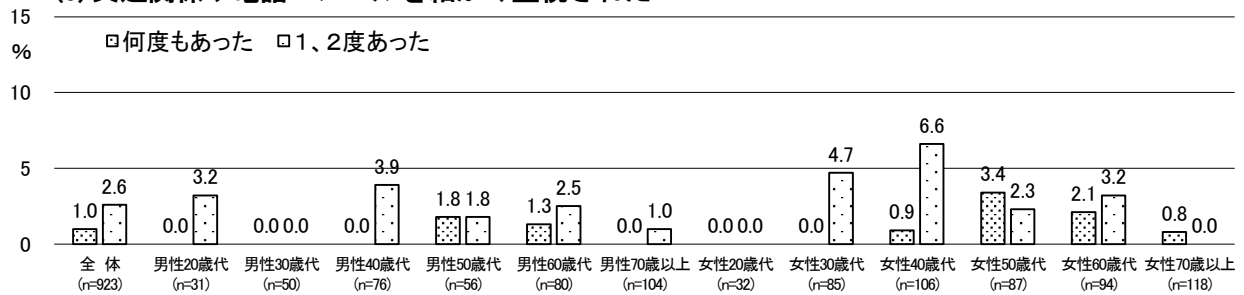


## 配偶者からされたこと

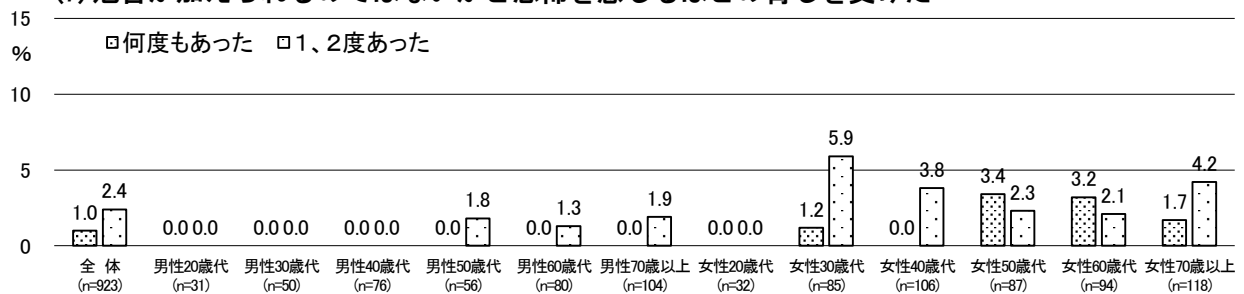
### (5) デートの費用やお金を無理やり出された



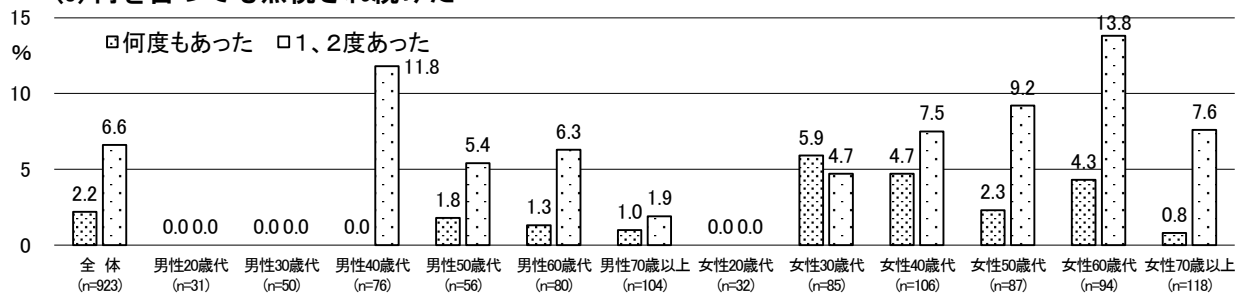
### (6) 交遊関係や電話・メールを細かく監視された



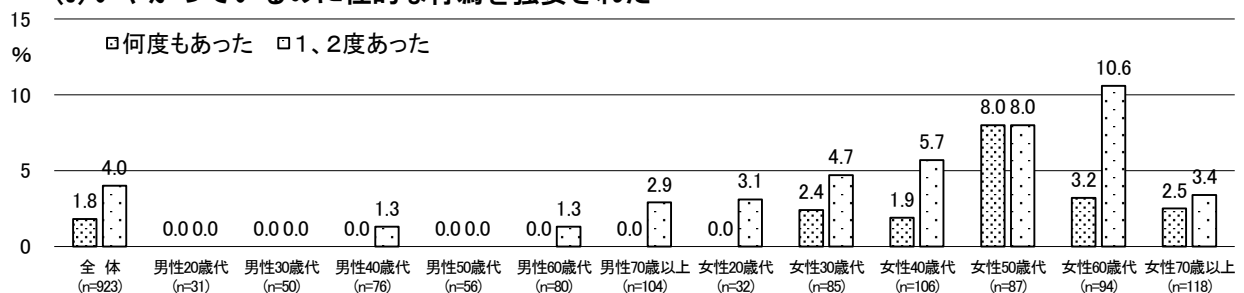
### (7) 危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるほどの脅しを受けた



### (8) 何を言っても無視され続けた



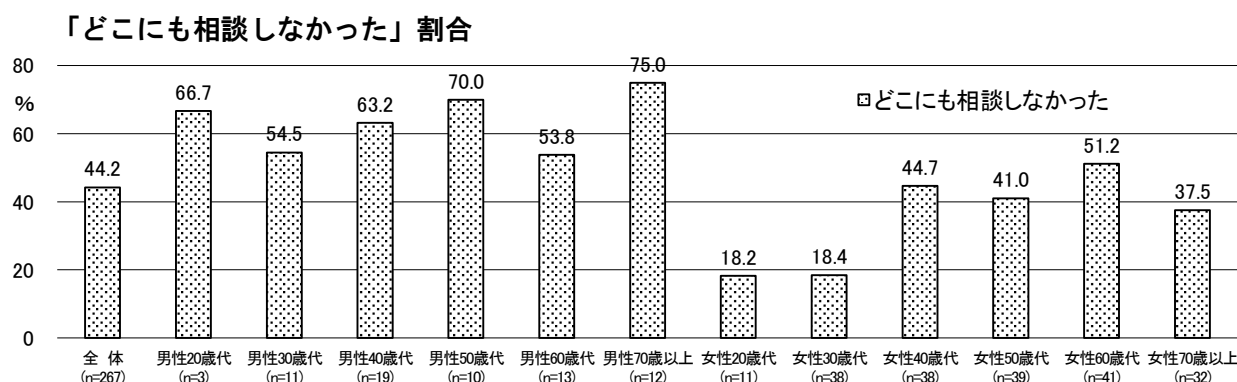
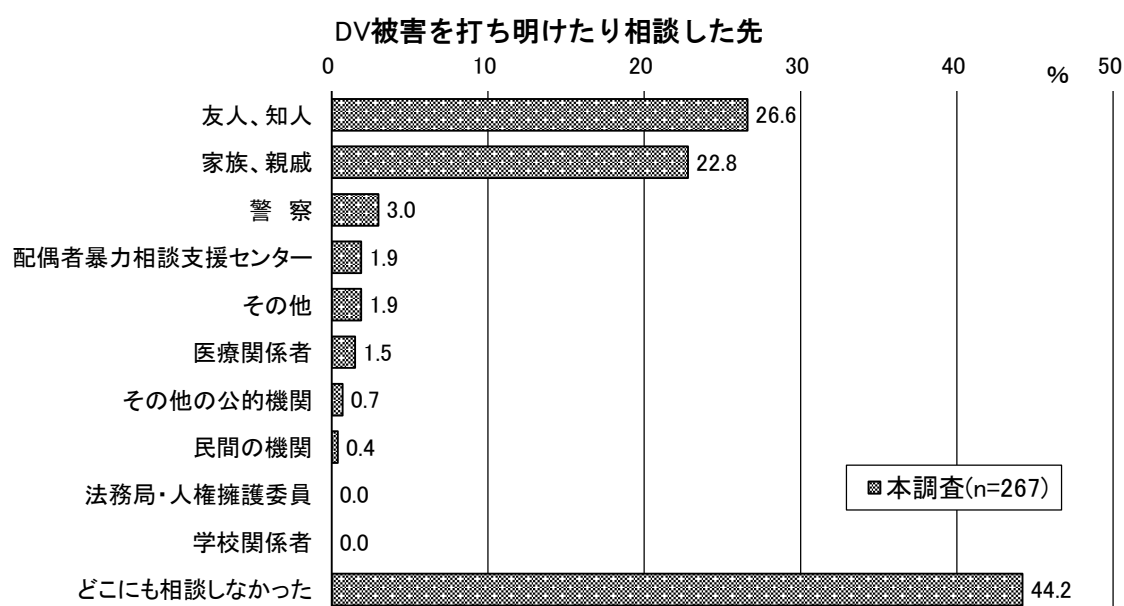
### (9) いやがっているのに性的な行為を強要された



**問 24** 問 22 または問 23 で、ひとつでも 1 か 2 を選んだ方におたずねします。

問 22、問 23 であげたような行為について、これまでに誰かにうち明けたり、相談したりしましたか。【○はいいくつでも】

- ・問 22、23 で交際相手や配偶者から何らかの DV を受けた回答者は 267 人で全体の 28.9%にあたる。
- ・267 人を 100%とすると「どこにも相談しなかった」が 44.2%と最も多い。相談した先としては「友人、知人」(26.6%)、「家族、親戚」(22.8%)が多い。
- ・「どこにも相談しなかった」とした回答者を性・年齢別にみると、男性に多い。女性では 60 歳代、次いで 40 歳代が多い。

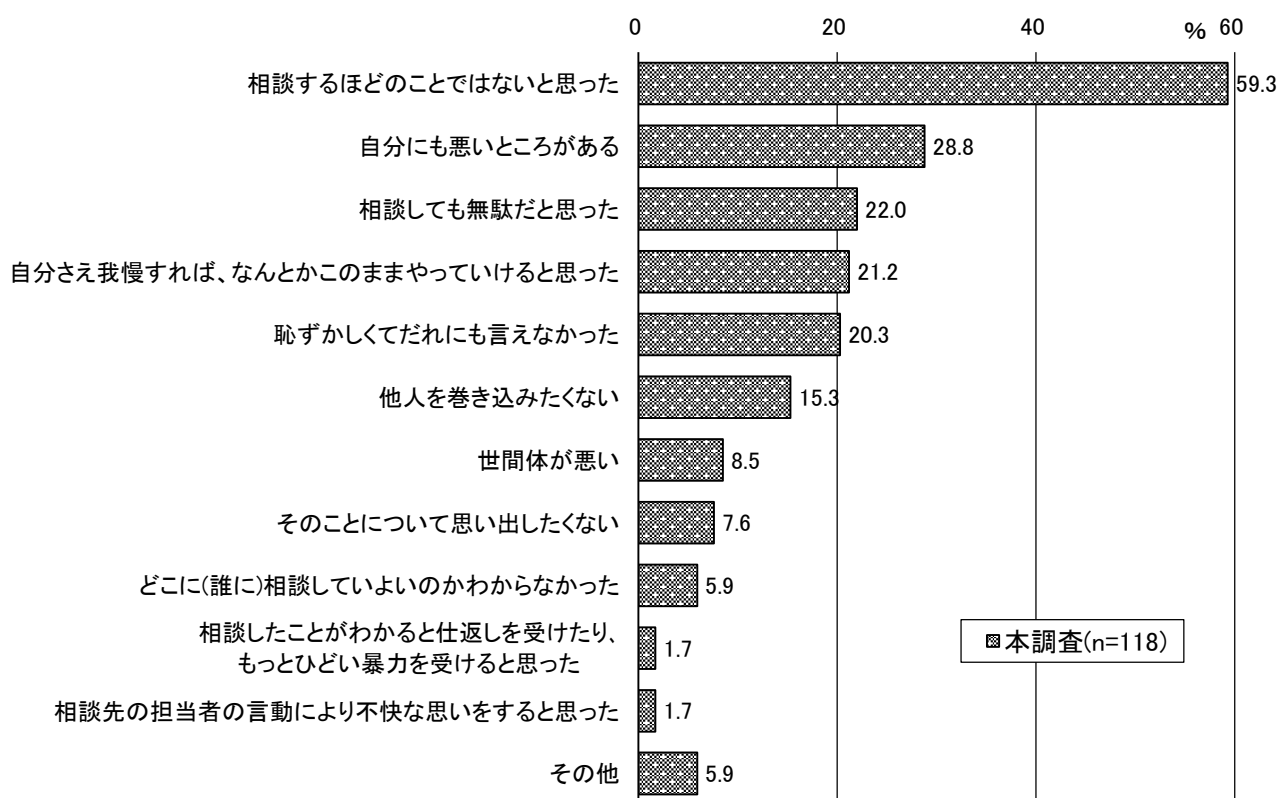




問 24-1 問 24 で「11. どこにも相談しなかった」を選んだ方におたずねします。  
どこにも相談しなかったのはなぜですか。【〇はいくつでも】

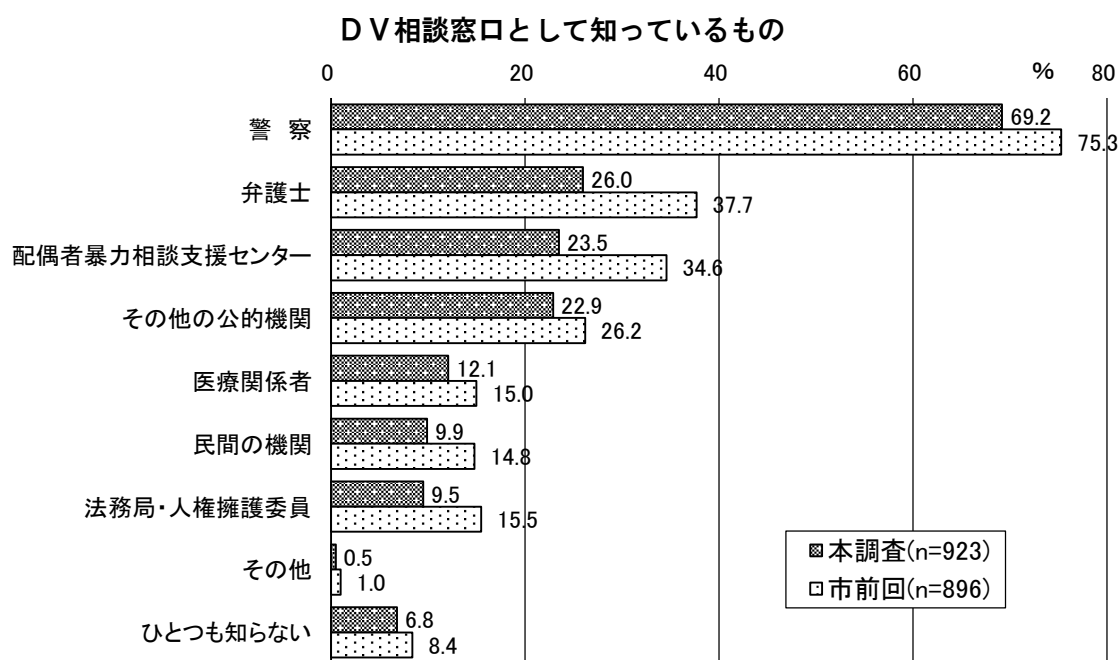
- ・「相談するほどのことではないと思った」(59.3%)が最も多く、これに「自分にも悪いところがある」(28.8%)、「相談しても無駄だと思った」(22.0%)、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけるといった」(21.2%)などが続いている。

#### 相談しなかった理由



問 25 ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親しい人からの暴力）について、あなたが相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。〔○はいくつでも〕

- ・「警察」が69.2%で最もよく知られている。これに「弁護士」（26.0%）、「配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センター、子ども家庭センター、すいたストップ DV ステーション(DV 相談室)）」（23.5%）、「その他の公的機関（市役所、男女共同参画センターなど）」（22.9%）などが続く。
- ・前回調査と比較すると、全体的に周知割合が低下しており、「弁護士」では12ポイント、「配偶者暴力相談支援センター」では11ポイントそれぞれ低下している。



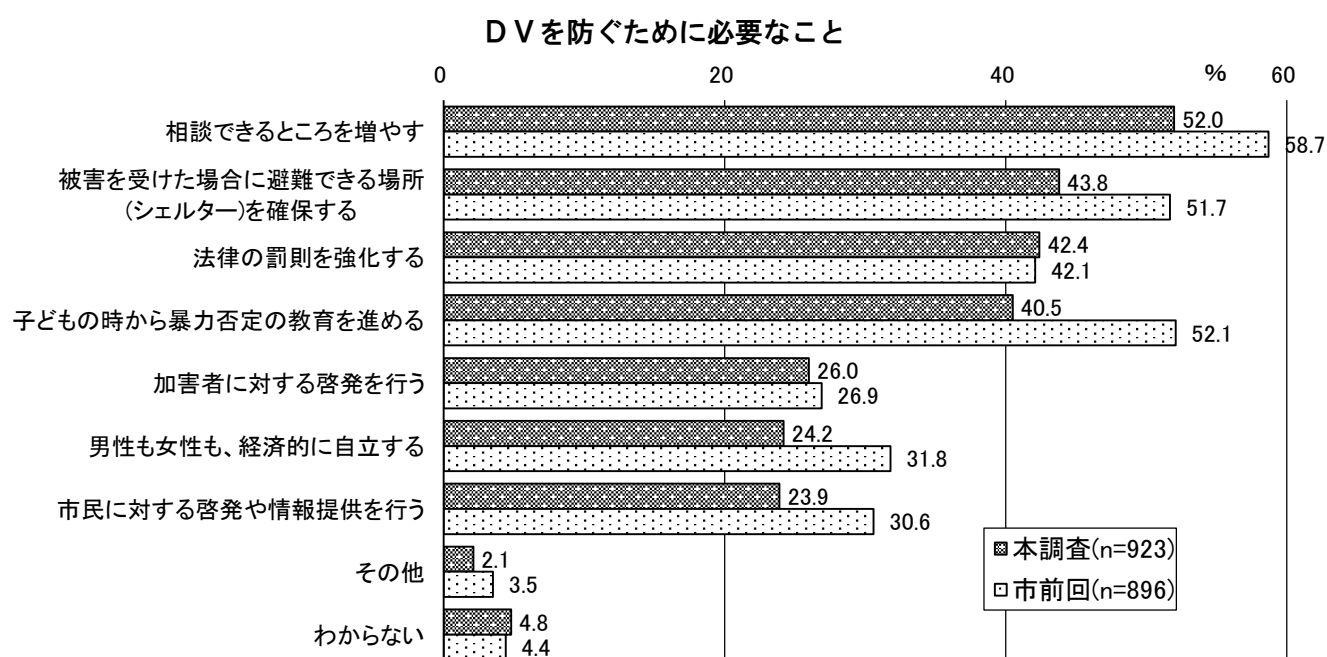
- ・全体では「弁護士」が第2位であるが、性・年齢別にみると女性の各層では第2位を「配偶者暴力相談支援センター」「その他の公的機関」が占める場合が多い。

# DV相談窓口として知っているもの

	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	警 察	弁護士	配偶者暴力相談支援センター
男性 20 歳代 (n=31)	警 察	弁護士 医療関係者	
男性 30 歳代 (n=50)	警 察	弁護士	その他の公的機関
男性 40 歳代 (n=76)	警 察	弁護士	配偶者暴力相談支援センター
男性 50 歳代 (n=56)	警 察	弁護士	その他の公的機関
男性 60 歳代 (n=80)	警 察	弁護士	法務局・人権擁護委員
男性 70 歳以上 (n=104)	警 察	その他の公的機関 弁護士	
女性 20 歳代 (n=32)	警 察	その他の公的機関 弁護士 医療関係者	
女性 30 歳代 (n=85)	警 察	配偶者暴力相談支援センター	その他の公的機関 弁護士 医療関係者
女性 40 歳代 (n=106)	警 察	配偶者暴力相談支援センター	その他の公的機関
女性 50 歳代 (n=87)	警 察	その他の公的機関	配偶者暴力相談支援センター 弁護士
女性 60 歳代 (n=94)	警 察	その他の公的機関	配偶者暴力相談支援センター
女性 70 歳以上 (n=118)	警 察	配偶者暴力相談支援センター	弁護士

**問 26 ドメスティック・バイオレンスを防ぐためには何が必要だと思いますか。**  
**【○はいくつでも】**

- ・「相談できるところを増やす」(52.0%)、「被害を受けた場合に避難できる場所(シェルター)を確保する」(43.8%)、「法律の罰則を強化する」(42.4%)、「子どもの時から暴力否定の教育を進める」(40.5%)が上位を占める。
- ・前回調査においても上位の4項目は一致するが、「子どもの時から暴力否定の教育を進める」は12ポイント、「被害を受けた場合に避難できる場所(シェルター)を確保する」は8ポイントそれぞれ低下した。このほか「男性も女性も、経済的に自立する」(24.2%、8ポイント減)など低下した項目が多い。



- ・性・年齢別にみると、女性では第1に相談先、第2にシェルターというあげ方が多いのに対し、男性では罰則の強化をあげる傾向が強い。

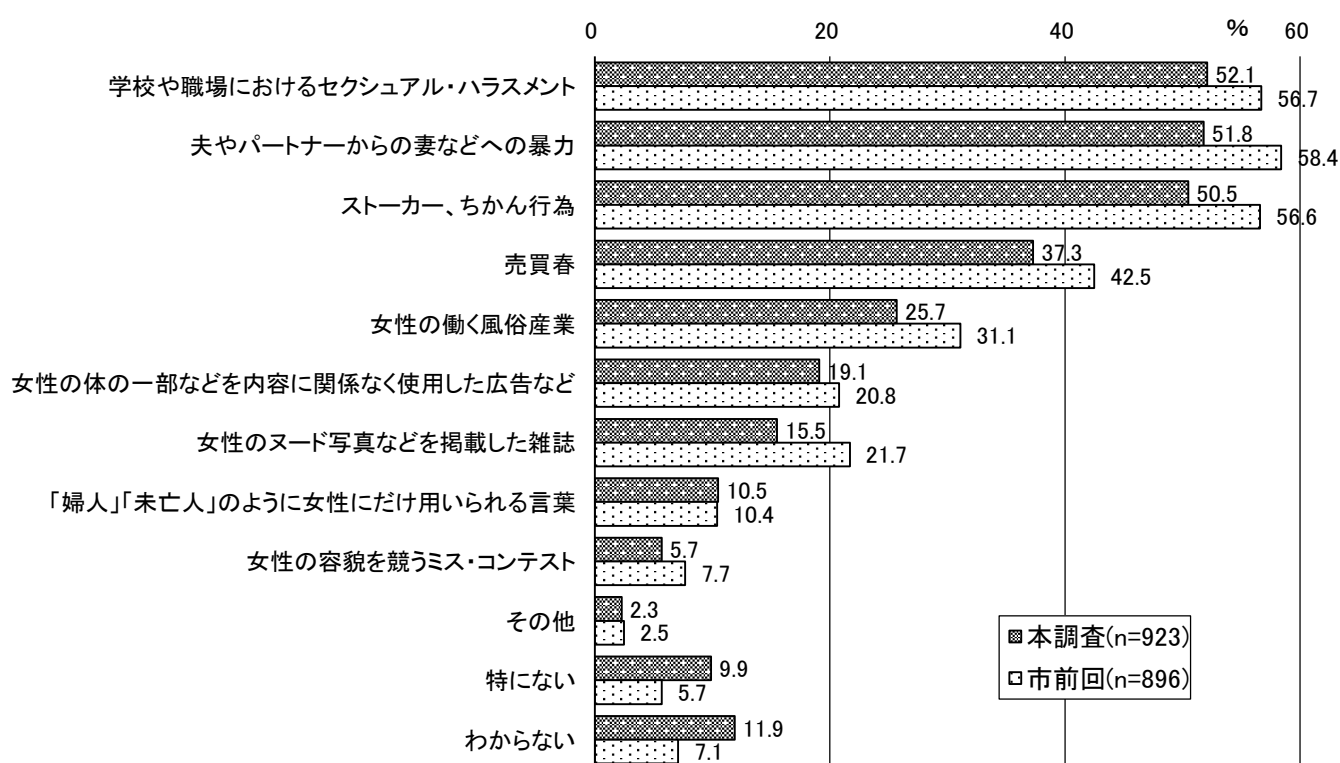
## D Vを防ぐために必要なこと

	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	相談できるところを増やす	被害を受けた場合に避難できる場所を確保する	法律の罰則を強化する
男性 20 歳代 (n=31)	相談できるところを増やす	法律の罰則を強化する 被害を受けた場合に避難できる場所を確保する	
男性 30 歳代 (n=50)	相談できるところを増やす	被害を受けた場合に避難できる場所を確保する	法律の罰則を強化する
男性 40 歳代 (n=76)	相談できるところを増やす	被害を受けた場合に避難できる場所を確保する	法律の罰則を強化する 子どもの時から暴力否定の教育を進める
男性 50 歳代 (n=56)	相談できるところを増やす	法律の罰則を強化する	被害を受けた場合に避難できる場所を確保する
男性 60 歳代 (n=80)	法律の罰則を強化する	相談できるところを増やす	被害を受けた場合に避難できる場所を確保する
男性 70 歳以上 (n=104)	相談できるところを増やす	法律の罰則を強化する	子どもの時から暴力否定の教育を進める
女性 20 歳代 (n=32)	子どもの時から暴力否定の教育を進める	相談できるところを増やす	法律の罰則を強化する 被害を受けた場合に避難できる場所を確保する
女性 30 歳代 (n=85)	相談できるところを増やす	被害を受けた場合に避難できる場所を確保する	法律の罰則を強化する 子どもの時から暴力否定の教育を進める
女性 40 歳代 (n=106)	相談できるところを増やす	被害を受けた場合に避難できる場所を確保する	法律の罰則を強化する
女性 50 歳代 (n=87)	相談できるところを増やす	被害を受けた場合に避難できる場所を確保する	法律の罰則を強化する
女性 60 歳代 (n=94)	相談できるところを増やす	被害を受けた場合に避難できる場所を確保する	子どもの時から暴力否定の教育を進める
女性 70 歳以上 (n=118)	子どもの時から暴力否定の教育を進める	相談できるところを増やす	法律の罰則を強化する

**問 27 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。[〇はいくつでも]**

- ・過半数の支持を得ている項目は「学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」(52.1%)、「夫やパートナーからの妻などへの暴力（なぐる、ける、無視する、大声でどなるなど）」(51.8%)、「ストーカー、ちかん行為」(50.5%)で、これらから離れて「買売春」(37.3%)以下が位置する。
- ・前回調査と比べると、順位はほぼ一致するが、多くの項目で割合を下げている。

**女性の人権が尊重されていないと感じること**



- ・性・年齢別にみると、全体では「学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント」が第1位であるが、女性では20歳代・30歳代・50歳代・70歳以上で「夫やパートナーからの妻などへの暴力」が第1位を占めている。

## 女性の人権が尊重されていないと感じること

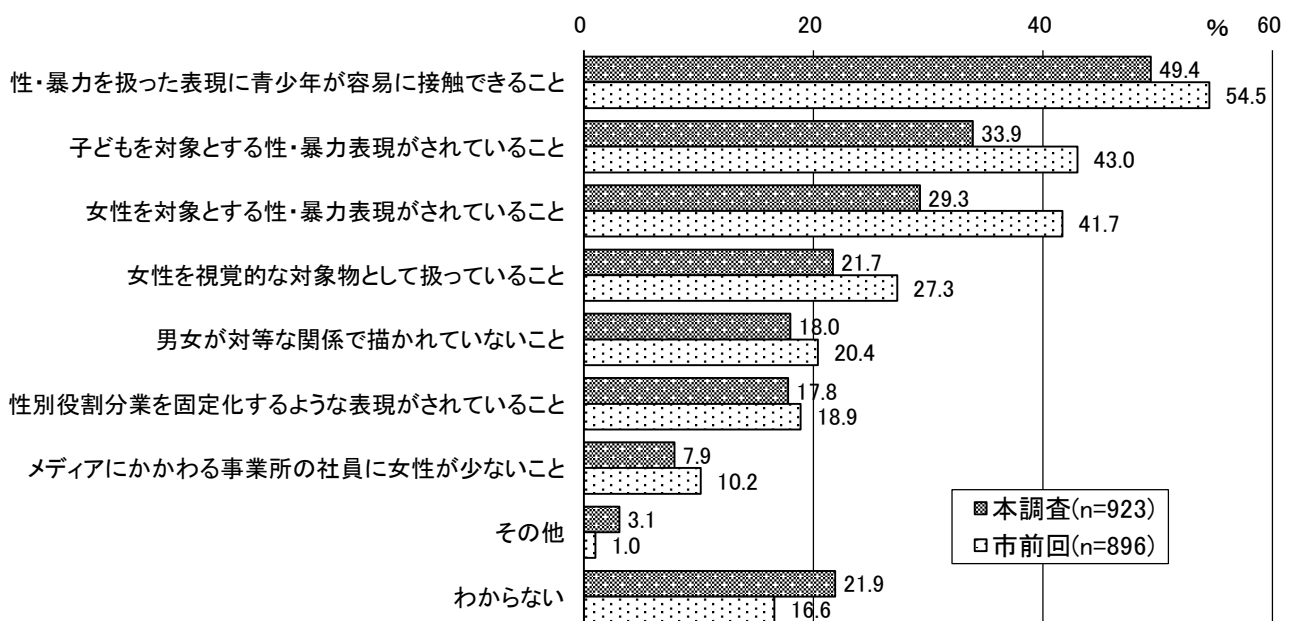
	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント	夫やパートナーからの妻などへの暴力	ストーカー、ちかん行為
男性 20 歳代 (n=31)	夫やパートナーからの妻などへの暴力	ストーカー、ちかん行為	学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント
男性 30 歳代 (n=50)	ストーカー、ちかん行為	夫やパートナーからの妻などへの暴力 学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント	
男性 40 歳代 (n=76)	学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント	ストーカー、ちかん行為	夫やパートナーからの妻などへの暴力
男性 50 歳代 (n=56)	学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント	ストーカー、ちかん行為	夫やパートナーからの妻などへの暴力
男性 60 歳代 (n=80)	夫やパートナーからの妻などへの暴力	学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント	ストーカー、ちかん行為
男性 70 歳以上 (n=104)	学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント	夫やパートナーからの妻などへの暴力	売買春
女性 20 歳代 (n=32)	夫やパートナーからの妻などへの暴力	学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント	ストーカー、ちかん行為
女性 30 歳代 (n=85)	夫やパートナーからの妻などへの暴力	学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント	ストーカー、ちかん行為
女性 40 歳代 (n=106)	ストーカー、ちかん行為	学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント	夫やパートナーからの妻などへの暴力
女性 50 歳代 (n=87)	夫やパートナーからの妻などへの暴力 ストーカー、ちかん行為		学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント
女性 60 歳代 (n=94)	学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント	夫やパートナーからの妻などへの暴力	ストーカー、ちかん行為
女性 70 歳以上 (n=118)	夫やパートナーからの妻などへの暴力	学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント	ストーカー、ちかん行為

## メディアにおける表現について

問 28 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどメディアにおける人権尊重において、問題だと考えられるのはどの点ですか。[○はいくつでも]

- ・「性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること」が49.4%で最も多く、これに「子どもを対象とする性・暴力表現がされていること」(33.9%)が次ぎ、子ども・青少年への影響が最も懸念されている。これらに「女性を対象とする性・暴力表現がされていること」(29.3%)、「女性を視覚的な対象物として扱っていること」(21.7%)などが続いている。

メディアにおける人権尊重において問題と考えられる点



- ・性・年齢別にみると、女性20歳代で「性別役割分業を固定化するような表現がされていること」が第1位、「男女が対等な関係で描かれていないこと」が第2位となっている。また男性20歳代でも「男女が対等な関係で描かれていないこと」が第3位に、男性30歳代でも「性別役割分業を固定化するような表現がされていること」と「女性を視覚的な対象物として扱っていること」がともに第2位に位置するなど、男女の平等性を重視した意見がみられる。

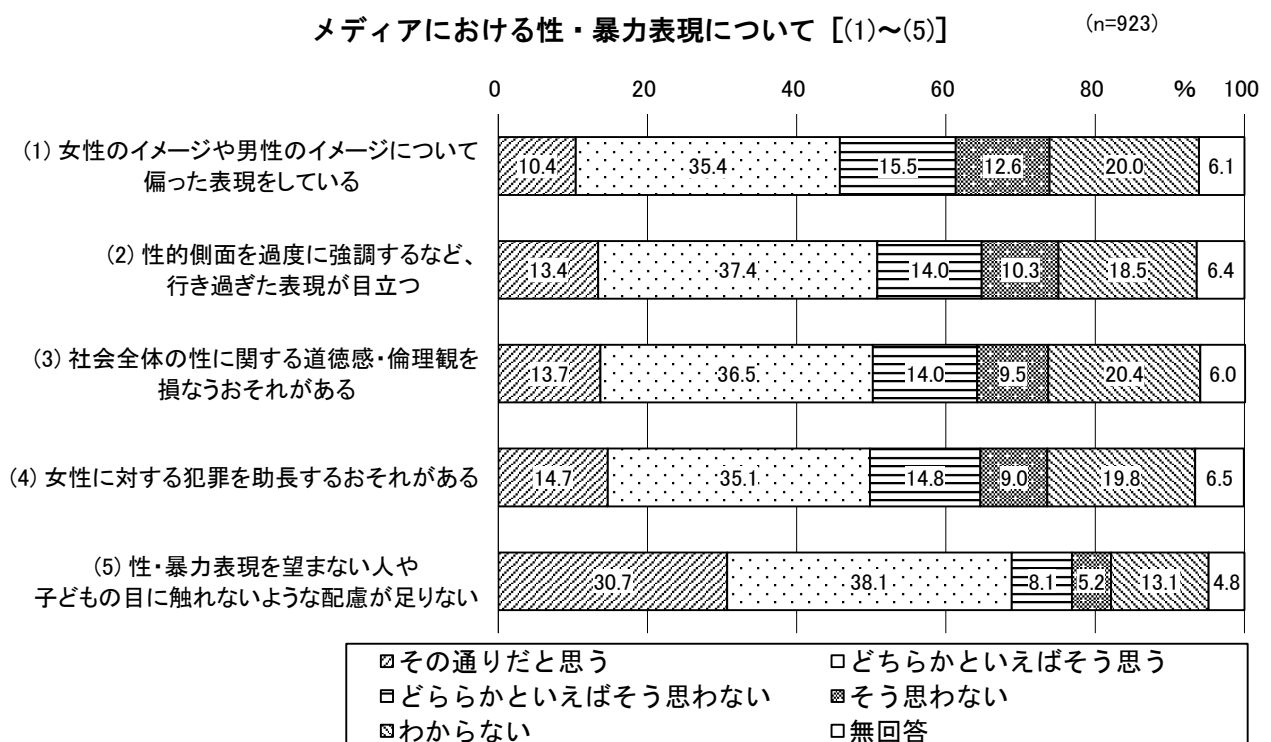


## メディアにおける人権尊重において問題と考えられる点

	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	子どもを対象とする性・暴力表現がされていること	女性を対象とする性・暴力表現がされていること
男性 20 歳代 (n=31)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	子どもを対象とする性・暴力表現がされていること	男女が対等な関係で描かれていないこと 女性を対象とする性・暴力表現がされていること
男性 30 歳代 (n=50)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	性別役割分業を固定化するような表現がされていること 女性を視覚的な対象物として扱っていること 子どもを対象とする性・暴力表現がされていること	
男性 40 歳代 (n=76)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	子どもを対象とする性・暴力表現がされていること	女性を対象とする性・暴力表現がされていること
男性 50 歳代 (n=56)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	子どもを対象とする性・暴力表現がされていること	女性を対象とする性・暴力表現がされていること
男性 60 歳代 (n=80)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	女性を視覚的な対象物として扱っていること	女性を対象とする性・暴力表現がされていること
男性 70 歳以上 (n=104)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	子どもを対象とする性・暴力表現がされていること	女性を対象とする性・暴力表現がされていること
女性 20 歳代 (n=32)	性別役割分業を固定化するような表現がされていること	男女が対等な関係で描かれていないこと 子どもを対象とする性・暴力表現がされていること 女性を対象とする性・暴力表現がされていること	
女性 30 歳代 (n=85)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	子どもを対象とする性・暴力表現がされていること	女性を対象とする性・暴力表現がされていること
女性 40 歳代 (n=106)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	子どもを対象とする性・暴力表現がされていること	女性を対象とする性・暴力表現がされていること
女性 50 歳代 (n=87)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	子どもを対象とする性・暴力表現がされていること	女性を対象とする性・暴力表現がされていること
女性 60 歳代 (n=94)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	子どもを対象とする性・暴力表現がされていること	女性を対象とする性・暴力表現がされていること
女性 70 歳以上 (n=118)	性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること	子どもを対象とする性・暴力表現がされていること	女性を対象とする性・暴力表現がされていること

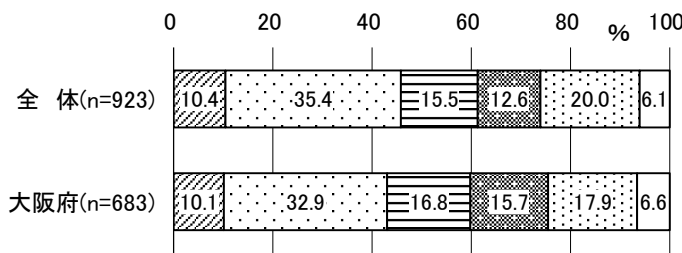
問 29 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。  
 [(1)～(5)それぞれに、○は1つ]

- ・「その通りだと思う」の割合が多い順にみると〈(5)性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない〉(30.7%)、〈(4)女性に対する犯罪を助長するおそれがある〉(14.7%)、〈(3)社会全体の性に関する道德感・倫理観を損なうおそれがある〉(13.7%)、〈(2)性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ〉(13.4%)、〈(1)女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている〉(10.4%)であり、子どもへの配慮が最も重視されている。
- ・大阪府調査との比較では〈(5)性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない〉について「その通りだと思う」の割合が3ポイント高く、〈(4)女性に対する犯罪を助長するおそれがある〉について4ポイント低い。

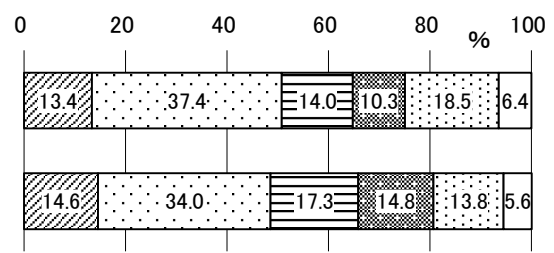


- ・加重点によって性・年齢別にみると、〈(5)性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない〉はすべての層が肯定側にあるが、他の項目においては20歳代や30歳代を中心として否定側に位置するものがある。

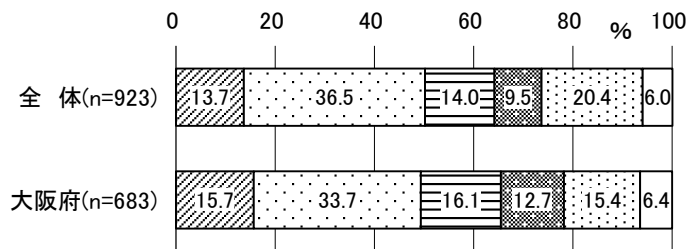
(1)女性や男性のイメージについて偏った表現をしている



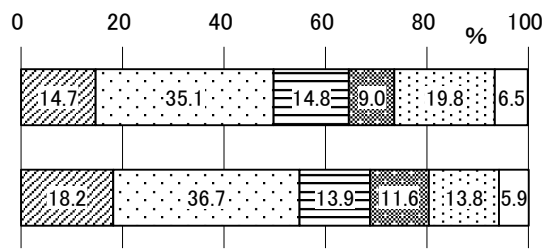
(2)性的側面の行き過ぎた表現が目立つ



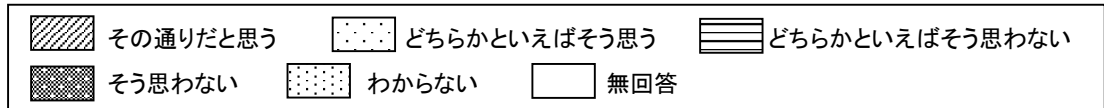
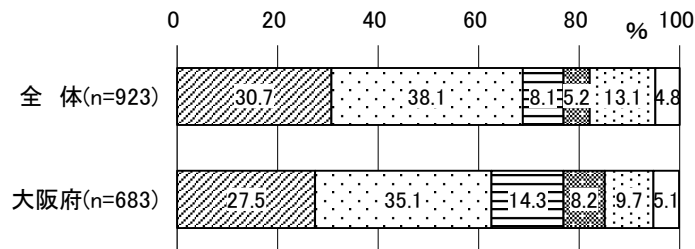
(3)社会全体の道徳観・倫理観を損なうおそれがある



(4)女性への犯罪を助長するおそれがある

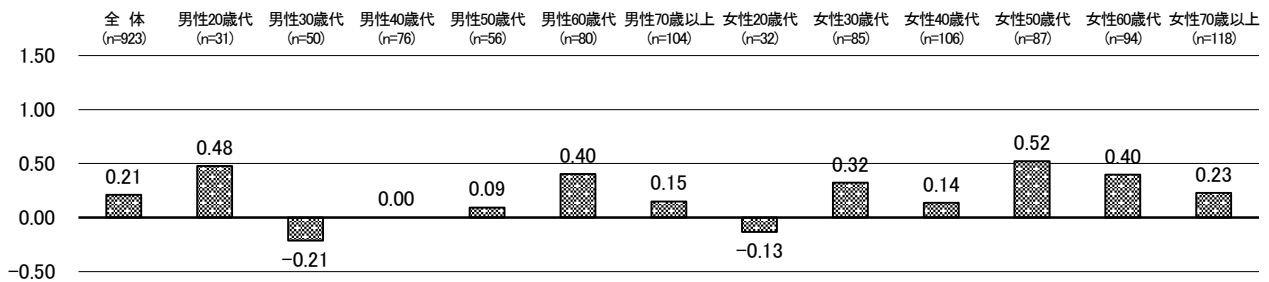


(5)望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない

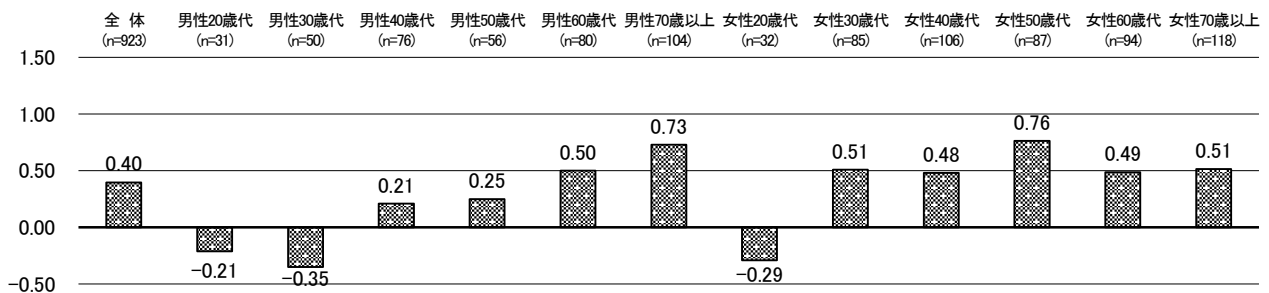


(1)～(5)のグラフは、「その通りだと思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の回答1件あたりにそれぞれ、2点、1点、-1点、-2点を与え、これらを合計したものを、上記の回答合計件数で除した値(加重点)である。  
加重点が高いほど、各ことがらへの肯定度が高いとみることができる。

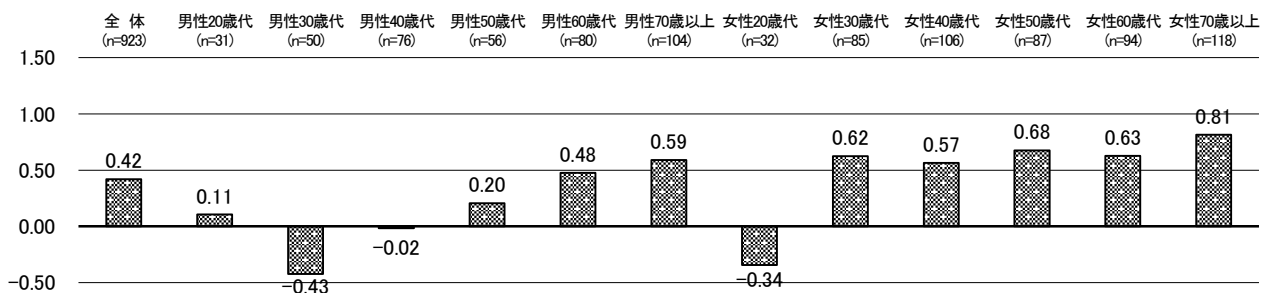
#### (1) 女性や男性のイメージについて偏った表現をしている



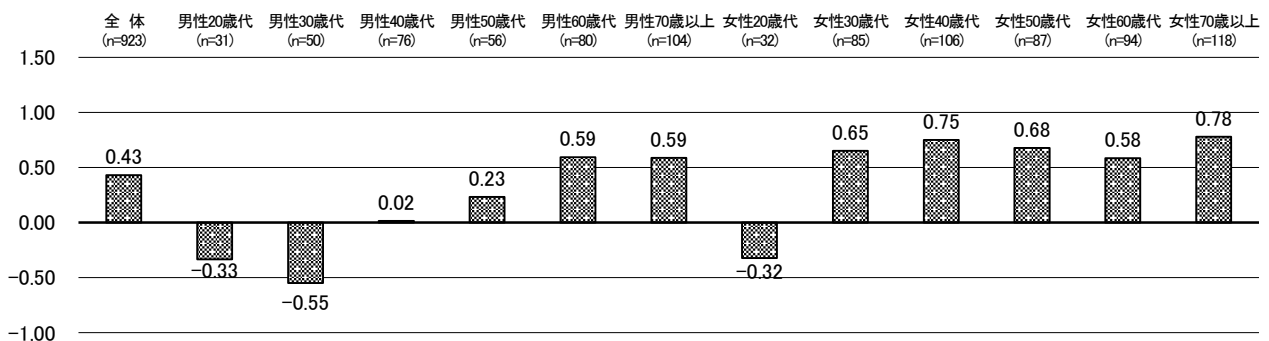
#### (2) 性的側面の行き過ぎた表現が目立つ



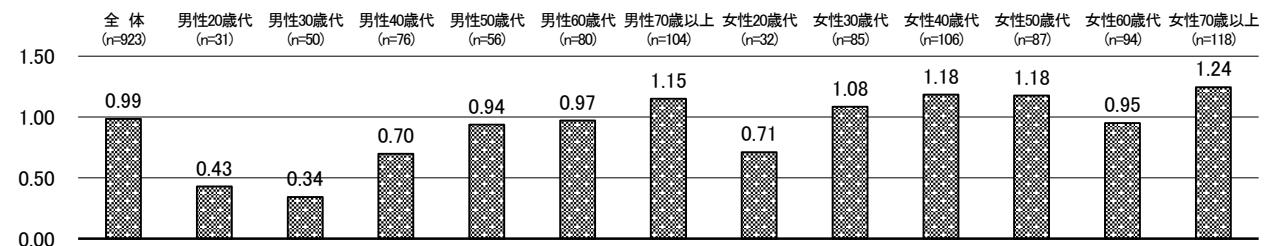
#### (3) 社会全体の道徳観・倫理観を損なうおそれがある



#### (4) 女性への犯罪を助長するおそれがある



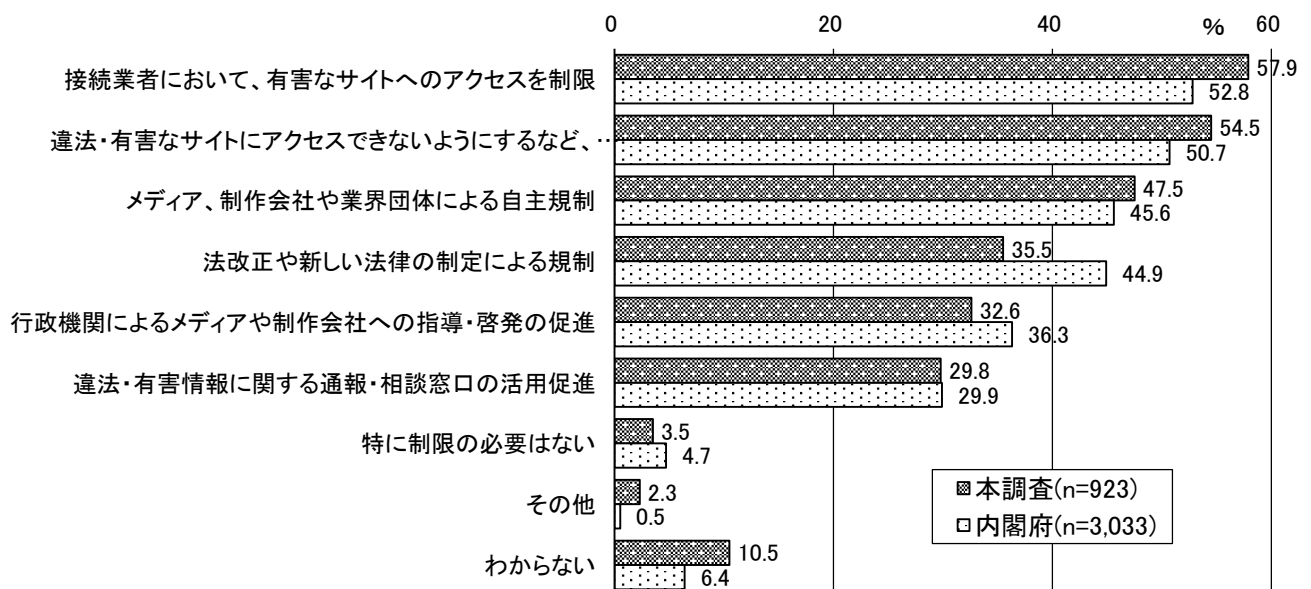
#### (5) 望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない



**問 30 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどメディアにおける性・暴力表現について制限をする場合、どのような方法で制限するのがよいと思いますか。[○はいくつでも]**

- ・「特に制限の必要はない」は 3.5%にとどまり、ほとんどの回答者が何らかの制限が必要であると考えている。
- ・制限内容としては「インターネットにアクセスするためのサービスを提供している接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限」(57.9%)と「インターネット上の違法・有害なサイトにアクセスできないようにする（フィルタリング機能）など、受け手側が制限」(54.5%)が過半数の支持を得ている。これに「メディア、制作会社や業界団体による自主規制」(47.5%)が続く。
- ・内閣府調査との比較では、上位の3項目で割合が上回っている。

**メディアにおける性・暴力表現を制限する方法**

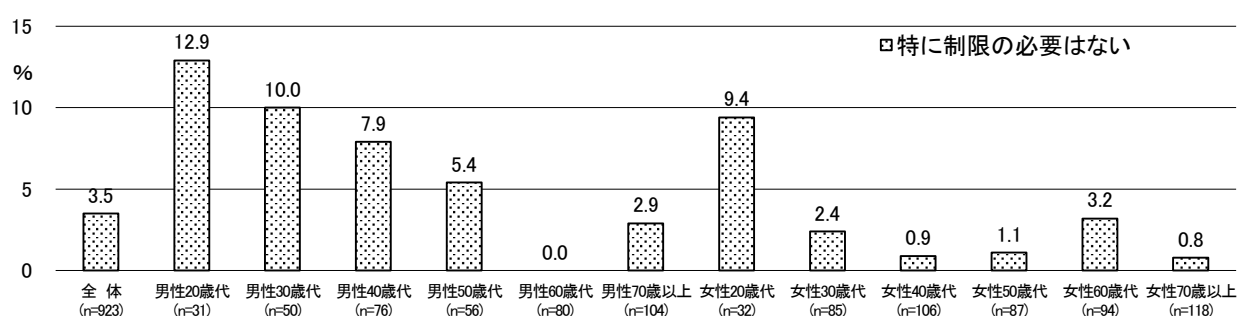


- ・性・年齢別にみると、全体で第3位までの項目は、順位は前後するものの、一致している。
- ・「特に制限の必要はない」は、全体では 3.5%であるが、男性 20 歳代では 12.9%と比較的高く、男女とも若年層に高い傾向がある。

## メディアにおける性・暴力表現を制限する方法

	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限	メディア、制作会社や業界団体による自主規制
男性 20 歳代 (n=31)	違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	メディア、制作会社や業界団体による自主規制
男性 30 歳代 (n=50)	違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	メディア、制作会社や業界団体による自主規制
男性 40 歳代 (n=76)	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限	メディア、制作会社や業界団体による自主規制
男性 50 歳代 (n=56)	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限	メディア、制作会社や業界団体による自主規制
男性 60 歳代 (n=80)	違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	メディア、制作会社や業界団体による自主規制
男性 70 歳以上 (n=104)	違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限	メディア、制作会社や業界団体による自主規制 接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	
女性 20 歳代 (n=32)	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限 違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限		メディア、制作会社や業界団体による自主規制
女性 30 歳代 (n=85)	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限	メディア、制作会社や業界団体による自主規制
女性 40 歳代 (n=106)	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	メディア、制作会社や業界団体による自主規制 違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限	
女性 50 歳代 (n=87)	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限	メディア、制作会社や業界団体による自主規制
女性 60 歳代 (n=94)	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限	メディア、制作会社や業界団体による自主規制
女性 70 歳以上 (n=118)	メディア、制作会社や業界団体による自主規制	接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限	違法・有害なサイトにアクセスできないようにするなど、受け手側が制限

## メディアにおける性・暴力表現を制限する方法

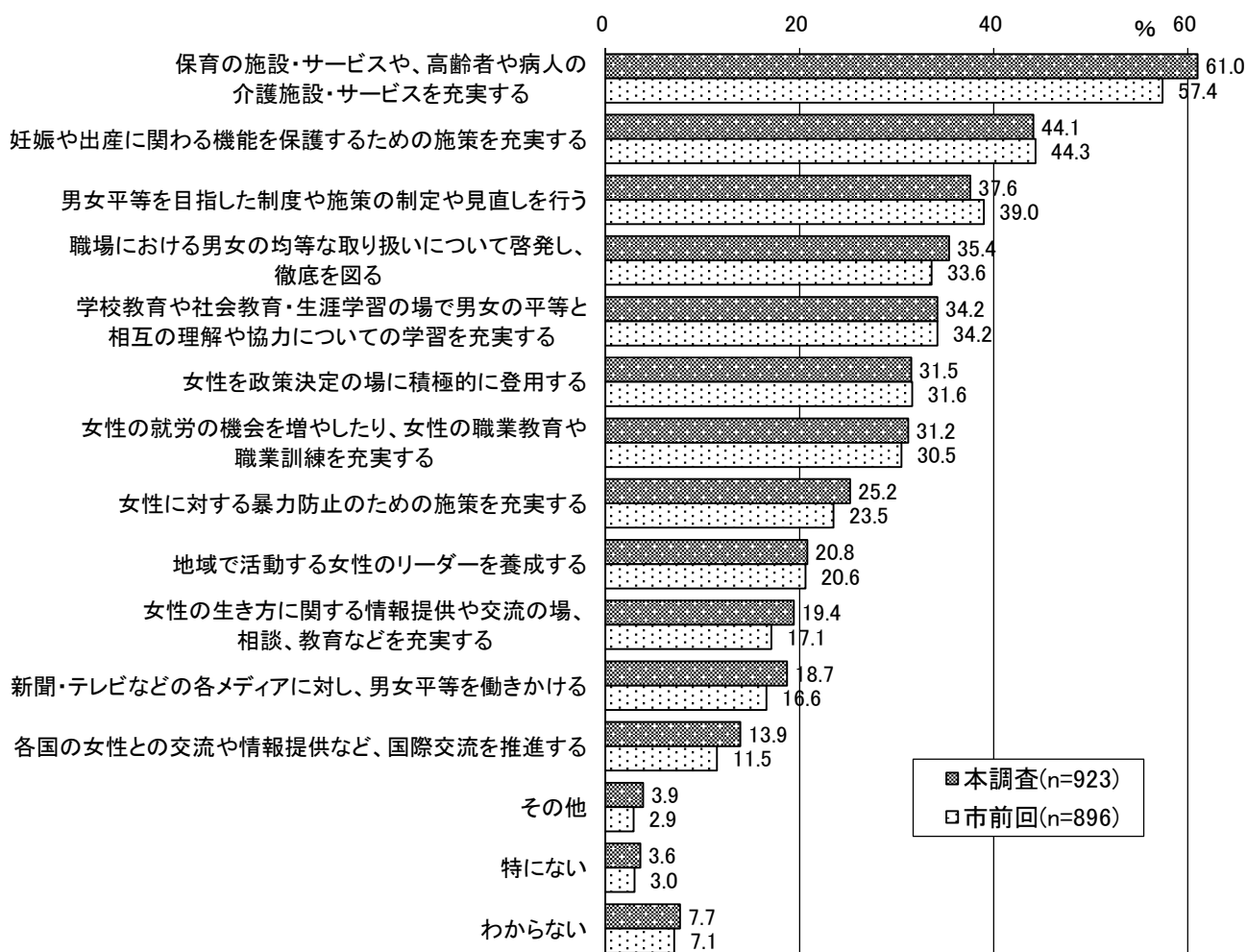


## 男女共同参画社会の実現について

問 31 男女共同参画社会を推進していくために、今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。〔○はいくつでも〕

- ・「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する」(61.0%)が過半数になっている。以下「妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する」(44.1%)、「男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う」(37.6%)、「職場における男女の均等な取り扱いについて啓発し、徹底を図る」(35.4%)などが続く。子育て・介護や妊娠・出産への支援が優先的に求められている。

男女共同参画社会推進のために力をいれていくべきこと



- ・性・年齢別では、男性 20 歳代・30 歳代で「職場における男女の均等な取り扱いについて啓発し、徹底を図る」が第 3 位になっている。男女の 70 歳以上では「女性を政策決定の場に積極的に登用する」の順位が高い。

## 男女共同参画社会推進のために力をいれていくべきこと

	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する	男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う
男性 20 歳代 (n=31)	妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する		職場における男女の均等な取り扱いについて啓発し、徹底を図る
男性 30 歳代 (n=50)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する	職場における男女の均等な取り扱いについて啓発し、徹底を図る
男性 40 歳代 (n=76)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する	男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う
男性 50 歳代 (n=56)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する	男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う
男性 60 歳代 (n=80)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う 学校教育などで男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	
男性 70 歳以上 (n=104)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する 学校教育などで男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
女性 20 歳代 (n=32)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する	男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う
女性 30 歳代 (n=85)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する	男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う
女性 40 歳代 (n=106)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する	男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う
女性 50 歳代 (n=87)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する	男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う
女性 60 歳代 (n=94)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	職場における男女の均等な取り扱いについて啓発し、徹底を図る	妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する
女性 70 歳以上 (n=118)	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する	女性を政策決定の場に積極的に登用する	男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う

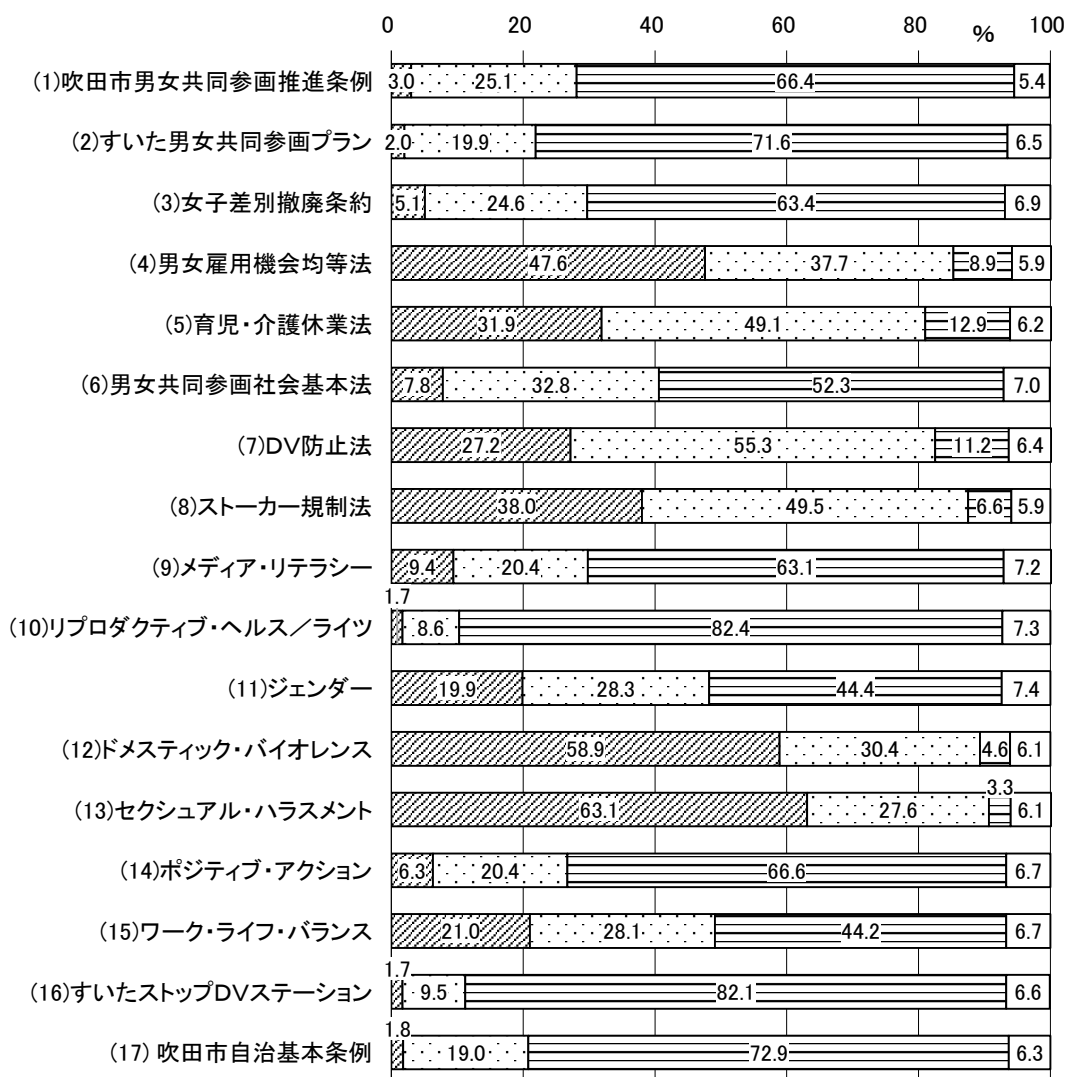


問 32 次の「ことば」や「ことがら」をご存じですか。〔(1)～(17)それぞれに、○は1つ〕

- ・「よく知っている」の割合が高いのは〈(13)セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）〉（63.1%）、〈(12)ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親しい人からの暴力）〉（58.9%）、〈(4)男女雇用機会均等法〉（47.6%）などである。
- ・逆に「知らなかった」とする割合が高いのは〈(10)リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）〉（82.4%）、〈(16)すいたストップDVステーション（DV相談室）〉（82.1%）、〈(17)吹田市自治基本条例〉（72.9%）、〈(2)すいた男女共同参画プラン〉（71.6%）、〈(14)ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）〉（66.6%）、〈(1)吹田市男女共同参画推進条例〉（66.4%）などである。男女共同参画を中心とした市の施策がよく知られていない。

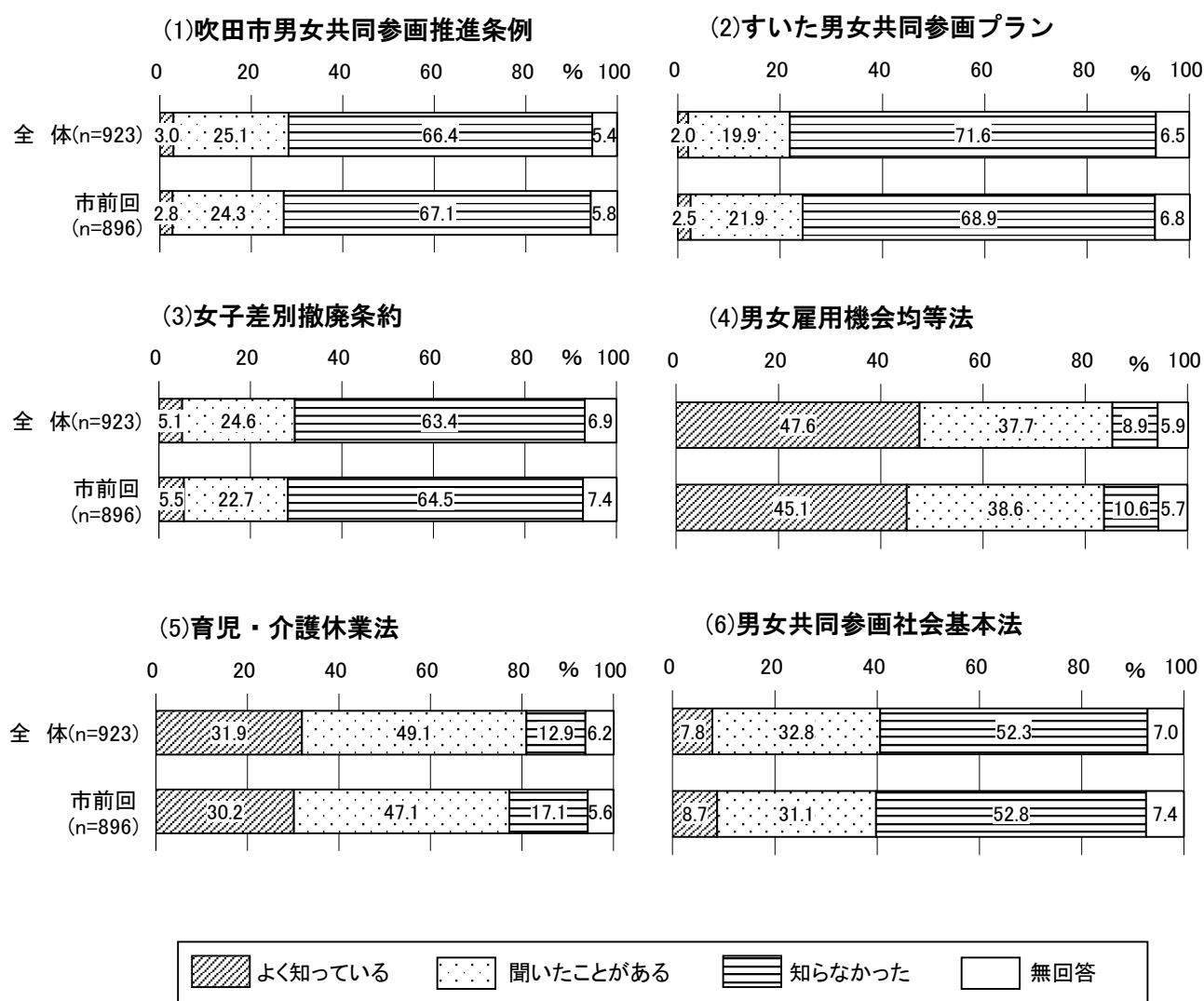
次の「ことば」や「ことがら」を知っているか〔(1)～(17)〕

(n=923)

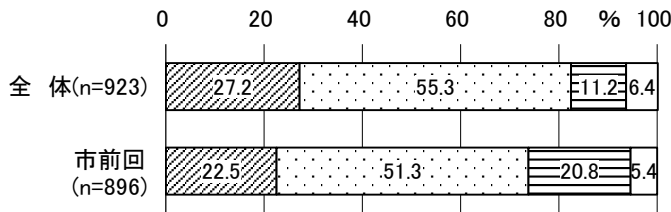


☒ よく知っている
 ☐ 聞いたことがある
 ☐ 知らなかった
 ☐ 無回答

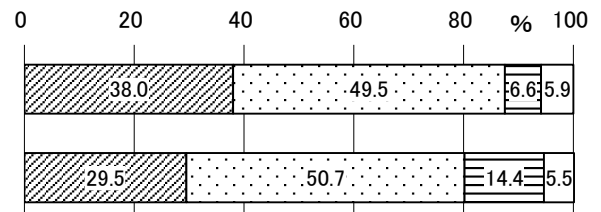
- ・前回調査と比べて多くの項目で「よく知っている」とする割合は上昇した。5ポイント以上上昇したのは、〈(8)ストーカー規制法〉〈(15)ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）〉〈(11)ジェンダー（社会的、文化的性差）〉〈(9)メディア・リテラシー（メディアからの情報を読み解く能力）〉〈(7)DV防止法（配偶者からの暴力防止及び被害者保護等に関する法律）〉などである。
- ・性・年齢別に加重点でみると、〈(6)育児・介護休業法〉〈(9)メディア・リテラシー〉〈(11)ジェンダー〉〈(15)ワーク・ライフ・バランス〉などは概して若年層ほどよく知られている。
- ・全体で周知度の低かった〈(1)吹田市男女共同参画推進条例〉〈(2)すいた男女共同参画プラン〉〈(16)すいたストップDVステーション〉〈(17)吹田市自治基本条例〉は、若年層の周知度はさらに低く、相対的には高年層によく知られている傾向がある。



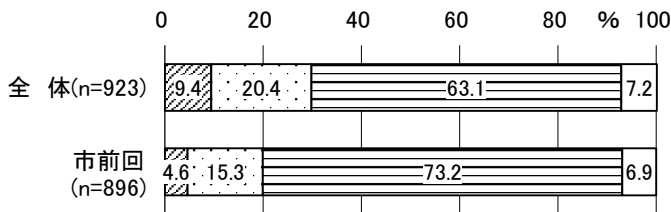
(7)DV防止法



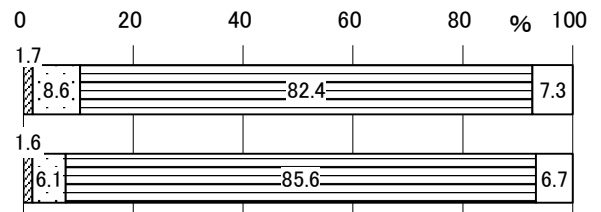
(8)ストーカー規制法



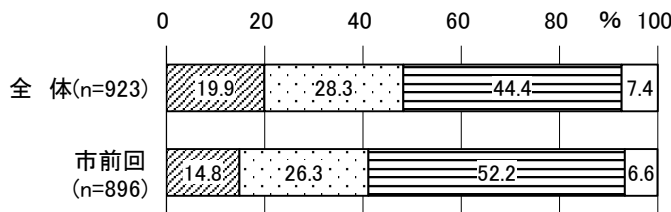
(9)メディア・リテラシー



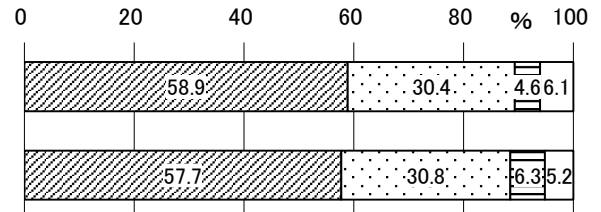
(10)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ



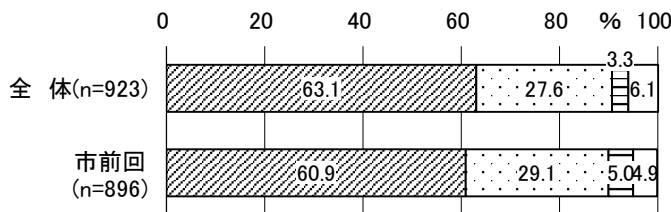
(11)ジェンダー



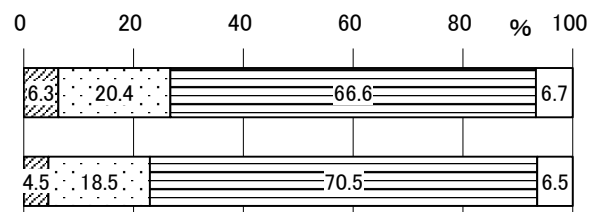
(12)ドメスティック・バイオレンス



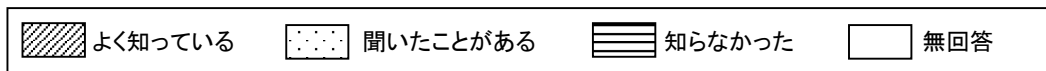
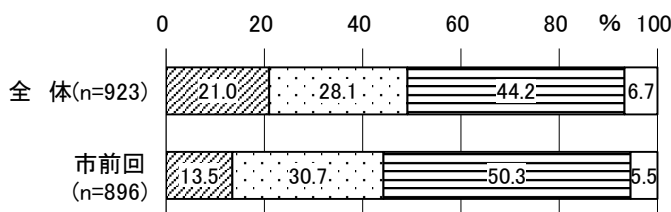
(13)セクシュアル・ハラスメント



(14)ポジティブ・アクション

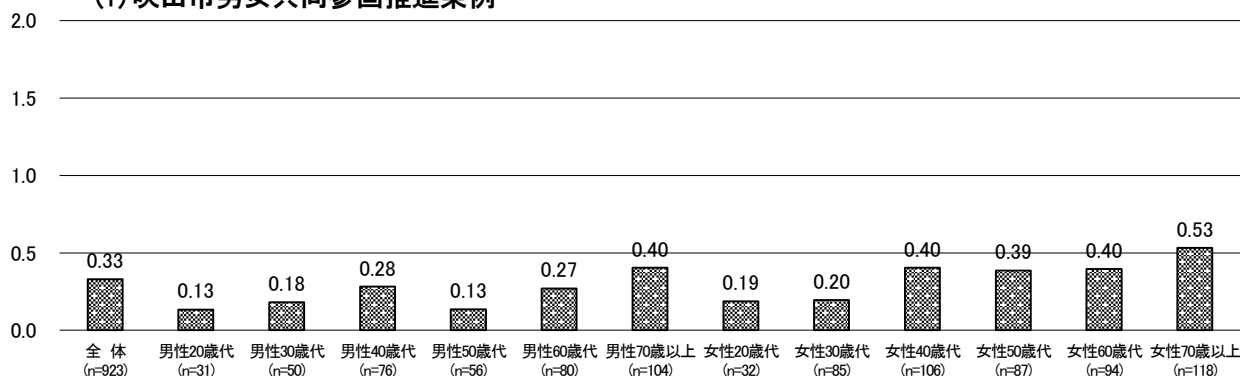


(15)ワーク・ライフ・バランス

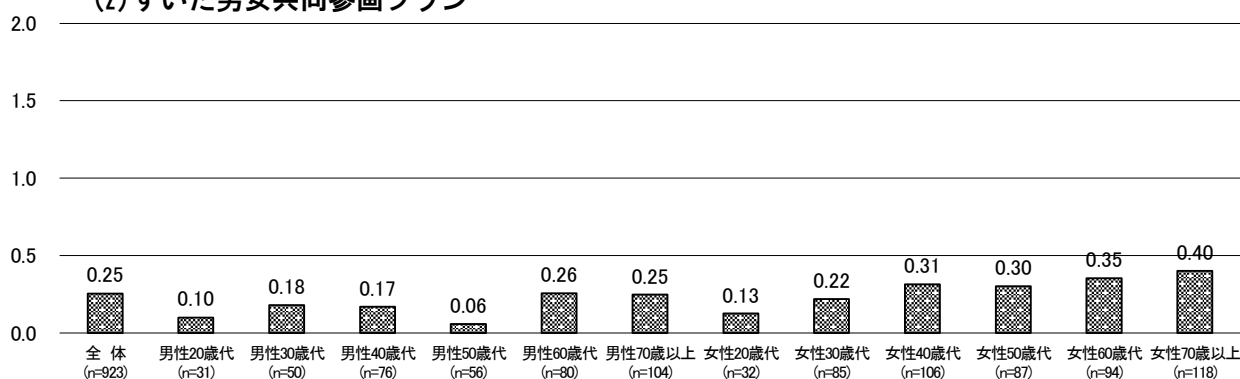


(1)～(17)のグラフは、「よく知っている」「聞いたことがある」「知らなかった」の回答1件あたりにそれぞれ、2点、1点、0点を与え、これらを合計したものを、上記の回答合計件数で除した値(加重点)である。  
加重点が高いほど、周知度が高いとみることができる。

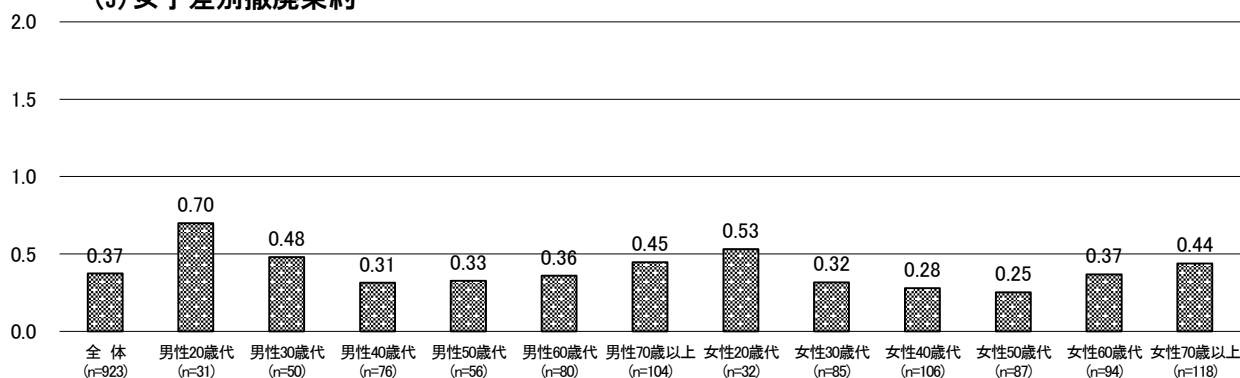
#### (1) 吹田市男女共同参画推進条例



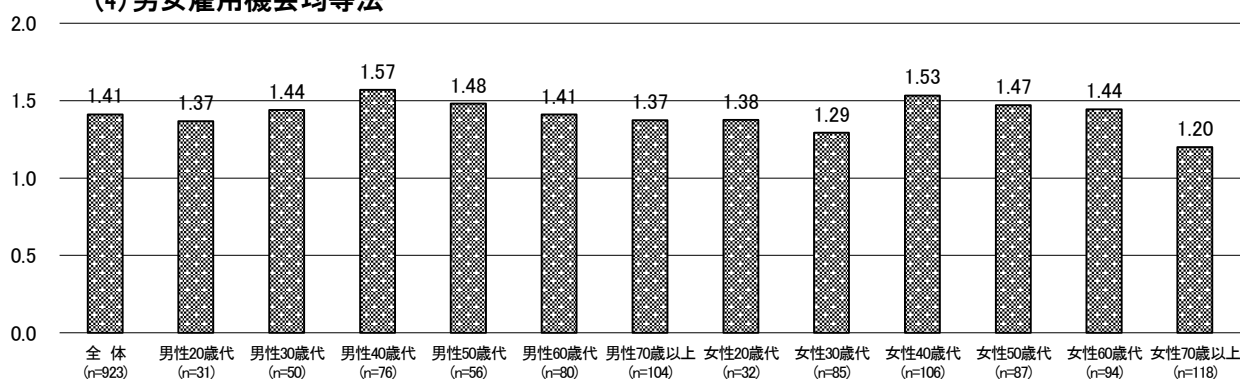
#### (2) すいた男女共同参画プラン



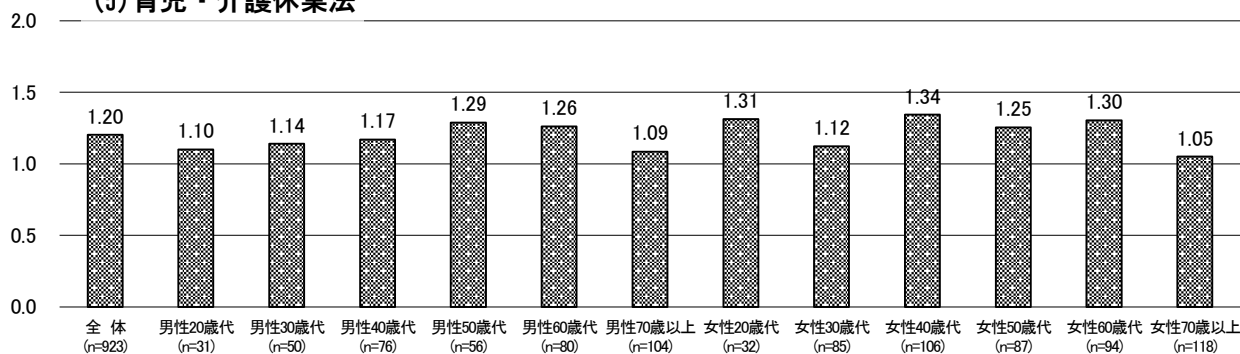
#### (3) 女子差別撤廃条約



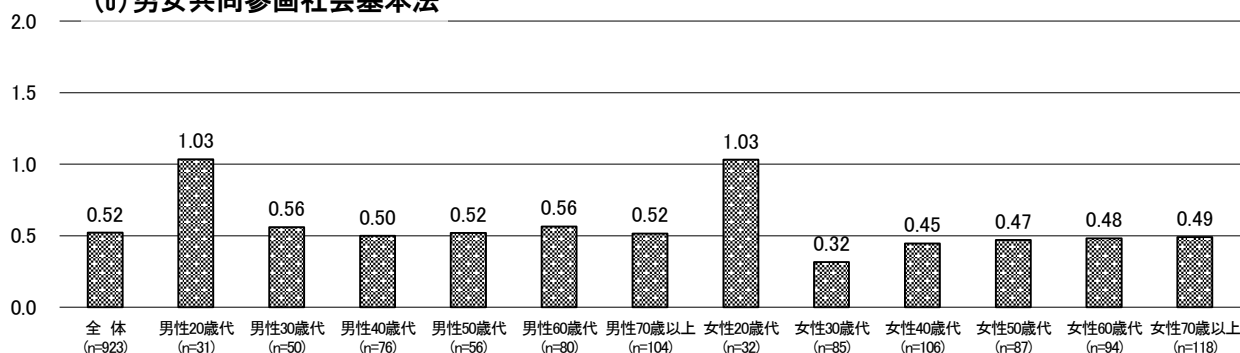
#### (4) 男女雇用機会均等法



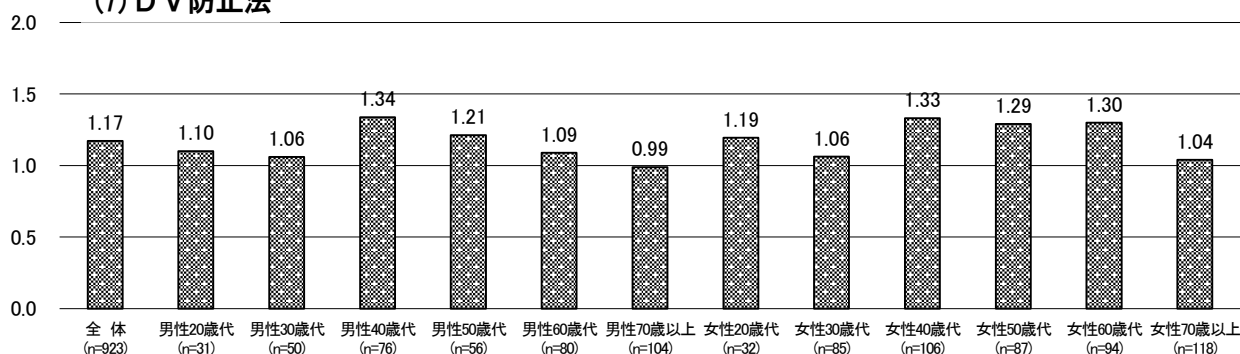
### (5) 育児・介護休業法



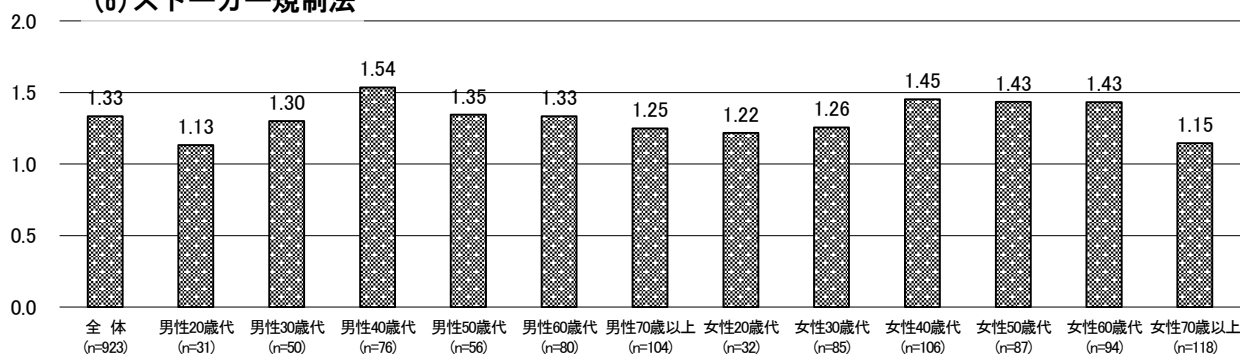
### (6) 男女共同参画社会基本法



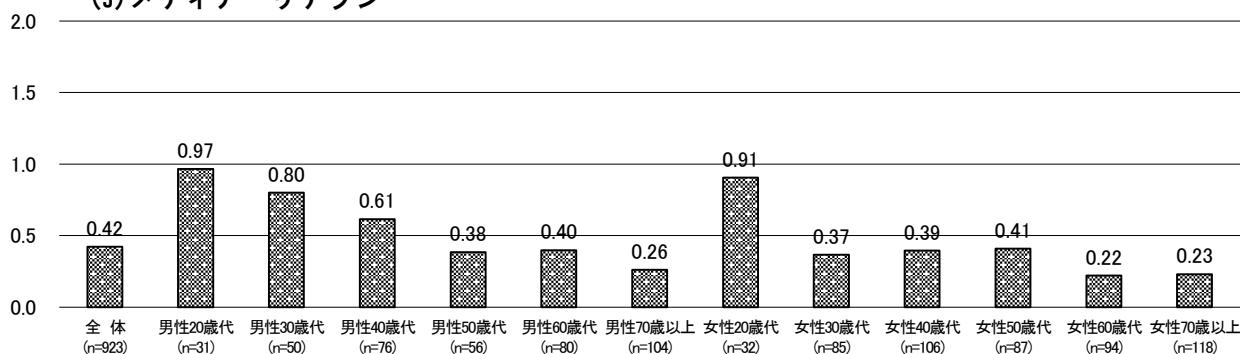
### (7) DV防止法



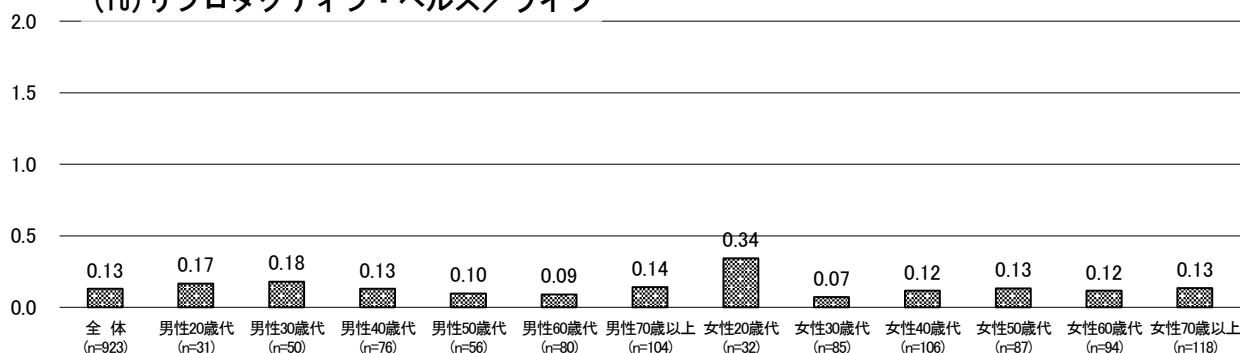
### (8) ストーカー規制法



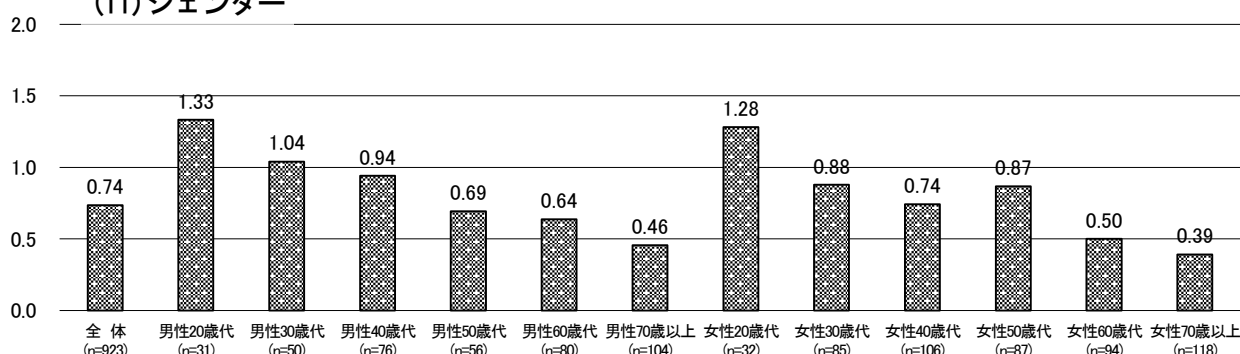
### (9) メディア・リテラシー



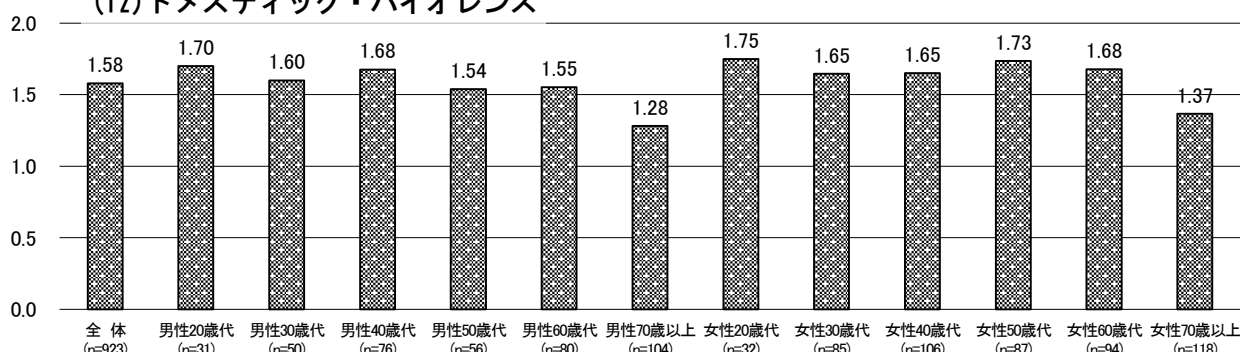
### (10) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ



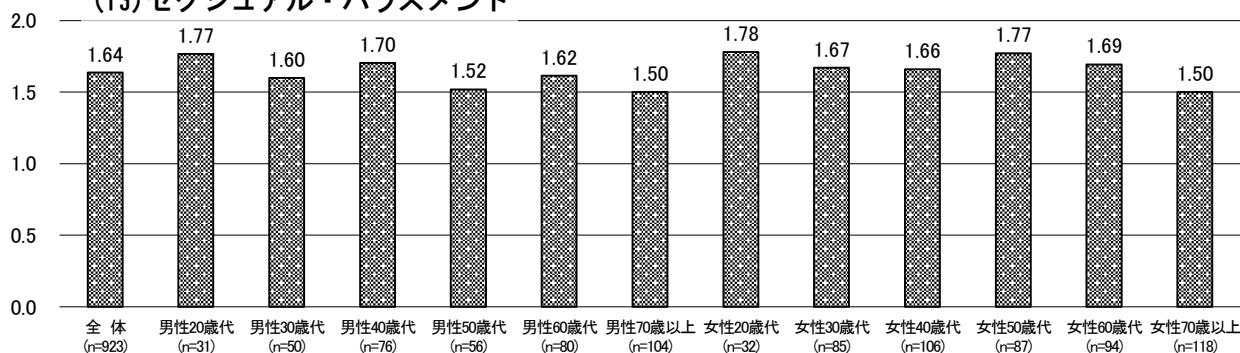
### (11) ジェンダー



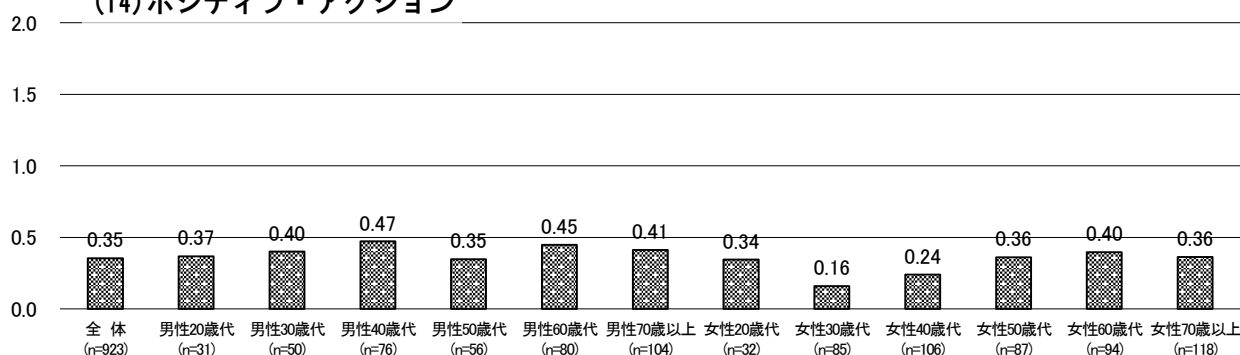
### (12) ドメスティック・バイオレンス



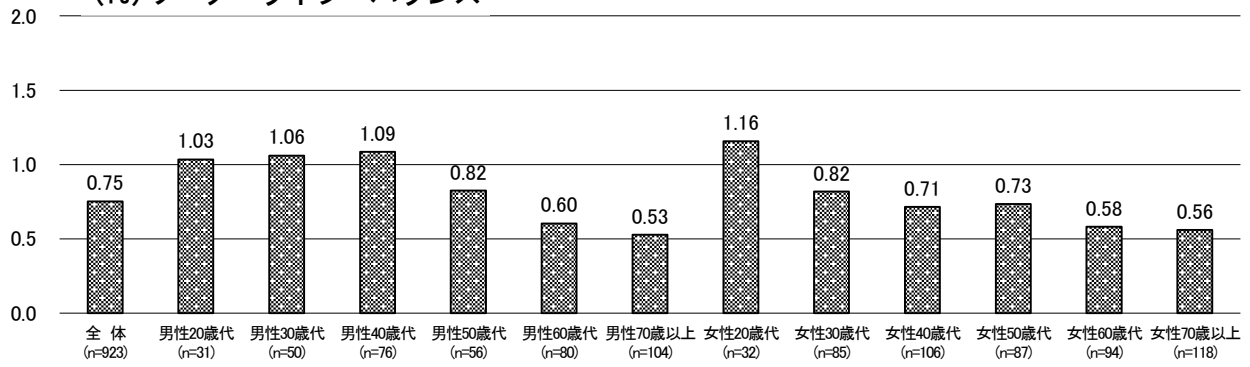
### (13) セクシュアル・ハラスメント



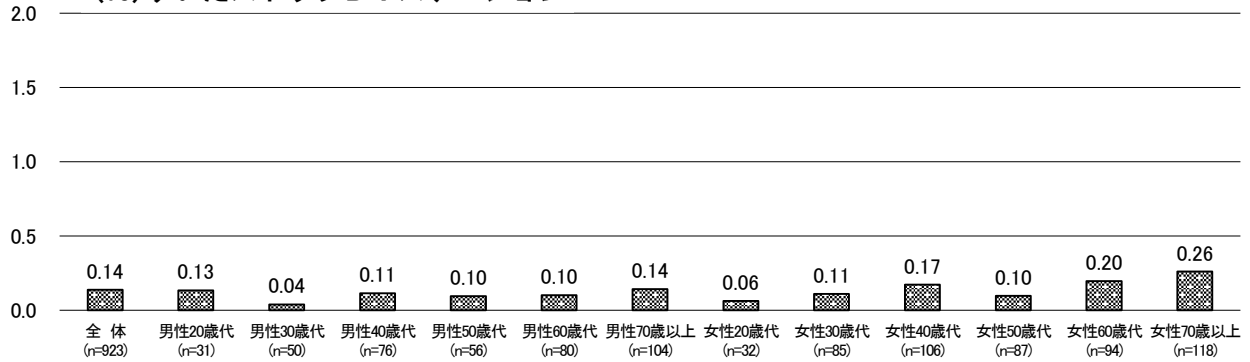
### (14) ポジティブ・アクション



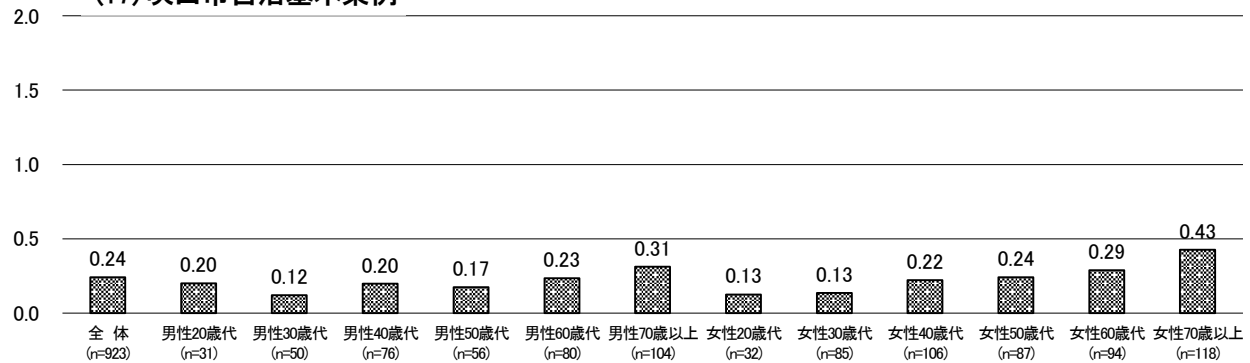
### (15) ワーク・ライフ・バランス



### (16) すいたストップDVステーション



### (17) 吹田市自治基本条例



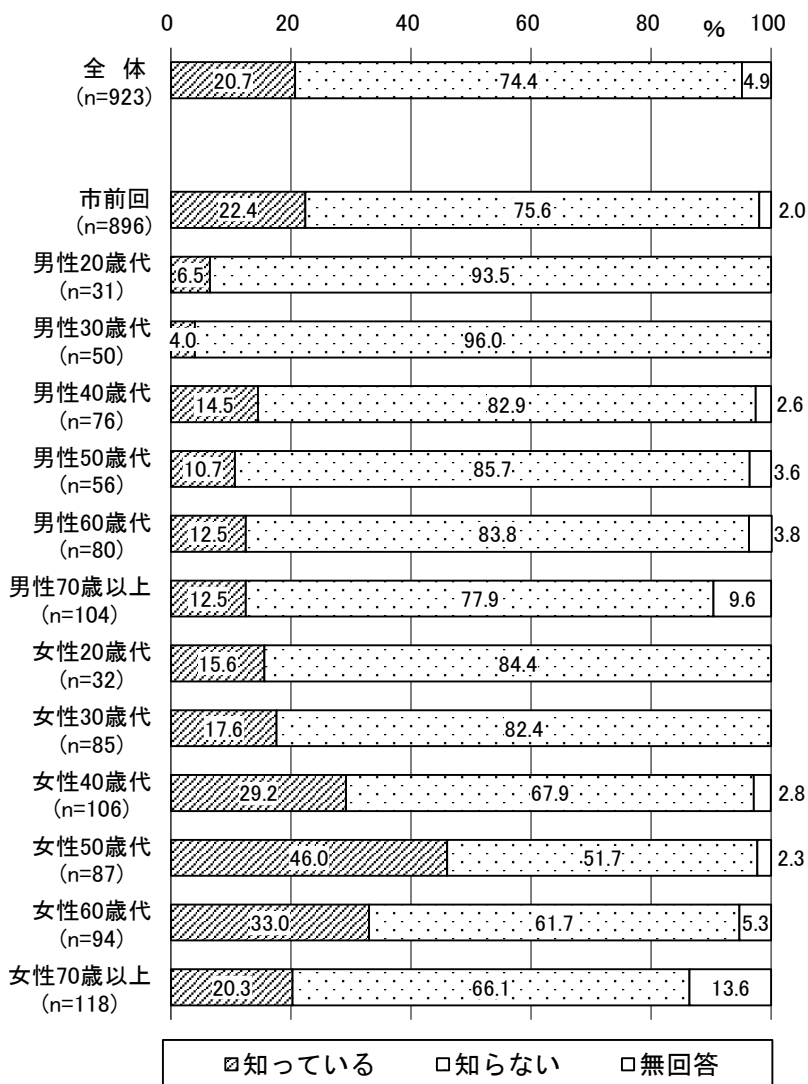
## 吹田市立男女共同参画センター デュオについて

問 33 あなたは、吹田市立男女共同参画センター デュオを知っていますか。〔○は1つ〕

・吹田市立男女共同参画センターデュオを「知っている」とする割合は 20.7%で、前回調査から 2 ポイント低下した。

・性・年齢別には男性 30 歳代で 4.0%、男性 20 歳代で 6.5%と低い。最も高いのは女性 50 歳代の 46.0%であるが、半数に満たない。

吹田市立男女共同参画センター デュオを知っているか

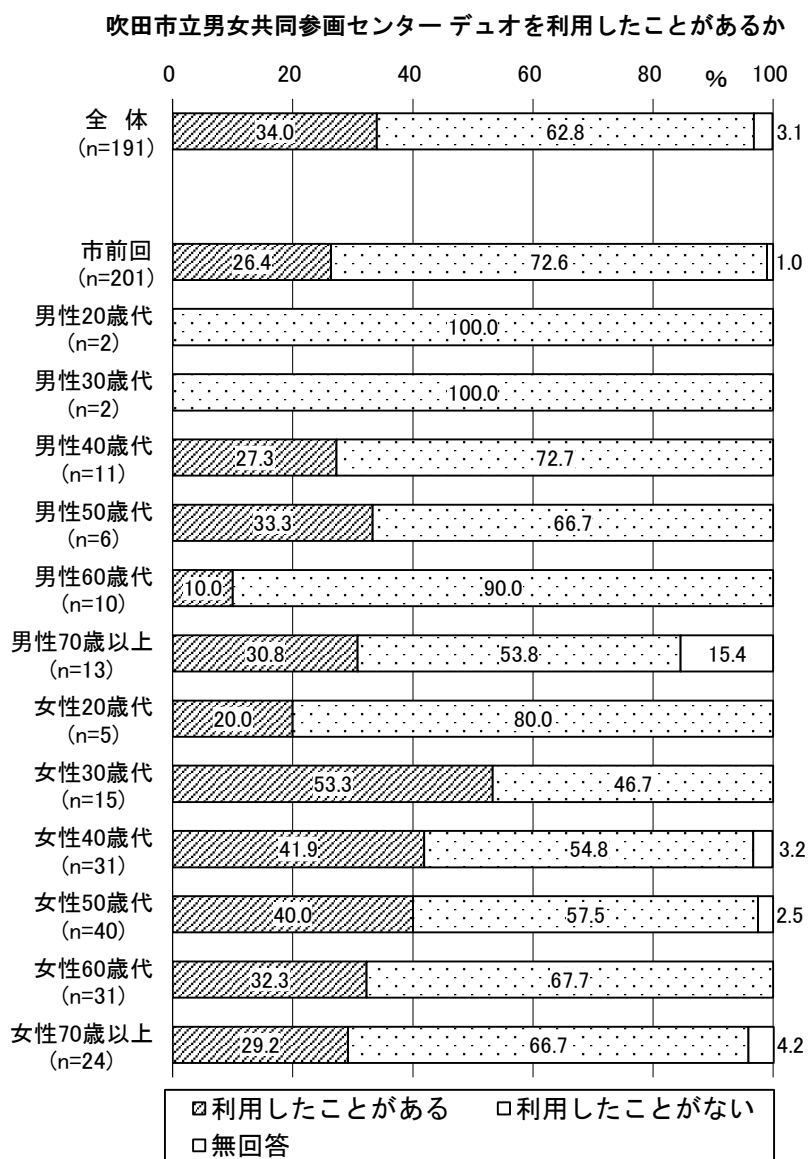




問 33-1 あなたは、吹田市立男女共同参画センター デュオを利用したことがありますか。  
[○は1つ]

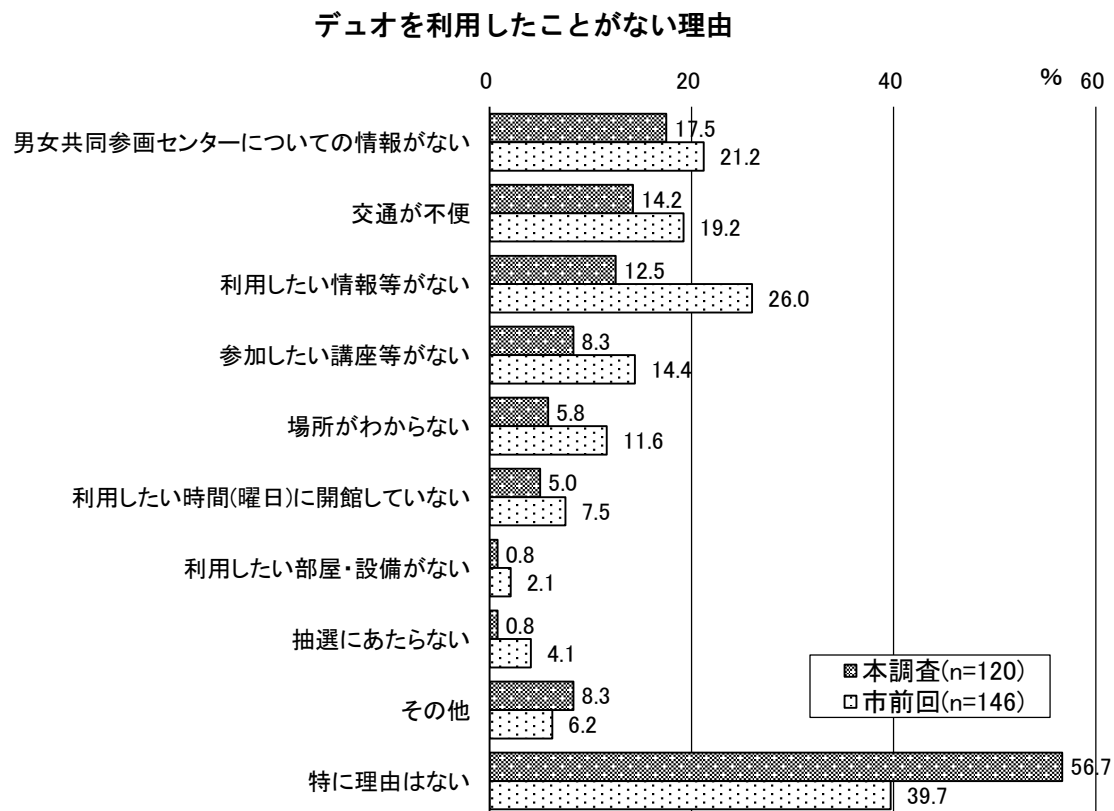
・デュオを「利用したことがある」とする割合は 34.0%で、前回調査より 8 ポイント上昇した。

・デュオを知っているとする割合は女性 50 歳代が最も高かったが「利用したことがある」とする割合は女性 30 歳代が最も高く、年齢層がこの両側に向かうほど低くなる。



問 33-2 利用したことがないのは、なぜですか。〔○はいくつでも〕

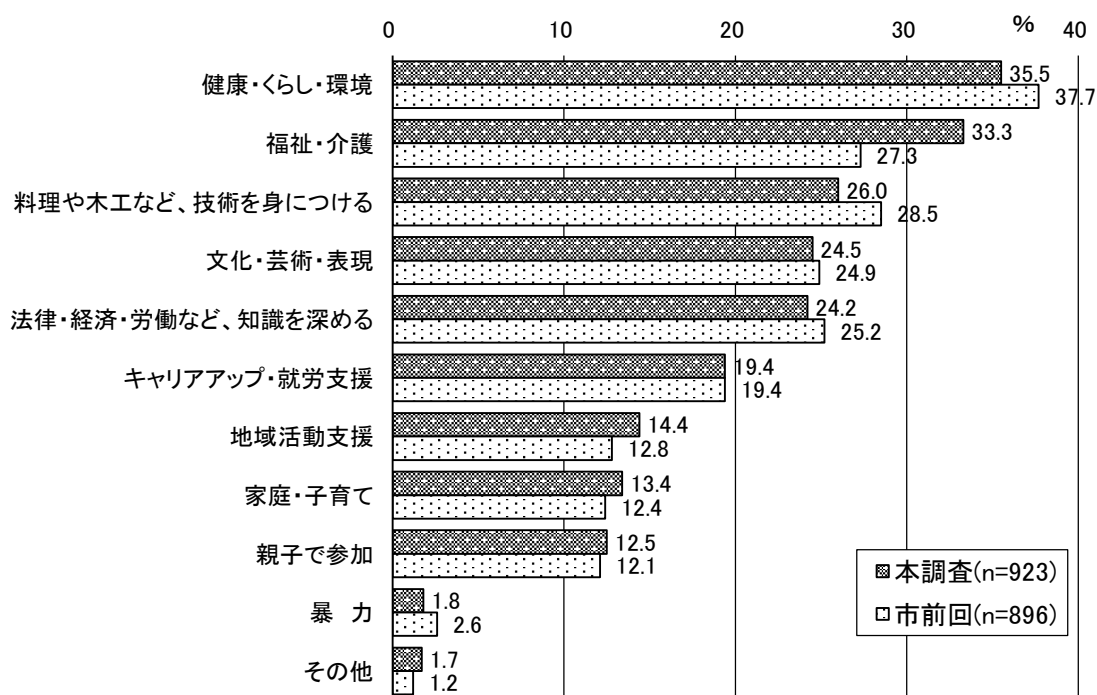
- ・「男女共同参画センターについての情報がない」(17.5%)、「交通が不便」(14.2%)、「利用したい情報等がない」(12.5%)などが利用したことがない主な理由である。



問 34 吹田市立男女共同参画センター デュオではさまざまな講座を開催しています。次のテーマの中で、興味のあるテーマがあれば選んでください。[○は3つまで]

- ・20%以上の支持を得ているテーマは「健康・くらし・環境」(35.5%)、「福祉・介護」(33.3%)、「料理や木工など、技術を身につける」(26.0%)、「文化・芸術・表現」(24.5%)、「法律・経済・労働など、知識を深める」(24.2%)である。

デュオの講座で興味のあるテーマ



- ・性・年齢別にみると、全体で第2位である「福祉・介護」では女性の50歳代と70歳以上では第1位になっている。男性20歳代・50歳代と女性30歳代・40歳代では「キャリアアップ・就労支援」が上位に位置している。男性30歳代・40歳代、女性30歳代では「親子で参加」「子育て」が上位である。

## デュオの講座で興味のあるテーマ

	第1位	第2位	第3位
全 体 (n=923)	健康・くらし・環境	福祉・介護	料理や木工など、技術を身につける
男性 20 歳代 (n=31)	法律・経済・労働など、知識を深める	キャリアアップ・就労支援	料理や木工など、技術を身につける
男性 30 歳代 (n=50)	親子で参加	家庭・子育て	料理や木工など、技術を身につける 法律・経済・労働など、知識を深める
男性 40 歳代 (n=76)	法律・経済・労働など、知識を深める	親子で参加	健康・くらし・環境
男性 50 歳代 (n=56)	法律・経済・労働など、知識を深める	福祉・介護	料理や木工など、技術を身につける キャリアアップ・就労支援 健康・くらし・環境
男性 60 歳代 (n=80)	健康・くらし・環境	福祉・介護	料理や木工など、技術を身につける 法律・経済・労働など、知識を深める
男性 70 歳以上 (n=104)	健康・くらし・環境	福祉・介護	地域活動支援
女性 20 歳代 (n=32)	料理や木工など、技術を身につける	文化・芸術・表現	法律・経済・労働など、知識を深める
女性 30 歳代 (n=85)	料理や木工など、技術を身につける	家庭・子育て	親子で参加 キャリアアップ・就労支援
女性 40 歳代 (n=106)	キャリアアップ・就労支援	料理や木工など、技術を身につける 法律・経済・労働など、知識を深める	
女性 50 歳代 (n=87)	福祉・介護	健康・くらし・環境	文化・芸術・表現
女性 60 歳代 (n=94)	健康・くらし・環境	福祉・介護	文化・芸術・表現
女性 70 歳以上 (n=118)	福祉・介護	健康・くらし・環境	文化・芸術・表現

## 自由意見

男女共同参画に関することで、吹田市へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

### 【20 歳代・女性】

- 質問自体が、女性に対して差別をしているように感じます。不愉快なので、今後はやめて頂きたいです。
- 働く女性の子育てを支援する制度、施設を増やしてほしい。
- 両親（妊娠）教室で、妊婦体験を取り入れてほしい。妊娠期がどれだけしんどいか、男性に分かってもらうため。

### 【20 歳代・男性】

- 昔は現在のようにパソコンに向かう仕事がなく、力仕事为主であったため、男性が外で働き、女性が家事をしていたのではないかと思います。  
現在のように、力仕事以外の仕事がたくさんあるのですから、女性が働くのは良いことであると思います。そのような経緯等をよく考えた上で、何が、何故、平等でないのかをハッキリさせる必要があると思います。平等も大切ですが、男女の区別をつけるのも大切だと思います。

### 【30 歳代・女性】

- “女性のため”と大騒ぎしないでほしい。働く意欲のある女性には、ベースとなるルールがしっかりしていれば十分。制度に甘え、意欲もないのに地位だけ高い女性が増えると迷惑する。また、「制度があるから仕方なく」という空気が会社側にあると、本当に居づらく感じる。
- 今までの社会が、男は仕事をする、女は家事、育児をするという考えがあり、男の地位が高いという考えだったと思う。現在はいろんな政策が行われているので、あとは個人がどう考えるかだと思う。学生の時に、男しか行けない学校はない。女も努力して仕事をしたり資格を取ったりして仕事をすれば良いと思う。結婚したら仕事を辞める気で仕事をするという考えは、改めるべきである。平等は女性もしっかり考えるべき。受け身であろうとするから、いつまでも地位が低いまま。自分から発信したりして、自分の地位を自分で確立するという気持ちを持つべきであると思う。
- 現在1歳3か月の子どもを子育て中です。母親向けの育児教室や子どもを通じて母親同士のコミュニケーションをとる機会は多々ありますが、父親参加（父親は子どもと2人で参加する）の機会が殆どなく、結局、子育ては女性の負担が大きくなっているにもかかわらず、「働く」ことも求められるのは正直しんどい。もっと男性が子育てと家事に参加すべき。また、働く女性（母親）が増えているのに、育児教室は平日昼間に開催されるものばかり。土・日・祝にも育児教室や講座を開催し、男性の参加しやすい環境をつくるべき。

- 子どもの送迎を考えると、労働時間の短縮やパートへの切替をしなくてはいけなくなり、賃金が下がり、かつ、雇用条件、社会保障が悪化します。改善して下さい。短時間でも能力は下がらないのに、当然のように悪条件を飲まざるを得ないのが現状です。賃金（パート・アルバイト）が安すぎます。
- 吹田市に対してというか、社会全体に対してですが、男女ともに賃金が低いので、子どもを生む以前に結婚もできないような社会になっていると思う。その上、高齢化で親の面倒をみなければならなくて大変だと思う。基本的に教育（小さい頃から）が大切だと思う。そして職場の環境（育児休暇の取りやすさ、介護休暇の取りやすさ）を整備しないとダメだと思う。
- 専業主婦＝社会貢献をしていないと思われがちですが、DVをする人の中には、愛情を持って育てられてない方も多くいるように感じます。女性だけとは言いませんが、家族の中で仕事や子どもに愛情を注げる人がいることが重要です。どちらかが働く形をとるところもあれば、パワフルな方はどちらもできる方もいます。皆、働けという風潮には疑問を持ちます。
- 私は小学校前の子どもが2人います。同じ立場の方ばかりではないのは、勿論わかっています。しかし、女性はやはり子どもを生むことにより、生活が一変します。楽しい事も勿論あり、つらいと感じることもあります。その後、働く女性、働かない女性で考え方も随分と変わると思います。各々の立場の人が満足して生活できるようになればいいなと思います。
- もっと市民に対して活動を知らしめる必要があると思います（知らないことが多い）。また、学校の教育の中にも、小さいうちから男女平等、社会貢献できる人材育成のための教育を取り入れるべきだと思います。吹田市への要望で、小学校給食をもっとおいしく、地域格差のないようにしてほしいです。

### 【30 歳代・男性】

- CSR の観点から企業は様々な努力・取り組みを行っているとありますが、企業として利益を追求する必要がある以上限界があるかと思います。その辺りの制度等、バックアップは必要だと思います。一方で役所は優遇され過ぎている気もします。（民間との比較において）
- 男の立場からだからそう思うのかもしれないが、「男女平等」がとにかく「女性優先」に傾いてしまっている印象がある。性差論（ジェンダー論）はイコール男女平等ではないと思う。アンケート内容も、例えば問 19 の 5 のように「強要」という言葉を使うと○（丸）を誘導してる印象を受ける。
- 残念ながら“結論ありき”の設問に思えてならない。設問中でも指摘したが、なぜ女性に関する質問が多いのか。男性についてもきちんと同様の視点で設問すべき。
- 男女共同参画→何の意味があるのかわかりません。
- 男女共同参画というと女性を社会へ出していくことがクローズアップされがちですが、女性も男性も、人間として個性があり差がありますので、その差を認め合うようになれば良いと思います。確かに、これまで女性が社会進出できていない部分はありますが、“男だから働くべき”的なことも男女共同参画の一つの障害であると思います。  
どうしていくのがベストかは難しいと思いますが、皆が幸せに生活できる都市に近づけて下さい。
- 男尊女卑前提で質問しているが、最近は女尊男卑が過ぎると思う。これはネット民の意見ではな

くて、生活で感じていること。

映画やレンタルビデオ屋などには、当たり前のようにレディスデイがあるが、メンズデイはあらゆる業界で聞かない。相席居酒屋や出会い喫茶系では、男は高額設定で、女はタダか格安。法では、男の意見は弱く、女の主張は強い。最近、強姦罪に問われた人が、実は虚偽の証言で実刑をくらっていたという話を聞いたこともあり、現社会では女の方が圧倒的に強いと考えている。

○妻が就労の意思はあるのに、子どもを保育園に預けられないために働けない。入園の制度が、一度退職してしまった人にとって不利な状況にある。そもそも保育園の数が足りない。一方で女性の社会進出を進めるために、扶養する条件が厳しくなる。矛盾している。並行して改善されなければ意味がない。

#### 【40 歳代・女性】

○国も地方も男性主体の政治では、なかなか変わらないように思います。まず、吹田市から男性議員、女性議員の人数を同じにしてみようか。

○市の議会とか、○×委員会とかも、男女比1：1にできるような仕組みができれば良いと思います。ちょっとずつでも皆の声が反映できるように。如何せん、仕事に追われて自治会でさえ、現役世代はなかなか役目を果たせないのですが。

あと、「家事」ってほんとにすごい「仕事」だってこと、男性も女性も再認識してほしい。

○職場において、出産・育児休暇の浸透は徐々に進んだ感じはありますが、同じ職場で働く人同士の受け入れ意識、協力については、もう少しかかるのかなという印象。

○女性を守ることも大切ですが、行き過ぎないように思います。反対に、男性に不平等を強いてはダメだと思います。

○吹田市内でも地域によって上記の施設などが認知されていないと思います。千里方面には市関係の施設・センター等が少なく、気軽にイベント等に参加しづらい状況です。もっと近隣センター（昔からある）等を再利用し、有効利用して頂けることを希望します。

○吹田市に住んで長くなりますが、意外と知らなかった事が多く、驚くこともありました。こういった参加型の情報を知る機会がもっとあればと思います。

○吹田市へ引っ越してきて3か月ですので、吹田市の条例や政策などまだわかっておりません。

○男女共同参画センターについては「市報すいた」でしか情報がないように思う。気軽に誰でも足を運べるように、もっと公共の場となれば良いと思う。

○男女共同が先走りすぎている気がしないでもないです。男性だから、女性だから、能力を発揮できることはある筈なので。看護師さん、介護士さんなんか、優遇される社会になるといいな。

○男女共同参画という言葉が固いように思います。男性も仕事だけではない、輝ける生き方があると思うので、また、今までと違ってイクメンの方も増えてきているので、楽しく参加できるような企画も期待しています。

○中学生の娘がいます。娘の周りの友だちはみんな意識が高く、男の子たちよりずっとパワフルで頼もしいです。大人になった時、今のよう（中学生は女子だからNGとか全くないので）、伸び伸びといろいろな面において活躍することを制限されない世の中になっているよう、社会に失望

することのないよう、どうぞ政策を進めて下さい。よろしくお願い致します。

○定年退職後のまだ元気な男性が、地域にもっととけ込んで活躍の場を与えられるような企画をしてほしい。

○まずは吹田市役所で女性管理職を今の3倍にしないと、掛け声だけで終わると思います。なぜ女性管理職が少ないのか、なぜ女性市長が誕生しないのか、そこに吹田市の問題が詰まっている気がします。男性社会を本気で壊す覚悟があるのか、現状で良いと思っているのか、市民（社会）の意識はそこまで盛り上がっていないと思います。

#### 【40 歳代・男性】

○「男女共同参画」という言葉に溺れてないか。一つひとつを大雑把にまとめたようなルール付けをせずに、もっとそれぞれに向き合って考えてほしい。このアンケート自体の完成度が低い。時間を無駄にした。

○極端な例を除いて、日本は古くより男女が平等に暮らしてきた国であると思っています。あまりにジェンダーフリーを強調するのは、逆にやりにくくなるのではないのでしょうか。

○今後も平和で暮らしやすい吹田のために頑張ってください。

○市議会議員を男女別に投票する（男性、女性議員を強制的に半数にする）ことを検討して下さい。

○女性が安心して働くために、保育園や学童は重要な制度だと思います。受け皿の数を増やすのも大事ですが、利用のし易さ（保育時間の延長など）にも力を入れて頂きたいです。

○男女共同参画で女性優遇を是正する話を聞いたことがないのですが、何故ですか？

○保育の充実が必須と思います。また学童（小学校）充実もです。

#### 【50 歳代・女性】

○質の良い保育所、老人ホームを作ってください。

○女性の活動を妨げるものとして、月経困難や更年期障害があると思います。保険点数の関係からか、丁寧なカウンセリングをしている婦人科はありません。（心療内科的なアプローチをしている所など、あるのでしょうか？）本人の自己負担金があっても良いので、市の健診でカウンセリングが受けられたら良いと思います。

○吹田市立男女共同参画センターがどのような業務をされているのか、まったくわかりません。市民に対してもう少し認知度を上げるような啓蒙活動運動が必要だと感じます。

○たくさんの方の意見を参考に、吹田市を暮らしやすい街にしていって下さい。よろしくお願い致します。

○男女平等、大賛成です。女性ばかり優遇しているのは違うと思います。

○より良い社会政策を望みます。将来の子どもたちのために！

○若い世代が子育てしやすく、働きやすくなるよう保育所を増やしてほしいです。



○私は自営業ですので身近ではない話題ですが、政治的対応も必要ですが、女性の意識の問題もあると思います。未婚ですので未婚者に対する差別はよく感じます。まだ古い価値観というものがあると感じています。

#### 【50 歳代・男性】

○アンケートの内容が少し偏重な気がします。職場ではこういった教育が行き届いているせいか、これを利用する女性（セクハラ等）や、言葉の暴力、逆セクハラばかりが目立つようになっています。

○埋もれている有能な女性人材の有効活用が必要。その為のシステム開発や法令制定を望む。女性が安心して2人の子どもを生み育てられる社会づくり。

○介護のため転職中（仮採用中）、前途が見えません。母は要介護3、常に見守りが必要です。実のある税金の使い方、行政をお願いします。（安倍総理に期待します。介護による離職率を減らす方針）

○吹田市の住民ですが、単身赴任で離れているため、吹田市の状況が理解できていない点があります。

○流山市のような子育て支援策を検討してはいかがでしょうか。

#### 【60 歳代・女性】

○P.14 のこと知らなくて、勉強しないとイケませんね。吹田市民になって3年目、良いところだと思います。他県にあるように年長者の運動する場所がほしいです。指導者も。

○今回のこの「実態調査」で初めて知りました。よくわからない事もあったり、「面倒くさい！」と思いましたが、知るきっかけになり良かったと思います。

○設問の仕方に疑問を感じる項目があり、気になりました。女性が被害者！という目線が気になります。ハラスメントは男女の区別なく行われているので、もう少し広い視野がほしいと思います。思いのほか、市の活動を知らなかったことにも気づかされました。

○デュオがどこにあるか知りませんが、山田駅前の「みらい館」でもいろんな講座（男女共同）を開催してほしい。子育てが中心で、若い人たちだけでなく地域の高齢者もどんどん入れるようにすれば良いと思います。

○リタイア年齢の人たちが、もっと地域貢献ができる場が増えると良い。元気な老人がいっぱいいる。地域が保守的になり過ぎて風通しが悪い。

○私は身体障がい者です。少し体が不自由で、思うように行動することが無理です。もっと身近に参加できる企画があればうれしいです。

#### 【60 歳代・男性】

○共同や平等って社会主義的で嫌ですね。そもそも女性にしか子どもが産めないという天与の性差の上で、男女平等を如何に実現できるのでしょうか。私は男女平等論者ではなく男女万民公平論者です。民主主義社会に於いては、家族や社会での役割を市民一人ひとりが性別や天与の身分に

よってではなく、合意のもと、それに伴う義務や権利を公平に果たし享受できるものでなければなりません。ポピュリズムによる平等のバラマキは、甘えや不公平に増幅を招くのみです。公平性に伴う弊害対策は、その後にいくらでも取れます。

パワハラ、セクハラは、たばこについて同様のヒステリックな大声ではなく、合理的な定義が先に必要です。行政の課題解決の方向が根本的に違っているように思います。

○広報活動の強化

○税金の節約をよろしくお願いします。

○男女とも生活が安定しないと、介護・少子化など解決することはない。いくらマスコミでセクハラや差別とかいっても、政府そのものが男女共同参画に動いていない。非正規雇用が増加するのでも防げない以上、男女共同参画など言っても何にもならない。生活が安定しなければ何をやっても同じ。

○人々の意識を変えることが重要だと思います。それには、小さい頃からの繰り返し教育が重要でしょう。

○私は現在、会社（20人中14名女性）を経営していますが、あまり過度に女性が被害者と決めてかからない方が良いと思います。現実には女性のストーカーや女性（主婦）が男性に対して暴力を振るう例があります。この場合、男性は訴えていきませんから、表には出ません。

### 【70歳以上・女性】

○「市報すいた」をもっと読んで勉強したいと思います。現在、主人の介護をやっておりますので、なかなか新聞も読めずに知らない事も多いです。あまり役に立てないのに申し訳ありません。

○①属性調査の年代別で、高齢者を「70歳以上」でひとまとめにするのは問題。少なくとも「80歳」「90歳以上」とすべきだと思う。

②「デュオ」は高い場所にあり、坂の勾配は高齢者にはきつい。各地にサテライトを設置するか、毎月、日を決めて出前講座を開設して、その機能を十分に発揮してほしい。現在の拠点のみの活動では、単に吹田市でも男女共同参画施策を行っているとの誇示に過ぎない。

③この集計結果の報告書を、ぜひ一部いただきたい。

○70歳代まで日本人として生活してきましたが、どの時代にもまったく男女平等であることはありませんし、あり得ないと思う。自身は女性であることで大きく差別をされたとか、嫌がらせを受けたと思う事柄はありませんが、自然に男性の役割、女性の役割を（意識することなく）こなしてきました。それで何の違和感も覚えませんでした。

○いつ、どこで知ることができるのですか。吹田市報ですか。教えて下さい。

○このアンケートで、今後、男女共同参画について、改めて社会の動き等に注目していきたいと思いました。

○男女共同参画センターがあることを、もっと全般に知らせることが必要だと思う。家に引きこもりの人たちが進んで参加すべきではと思う。今の若い人たちは人とのコミュニケーションが取れない人が多い故、進んで参加を望む。

○今回の調査で、吹田市立男女共同参画センター デュオについて何も知らず、関心もありません

でした。度々、市報等で啓発を図ってくださいますようお願いいたします。

- 吹田市はすばらしい都市だと思うので、男女共同参画を推進してますます魅力のある都市になってほしいと思います。
- 男女共同参画センターができたとは知っていましたが、一人で行くのもなんだし、遠かったので行きそびれました。申し訳ないです。また、足も悪いために。これからの女性はいっても個人差があるので何ですが、大いに活用すべきですね。
- 男女共同参画とは、主に女性が男性と同じように社会に出て平等に働き、同賃金、同地位、役職を得ることが目的のようですが、小さな子どもたちはやはり母親が愛情を持って育てるべきであると思う。最近 40 代位の人たちがまともに成人せずに変な大人子どもに育ち、社会生活に適應できない人たちが多くいる。幼児期の育ち方に問題があると思う。もっと子どものことを考えてから、その後で女性は社会参加すべきと思う。
- デュオの講座を受けてのち、グループを立ち上げた。グループには施設使用料が安くなった時期もありました。また、復活することを希望します。
- 問 23 の（４）はおかしい。言葉による暴力は、女性が一方的に耐え忍ぶ状況でもあるまい。女性も負けずに言い返しているはずだ。すべての間に？が付く。女性は泣き寝入り…は古い。
- 男女共同参画センターは場所が不便。情報がまったく入ってこない。高齢者の対応がない。やっている内容が発信されていない。市報には魅力ある企画がない。

#### 【70 歳以上・男性】

- 活動に関する情報を、一般市民に流すことも必要と思います。
- 現在、市報“すいた”を活用中。
- 現在まだ現役で多忙ですが、そのうち時間的余裕ができれば男女共同参画センターの講座に出席したい。
- これから消え去っていく高齢者より、これから進んでいく若い世代のいろいろな道を示していく方がよいと思います。
- 今回の調査で初めて「吹田市立男女共同参画センター デュオ」について知りました。こんな素晴らしい事業を推進されているのなら、全吹田市民にもっと知らせる努力が必要かと思います。もし、私だけが知らなかったのなら、ごめんなさい。
- 吹田市もっと頑張れ！ 私もっともっと勉強する！
- 男女平等と男女性平等は別物。男女適性差別、男女適正差別は平等と思う。
- 当意識・実態調査は甚だ設問の意味がつかみにくい。もう少し検討の必要ありと考えます。よろしく。（なお、当方 82 歳の男性、十数年前、妻とは死別）
- 当該設問は女性からの視点で回答を求められており、男性が回答するには戸惑う内容項目が多かった。
- 人は誰でも自分を大切に思います。だったら周りの人も大切に思って、お互いが認め合い理解し

合う心が社会人だと思います。

男女共同参画の「テーマ」にしましても、子ども（小学１年生）の頃から、社会人としての心の教育が大切に思います。この問題は教育現場や家庭でも必要です。

○総花的には難しい。ポイントを絞ってやった方が良い。常に効果を確認し評価していく。

# 男女共同参画に関する市民意識・実態調査

## 調査へのご協力をお願い

平素は市政に対し、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

吹田市では、行政・市民・事業者が協働して男女共同参画社会を実現するための基盤として、平成14年（2002年）に「吹田市男女共同参画推進条例」を制定しました。

そして条例の目指すところを実現するために、3次にわたる「すいた男女共同参画プラン」を策定してこれに基づく事業を推進してきました。

この調査は、男女共同参画プランの推進状況を検証するとともに、第4次プラン策定に向けた基礎資料といたしたく、市民のみなさまの男女共同参画に対する意識の変化を把握するために実施するものです。

つきましてはお忙しいところ誠に恐縮ですが、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

平成27年(2015年) 10月

吹田市長 後藤 圭二

### ご記入にあたって

◇この調査票は、吹田市に住む20歳以上の方2,000人（男女各1,000人）を無作為に選ばせていただき、お願いしております。

◇無記名なので、どなたの答えかわからないようになっています。  
率直に、思うままをお答えください。

回答内容についてあなたに迷惑をおかけすることはありません。

◇あて名のご本人がお答えください。（病気などの理由でご本人が回答できない場合は、ご家族などに代筆いただくか、下記までご相談ください。）

◇質問ごとに、記載している方法に従ってご回答ください。お答えが「その他」にあてはまる場合は、（ ）に具体的にご記入ください。

◇ボールペンやえんぴつなどでハッキリとお書きください。

### ご返送について

◇記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、  
**10月31日(土)**までにポストにご投函ください

### お問い合わせ先

◇この調査についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

吹田市人権文化部 男女共同参画室

電話：06-6384-1461（直通） ファクス：06-6368-7345

## あなた自身のことについておたずねします

### 問1 あなたの性別は。[○は1つ]

- |        |        |             |
|--------|--------|-------------|
| 1. 男 性 | 2. 女 性 | 3. 「1」「2」以外 |
|--------|--------|-------------|

### 問2 あなたの年代は。[○は1つ]

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| 1. 20 歳代 | 2. 30 歳代 | 3. 40 歳代  |
| 4. 50 歳代 | 5. 60 歳代 | 6. 70 歳以上 |

### 問3 あなたの家族構成について。[○は1つ]

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. 自分ひとりだけ   | 2. 夫婦またはカップルのみ |
| 3. 配偶者と子ども   | 4. 配偶者と親       |
| 5. 祖父母と親と配偶者 | 6. 親と配偶者と子ども   |
| 7. 配偶者と子どもと孫 | 8. その他( )      |

### 問4 あなたは結婚(事実婚を含みます)していますか。[○は1つ]

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. 結婚していない | 2. 既婚、配偶者あり |
| 3. 結婚後、離別  | 4. 結婚後、死別   |
| 5. その他( )  |             |

問 4-1 問 4 で「2. 既婚、配偶者あり」と答えた方におたずねします。

### あなたの配偶者は仕事をしていますか。[○は1つ]

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. 仕事をしている | 2. 仕事をしていない |
|------------|-------------|

### 問5 あなたの一番下の子どもは。[○は1つ]

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1. 子どもはいない  | 2. 6 歳未満の未就学児 |
| 3. 小学生      | 4. 中学生        |
| 5. 高校生以上の学生 | 6. 社会人        |
| 7. その他( )   |               |

## 男女の平等や地域生活についておたずねします

**問6 次の各分野において男女の地位は、平等になっていると思いますか。**

〔(1)～(8)それぞれに、○は1つ〕

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
(1) 家庭生活の場では	1	2	3	4	5	6
(2) 職場では(賃金や待遇など)	1	2	3	4	5	6
(3) 地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
(4) 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
(5) 政治の場では	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
(7) 慣習やしきたり(冠婚葬祭など)では	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体として	1	2	3	4	5	6

**問7 次のような結婚・育児についての意見をどう思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。**

〔(1)～(7)それぞれに、○は1つ〕

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそうわない	そう思わない	わからない
(1) 結婚は必ずしも、しなくてもよい	1	2	3	4	5
(2) 結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい	1	2	3	4	5
(3) 高齢者同士の結婚に違和感はない	1	2	3	4	5
(4) 夫と妻が別姓を名乗ってもよい	1	2	3	4	5
(5) 結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
(6) 子どもの数や産む時期を決めるにあたっては、女性の主体的な意見を尊重した方がよい	1	2	3	4	5
(7) 3歳までは、母親が家庭で子育てすべきという考えにはこだわらない	1	2	3	4	5

**問8 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。〔○は1つ〕**

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. 同感する          | 2. どちらかといえば同感する |
| 3. どちらかといえば同感しない | 4. 同感しない        |
| 5. わからない         |                 |


**問9 次の家庭内の仕事について、どのように担当するのが望ましいとお考えですか。配偶者・パートナーがいない方も、仮にいと想定してお答えください。〔(1)～(10)それぞれに、○は1つ〕**

	全て妻の担当	主に妻の担当	夫と妻が同じ程度に担当	主に夫の担当	全て夫の担当	その他の人が主に担当	わからない
(1) 生活費を得る（稼ぐ）	1	2	3	4	5	6	7
(2) 掃除・洗濯をする	1	2	3	4	5	6	7
(3) 食事のしたくをする	1	2	3	4	5	6	7
(4) 日々の家計を管理する	1	2	3	4	5	6	7
(5) 子どもの教育としつけをする	1	2	3	4	5	6	7
(6) 乳幼児の世話をする	1	2	3	4	5	6	7
(7) 老親や病身者の介護や看護をする	1	2	3	4	5	6	7
(8) 親戚づきあいをする	1	2	3	4	5	6	7
(9) 近所づきあいをする	1	2	3	4	5	6	7
(10) 高額の買い物を決定する	1	2	3	4	5	6	7



**問 10** 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域活動」「個人生活」の優先度についてお答えください。  
あなたの希望とあなたの現実(現状)について、1番と2番はどれですか。[ ]内に数字を記入]

<b>あなたの希望</b>	第1に [ ] を優先したい	第2に [ ] を優先したい
<b>あなたの現実(現状)</b>	第1に [ ] が優先されている	第2に [ ] が優先されている



1. 仕事	2. 家庭生活	3. 地域活動	4. 個人生活
-------	---------	---------	---------

**問 11** あなたが、今後、社会・地域活動に参加しようとする時、何かさまたげになるようなことがありますか。[○は3つまで]

1. 仕事が忙しく、時間がない
2. 家事・育児が忙しく、時間がない
3. 子どもの世話を頼めるところがない
4. 親や病人の介護を頼めるところがない
5. 自分の健康や体力に自信がない
6. 身近なところに活動する場所がない
7. 経済的な余裕がない
8. 配偶者や家族の理解が得られない
9. 職場の上司や同僚の理解が得られない
10. 自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない
11. その他 ( )
12. 特にさまたげになることはない
13. わからない

**問 12** 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。[○は3つまで]

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
2. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること
3. 夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合うこと
4. 労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
5. 男性の仕事中心の生き方、考え方を改めること
6. 小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること
7. その他 ( )
8. 特に必要ない

介護についておたずねします

問 13 自分の家族の中に介護を要する人がいる場合、または、もし家族が介護を要する状態となった場合、あなたはどのようにしたいとお考えですか。〔○は1つ〕

1. 行政や外部のサービスには頼らず、自宅で介護したい（している） .....
2. ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護したい（している） .....
3. 特別養護老人ホーム等の施設に入所させたい（入所させている）
4. その他（ ）
5. わからない

**問 13-1** 問 13 で「1」または「2」と答えた方におたずねします。

自宅で介護する場合、主に誰が介護することになると思いますか。[○は1つ]

1. 主に、自分が介護すると思う（している）
2. 主に、配偶者が介護すると思う（している）
3. 主に、その他の家族（女性）が介護すると思う（している）
4. 主に、その他の家族（男性）が介護すると思う（している）
5. 家族以外の人
6. その他（ ）
7. わからない

問 14 もしあなたが介護を要する状態になった場合、どのようにしてほしいと思いますか。  
[○は1つ]

1. 行政や外部のサービスには頼らず、自宅で家族等から介護してもらいたい .....
2. ホームヘルパーやデイサービス等を利用しながら主に自宅で介護してもらいたい .....
3. 特別養護老人ホーム等の施設に入所したい
4. その他（ ）
5. わからない

**問 14-1** 問 14 で「1」または「2」と答えた方におたずねします。

自宅で介護される場合、主に誰に介護してもらいたと思いますか。〔○は1つ〕

- |                                       |                                       |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 配偶者                                | 2. 息子                                 |
| 3. 娘                                  | 4. 息子の配偶者                             |
| 5. 娘の配偶者                              | 6. その他の家族（女性）（                      ） |
| 7. その他の家族（男性）（                      ） | 8. 家族以外の人                             |
| 9. その他（                      ）        | 10. わからない                             |

## 働くことについておたずねします

問 15 一般に、女性が職業を持つことについて、次のどれが望ましいと思いますか。〔○は1つ〕

1. 職業を持ち、結婚や出産に関わらず仕事を続ける
2. 結婚や出産を機にいったん退職し、育児終了後、再び職業を持つ
3. 結婚を機に退職し、後は職業を持たない
4. 出産を機に退職し、後は職業を持たない
5. 職業を持たない
6. その他（ ）
7. わからない

問 16 （働いている方に）あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。

（働いていない方に）一般に、職場では、性別によって差があると思いますか。

〔(1)～(9)それぞれに、○は1つ〕

	男性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	平等である	わからない
(1) 募集・採用	1	2	3	4
(2) 賃金	1	2	3	4
(3) 仕事の内容	1	2	3	4
(4) 昇進・昇格	1	2	3	4
(5) 管理職への登用	1	2	3	4
(6) 能力評価（業績評価・人事考課など）	1	2	3	4
(7) 研修の機会や内容	1	2	3	4
(8) 働き続けやすい雰囲気	1	2	3	4
(9) 育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ	1	2	3	4

**問 17 出産・子育て・介護などの理由で、女性が仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。〔〇は3つまで〕**

1. 育児・介護休暇制度の充実
2. 企業経営者や職場の理解
3. 労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入
4. 子育てや介護のための支援の充実
5. 夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加
6. その他（ ）
7. わからない

**問 18 出産・子育て・介護などで仕事を辞めた後、再就職を希望する女性が、再就職しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。〔〇は3つまで〕**

1. 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実
2. 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
3. 育児や介護などによる退職者を同一企業で再雇用する制度の普及
4. 企業経営者や職場の理解
5. 労働時間の短縮やフレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入
6. 育児や介護のための施設やサービスの充実
7. 夫、パートナーなど家族の理解や家事、育児、看護などへの参加
8. その他（ ）
9. わからない

## 性的いやがらせや配偶者間の暴力についておたずねします

**問 19 次のうち、あなたがセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)だと思うものは、どれですか。〔〇はいくつでも〕**

1. 地位や権限を利用して、性的関係を迫ること
2. さわる、抱きつくなど肉体的接触をすること
3. 性的な質問をしたり、「異性関係が派手だ」などの噂を流すこと
4. 女性の目につきやすい所に、ヌードポスターやカレンダーなどを置いておくこと
5. 宴席で、女性にお酌やデュエット、ダンスを強要すること
6. 結婚予定や出産予定をたびたび聞くこと
7. 女性をじろじろ見たり、容姿のことをすぐ話題にすること
8. 女性を「ちゃん」づけで呼んだり、「女の子」と称すること
9. 女性だけにお茶くみを要求すること
10. 女性だけに制服の着用を義務づけること
11. その他（ ）

**問 20 あなたは、身近でセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)を見たり、聞いたり、あるいは自分自身が受けたりの事がありますか。また、それはどのような内容でしたか。[○はいくつでも]**

	自分自身が受けたことがある	見たり、聞いたり、聞いたことがある	ない
(1) 身体や容姿のことをからかわれた	1	2	3
(2) 未婚、既婚、離婚、妊娠などでからかわれた	1	2	3
(3) 性的なジョークや卑わいなことをいわれた	1	2	3
(4) ヌード写真等を貼ったり、みせられたりした	1	2	3
(5) からだにさわられた	1	2	3
(6) 飲酒の席で、横に座らされたりお酌をさせられたりした	1	2	3
(7) 立場を利用した性的なさそいを受けた	1	2	3
(8) その他[差し支えなければ具体的にお書きください] ( )	1	2	3

**問 21 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。それぞれについて、あなたの考えに近いものに○をつけてください。[ (1) ～ (11) それぞれに、○は1つ]**

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もあると思う	暴力にあたると思わない	わからない
(1) 平手で打つ	1	2	3	4
(2) なぐる、ける	1	2	3	4
(3) 家具などの物にあたる、壊す	1	2	3	4
(4) 殴るふりをして、おどす	1	2	3	4
(5) 望まないのに性的な行為を強要する	1	2	3	4
(6) 無理やりポルノ画像などを見せる	1	2	3	4
(7) 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4
(8) 暴言をはいたり、ばかにしたり、見下したりする	1	2	3	4
(9) 自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要する	1	2	3	4
(10) 友だちや身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする	1	2	3	4
(11) 本人の許可なく性的な写真や動画などを一般に公開する	1	2	3	4

10 歳代から 20 歳代に交際相手のいる(いた)方におたずねします。結婚している(したことのある)方は、結婚前についてお答えください。

交際相手のいない(いなかった)方は、問 24 へお進みください。

問 22 あなたは 10 歳代、20 歳代に、交際相手から、次のようなことをされたことがありますか。

〔(1)～(9)それぞれに、○は1つ〕

	た何 度も あつ	つ1、 た、 2 度あ	いま つた く な
(1) 命の危険を感じるくらいの暴力を受けた	1	2	3
(2) 医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた	1	2	3
(3) 医師の治療が必要とならない程度の暴力を受けた	1	2	3
(4) 大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた	1	2	3
(5) デートの費用やお金を無理やり出させられた	1	2	3
(6) 交友関係や電話・メールを細かく監視された	1	2	3
(7) 危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた	1	2	3
(8) 何を言っても無視され続けた	1	2	3
(9) いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

結婚(事実婚や別居中を含む)している(したことのある)方におたずねします。

結婚していない方は、問 27 へお進みください。

問 23 あなたはこれまでに、配偶者から、次のようなことをされたことがありますか。

〔(1)～(9)それぞれに、○は1つ〕

	た何 度も あつ	つ1、 た、 2 度 あ	いま つた く な
(1) 命の危険を感じるくらいの暴力を受けた	1	2	3
(2) 医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた	1	2	3
(3) 医師の治療が必要とならない程度の暴力を受けた	1	2	3
(4) 大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた	1	2	3
(5) デートの費用やお金を無理やり出させられた	1	2	3
(6) 交友関係や電話・メールを細かく監視された	1	2	3
(7) 危害が加えられるのではと恐怖を感じるほどの脅しを受けた	1	2	3
(8) 何を言っても無視され続けた	1	2	3
(9) いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3

問 24 問 22 または問 23 で、ひとつでも1か2 ( ☐ 内) を選んだ方におたずねします。

問 22、問 23 であげたような行為について、これまでに誰かにうち明けたり、相談したりしましたか。〔○はいくつでも〕

1. 警 察	2. 法務局・人権擁護委員
3. 配偶者暴力相談支援センター(大阪府女性相談センター、子ども家庭センター、すいたストップDVステーション(DV相談室))	4. その他の公的機関(市役所、男女共同参画センターなど)
5. 民間の機関(支援グループなど)	6. 医療関係者(医師、看護師など)
7. 学校関係者(教員、スクールカウンセラーなど)	8. 家族、親戚
9. 友人、知人	10. その他 ( )
11. どこにも相談しなかった	→ 問 24-1 へ

**問 24-1** 問 24 で「11. どこにも相談しなかった」を選んだ方におたずねします。  
**どこにも相談しなかったのはなぜですか。[○はいくつでも]**

1. どこに（誰に）相談したらよいのかわからなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った
5. 自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った
6. 相談先の担当者の言動により不快な思いをすと思った
7. 世間体が悪い
8. 他人を巻き込みたくない
9. そのことについて思い出したくない
10. 自分にも悪いところがある
11. 相談するほどのことではないと思った
12. その他（ ）

**問 25** ドメスティック・バイオレンス(DV:配偶者や恋人など親しい人からの暴力)について、あなたが相談できる窓口としてどのようなものを知っていますか。[○はいくつでも]

- |  |                               |
|--|-------------------------------|
| 1. 警 察   | 2. 法務局・人権擁護委員                 |
| 3. 配偶者暴力相談支援センター（大阪府女性相談センター、子ども家庭センター、すいたストップDVステーション(DV相談室)） | 4. その他の公的機関（市役所、男女共同参画センターなど） |
| 5. 弁護士   | 6. 民間の機関（支援グループなど）            |
| 7. 医療関係者（医師、看護師など）   | 8. その他（ ）                     |
| 9. ひとつも知らない  |                               |

**問 26** ドメスティック・バイオレンスを防ぐためには何が必要だと思いますか。[○はいくつでも]

- |                                 |                    |
|---------------------------------|--------------------|
| 1. 法律の罰則を強化する                   | 2. 相談できるところを増やす    |
| 3. 市民に対する啓発や情報提供を行う             | 4. 加害者に対する啓発を行う    |
| 5. 被害を受けた場合に避難できる場所（シェルター）を確保する | 6. 男性も女性も、経済的に自立する |
| 7. 子どもの時から暴力否定の教育を進める           | 8. その他（ ）          |
| 9. わからない                        |                    |



**問 27 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。**

**〔○はいくつでも〕**

1. 買売春	2. 女性の働く風俗営業
3. 夫やパートナーからの妻などへの暴力（なぐる、ける、無視する、大声でどなるなど）	4. 学校や職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
5. ストーカー、ちかん行為	6. 女性のヌード写真などを掲載した雑誌
7. 女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を、内容に関係なく使用した広告など	8. 女性の容ぼうを競うミス・コンテスト
9. 「婦人」、「未亡人」のように女性にだけ用いられる言葉	10. その他（ ）
11. 特にない	12. わからない

## メディアにおける表現についておたずねします

**問 28 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどメディアにおける人権尊重において、問題だと考えられるのはどの点ですか。〔○はいくつでも〕**

1. テレビ局・新聞社・出版社・広告代理店などのメディアにかかわる事業所の社員に女性が少ないこと	2. 性・暴力を扱った表現に青少年が容易に接触できること
3. 性別役割分業を固定化するような表現がされていること	4. 男女が対等な関係で描かれていないこと
5. 女性を視覚的な対象物として扱っていること	6. 子どもを対象とする性・暴力表現がされていること
7. 女性を対象とする性・暴力表現がされていること	8. その他（ ）
9. わからない	

**問 29 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどメディアにおける性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。〔(1)～(5)それぞれに、○は1つ〕**

	その通りだ と思う	どちらか と そう 思 う	どちらか と そう 思 わ ない	そう 思 わ ない	わ か ら ない
(1) 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている	1	2	3	4	5
(2) 性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ	1	2	3	4	5
(3) 社会全体の性に関する道德感・倫理観を損なうおそれがある	1	2	3	4	5
(4) 女性に対する犯罪を助長するおそれがある	1	2	3	4	5
(5) 性・暴力表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない	1	2	3	4	5

問 30 テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどメディアにおける性・暴力表現について制限をする場合、どのような方法で制限するのがよいと思いますか。〔○はいくつでも〕

1. メディア、制作会社や業界団体による自主規制
2. インターネットにアクセスするためのサービスを提供している接続業者において、有害なサイトへのアクセスを制限
3. インターネット上の違法・有害なサイトにアクセスできないようにする（フィルタリング機能）など、受け手側が制限
4. 違法・有害情報に関する通報・相談窓口の活用促進
5. 行政機関によるメディアや制作会社への指導・啓発の促進
6. 法改正や新しい法律の制定による規制
7. 特に制限の必要はない
8. その他（ ）
9. わからない

男女共同参画社会の実現についておたずねします

「男女共同参画社会」とは、男女が、お互いにその人権を尊重しながら、性別にかかわらず、社会のあらゆる分野に共に参画し、責任も分かち合い、個性と能力を十分に発揮できる社会をいいます。

問 31 この男女共同参画社会を推進していくために、今後どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。〔○はいくつでも〕

1. 男女平等を目指した制度や施策の制定や見直しを行う
2. 女性を政策決定の場に積極的に登用する
3. 地域で活動する女性のリーダーを養成する
4. 職場における男女の均等な取り扱いについて啓発し、徹底を図る
5. 妊娠や出産に関わる機能を保護するための施策を充実する
6. 女性の就労の機会を増やしたり、女性の職業教育や職業訓練を充実する
7. 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の介護施設・サービスを充実する
8. 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
9. 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などを充実する
10. 各国の女性との交流や情報提供など、国際交流を推進する
11. 新聞・テレビなどの各メディアに対し、男女平等を働きかける
12. 女性に対する暴力防止のための施策を充実する
13. その他（ ）
14. 特にない
15. わからない

**問 32 次の「ことがら」や「ことば」をご存じですか。〔(1)～(17)それぞれに、○は1つ〕**

	い よ く 知 っ て	が 聞 あ い た こ と	た 知 ら な か っ
(1) 吹田市男女共同参画推進条例	1	2	3
(2) すいた男女共同参画プラン	1	2	3
(3) 女子差別撤廃条約	1	2	3
(4) 男女雇用機会均等法	1	2	3
(5) 育児・介護休業法	1	2	3
(6) 男女共同参画社会基本法	1	2	3
(7) DV防止法（配偶者からの暴力防止及び被害者保護等に関する法律）	1	2	3
(8) ストーカー規制法	1	2	3
(9) メディア・リテラシー（メディアからの情報を読み解く能力）	1	2	3
(10) リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	1	2	3
(11) ジェンダー（社会的、文化的性差）	1	2	3
(12) ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親しい人からの暴力）	1	2	3
(13) セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	1	2	3
(14) ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）	1	2	3
(15) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
(16) すいたストップDVステーション（DV相談室）	1	2	3
(17) 吹田市自治基本条例	1	2	3

## 吹田市立男女共同参画センター デュオについておたずねします

「吹田市立男女共同参画センター デュオ」は、男女共同参画の推進に関する施策を実施し、市民及び事業者による男女共同参画の推進に関する取り組みを支援するための拠点施設です。

問 33 あなたは、吹田市立男女共同参画センター デュオを知っていますか。〔〇は1つ〕

1. 知っている

2. 知らない ……→ 問 34 へ

↓ 問 33-1 へ

問 33-1 あなたは、吹田市立男女共同参画センター デュオを利用したことがありますか。

〔〇は1つ〕

1. 利用したことがない

2. 利用したことがある ……→ 問 34 へ

↓ 問 33-2 へ

問 33-2 利用したことがないのは、なぜですか。〔〇はいくつでも〕

1. 交通が不便

2. 利用したい時間(曜日)に開館していない

3. 参加したい講座等がない

4. 利用したい情報等がない

5. 利用したい部屋・設備がない

6. 男女共同参画センターについての情報がない

7. 場所がわからない

8. 抽選にあたらぬ

9. その他 ( )

10. 特に理由はない

問 34 吹田市立男女共同参画センター デュオではさまざまな講座を開催しています。次のテーマの中で、興味のあるテーマがあれば選んでください。〔〇は3つまで〕

1. 料理や木工など、技術を身につける

2. 親子で参加

3. 地域活動支援

4. 法律・経済・労働など、知識を深める

5. キャリアアップ・就労支援

6. 健康・くらし・環境

7. 文化・芸術・表現

8. 福祉・介護

9. 家庭・子育て

10. 暴力

11. その他 ( )

男女共同参画に関することで、吹田市へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

最後までアンケートにご回答いただきまして、誠にありがとうございました。  
お手数ですが、返信用封筒に入れて**10月31日(土)**までにご投函ください。



平成 27 年度（2015 年度）  
男女共同参画に関する市民意識・実態調査  
報告書

平成 28 年（2016 年）3 月

吹田市人権文化部 男女共同参画室  
〒564-8550 大阪府吹田市泉町 1 丁目 3 番 40 号